

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

令和7年度

(2025年)

大 学 院 学 生 便 覧

國學院大學大学院

大学院事務課からのお知らせについて

大学院事務課からのお知らせは、学生支援システム「K-SMAPY II (※)」及びMicrosoft SharePointを通じて行います。これらのシステムで通知された内容については、すべて確認済みとみなしますので、必ず定期的にアクセスして内容を確認してください。

また、必要に応じてK-SMAPY IIに登録されている個人メールアドレス宛てに連絡する場合があります。大学院からのお知らせを確実に受け取れるよう、必ず最新のメールアドレスを登録しておいてください。

K-SMAPY II へのアクセスは、大学ホームページにアクセスし、画面左下にある「学生支援システム K-SMAPY II」のボタンをクリックしてください。K-SMAPY II のログイン画面が表示されます。

<https://www.kokugakuin.ac.jp/> (國學院大學ホームページ)



※Kokugakuin university Supporting system for Making Academic Plans and Yearly schedule IIの略、「ケースマッピーツー」と呼ぶ。

K-SMAPY II 及びMicrosoft SharePointの利用方法は、『K-SMAPY II 大学院学生用マニュアル』及び『SharePoint ログインマニュアル』をご参照ください。これらのマニュアルは、國學院大學ホームページからの閲覧が可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 在学生の方へ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/curriculum#03>



『大学院学生便覧』の取扱いについて

『大学院学生便覧』は、大学院学則に基づき、各研究科ごとの履修すべき授業科目や単位に関する履修規程を説明したものです。原則として、特別な指示がない限り、この学生便覧に従って修了まで授業科目を履修することになります。修了までの間、大切に保存し、適宜活用してください。

なお、『大学院学生便覧』は毎年度4月に配布しますが、各研究科及び各種資格、教育職員免許状に関する修了要件、履修方法、カリキュラム表については、特別な指示がない限り、入学年度に発行された『大学院学生便覧』に記載された規程が適用されますので、必ずご確認のうえ、履修を進めてください。

『大学院学生便覧』は、國學院大學ホームページから閲覧することができます。また、配布後に内容の変更や訂正が生じた場合は、大学ホームページでお知らせしますので、定期的に以下のURLの内容を確認するよう心がけてください。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 在学生の方へ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/curriculum#03>



大学院学年暦について

本学では、前期・後期の2学期制（セメスター制）を採用しています。大学院の行事や授業の年間スケジュールをまとめた学年暦は、國學院大學ホームページから閲覧が可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 在学生の方へ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/curriculum#02>



教科書の購入について

教科書は、國學院大學生協で購入することができます。教科書購入の詳細は、國學院大學生協ホームページからご確認ください。また、授業科目によっては、担当教員から別途購入方法が指定された教科書が必要となる場合もあります。その場合は、当該教員の指示に従ってください。

（掲載場所）

國學院大學生協ホームページ：

トップページ > 教科書販売について

<https://www.kgucoop.or.jp/kyokasho.html>



学修支援における個人情報の取扱いについて

平成29年5月30日より「改正個人情報保護法」が施行されました。國學院大學では、在学生のみならず、保護者（保証人）、卒業生（修了・所定単位修得退学者）、教職員などの個人情報を適切に取り扱うため、「國學院大學個人情報保護方針」及び「個人情報保護に関する規程」を定め、個人情報の保護に取り組んでいます。

大学院事務課では、成績などのセンシティブな情報を扱うにあたり、この保護方針及び規程を遵守するとともに、「学業および成績評価にかかわる学生個人情報の取扱いに関するガイドライン」を策定し、適正な取り扱いと安全管理に努めています。また、個人情報は、法令の規定に基づく場合を除き、あらかじめ本人の同意を得ず第三者へ提供しません。個人情報保護の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > 個人情報の保護

<https://www.kokugakuin.ac.jp/privacy>



学費等納付金について

学費及び諸費は、半期ごとの分納を原則としています。ただし、やむを得ない事情により所定の期日までに納入ができない場合は、事前に大学院事務課へ申し出てください。学費等納付金の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > 在学生・保証人（ご父母等）の方へ > 学費・奨学金 > 学費等納付金

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/scholarship/p1>



学 長 針 本 正 行

大 学 院 委 員 会 委 員

大 学 院 委 員 長	教 授	佐 藤 長 門
代 表 幹 事	教 授	吉 田 永 弘

文学研究科委員長	教 授	佐 藤 長 門
文学研究科幹事	教 授	吉 田 永 弘
研究科選出委員	教 授	遠 藤 潤

法学研究科委員長	教 授	一 木 孝 之
法学研究科幹事	教 授	高 橋 信 行
研究科選出委員	教 授	川 合 敏 樹

経済学研究科委員長	教 授	細 井 長
経済学研究科幹事	教 授	細 谷 圭
研究科選出委員	教 授	高 橋 克 秀

大 学 院 年 譜

修 = 修士課程 博 = 博士課程

昭和26年 (1951年)	文学研究科	神道学専攻 (修)	日本文学専攻 (修)
昭和27年 (1952年)	文学研究科	日本史学専攻 (修)	
昭和28年 (1953年)	文学研究科	日本文学専攻 (博)	日本史学専攻 (博)
昭和33年 (1958年)	文学研究科	神道学専攻 (博)	
昭和42年 (1967年)	法学研究科	法律学専攻 (修)	
昭和43年 (1968年)	経済学研究科	経済学専攻 (修)	
昭和44年 (1969年)	法学研究科	法律学専攻 (博)	
昭和45年 (1970年)	経済学研究科	経済学専攻 (博)	

昭和50年 (1975年) 各研究科 (専攻) とともに修士課程を博士前期課程に、博士課程を博士後期課程にそれぞれ改称

平成18年 (2006年)	文学研究科日本史学専攻を文学研究科史学専攻に名称変更
平成19年 (2007年)	文学研究科日本文学専攻を文学研究科文学専攻に名称変更
平成20年 (2008年)	文学研究科神道学専攻を文学研究科神道学・宗教学専攻に名称変更

目 次

はじめに	1
第1章 國學院大學で研究活動を行う皆さんへ	6
第1節 「研究倫理」(研究者が理解し、身につけておくべき心得)について	6
第2節 学生証等について	7
第3節 奨学金の申請手続き	8
第4節 研究用複写補助及び複写機の利用について	9
第5節 事務取扱い時間について	10
第6節 就職相談及びキャリアパスについて	11
第1項 就職相談	11
第2項 文学研究科のキャリアパス	11
第3項 法学研究科のキャリアパス	14
第4項 経済学研究科のキャリアパス	15
第7節 研究室、演習室、学生共同研究室・文献資料室、校舎配置図	16
第2章 大学院における学修	18
第1節 履修登録上の留意点	18
第2節 休講について	18
第3節 学位申請論文	19
第4節 最終試験	20
第5節 単位の認定・成績通知	21
第6節 単位互換制度	22
第3章 文学研究科	23
第1節 教育研究上の目的、学位授与及び教育課程の編成・実施方針	23
第2節 博士前期課程(文学研究科)	26
第1項 修了要件及び修士学位申請論文	26
第2項 履修方法	27
第3項 開講講座表	31
第3節 博士後期課程(文学研究科)	40
第1項 後期課程修了要件	40
第2項 修了必要単位数、論文指導演習、博士学位申請論文	40
第3項 開講講座表	42
第4章 法学研究科	47
第1節 教育研究上の目的、学位授与及び教育課程の編成・実施方針	47
第2節 博士前期課程(法学研究科)	48
第1項 修了要件、修士学位申請論文	48
第2項 履修方法	48
第3項 開講講座表	49
第3節 博士後期課程(法学研究科)	52
第1項 後期課程修了要件	52
第2項 修了必要単位数、履修方法、博士学位申請論文	52
第3項 開講講座表	53
第5章 経済学研究科	56
第1節 教育研究上の目的、学位授与及び教育課程の編成・実施方針	56
第2節 博士前期課程(経済学研究科)	57
第1項 修了要件、修士学位論文	57
第2項 履修方法	58

第3項 開講講座表.....	59
第3節 博士後期課程（経済学研究科）.....	61
第1項 後期課程修了要件.....	61
第2項 修了必要単位数、履修方法、博士学位申請論文.....	61
第3項 開講講座表.....	63
第6章 高度博物館学、考古調査士、教育職員免許状.....	65
第1節 高度博物館学教育プログラム.....	65
第2節 考古調査士資格.....	68
第3節 教育職員免許状（大学院学則第39条）.....	68
第7章 学籍に関する届け出、証明書等.....	73
第1節 各種変更届について.....	73
第2節 休学・復学・退学・再入学について.....	73
第3節 長期履修制度.....	73
第4節 博士前期課程9月修了について.....	74
第5節 学割証・健康診断証明書の交付について.....	74
第6節 各種証明書の交付について.....	75
第8章 國學院大學大学院学則及び諸規程.....	77
第1節 國學院大學大学院学則.....	77
第2節 諸規程.....	77

はじめに

國學院大學大学院委員長

佐藤 長門

大学院委員長挨拶

この『大学院学生便覧』（以下、『学生便覧』と表記）は、大学院生等が学修するにあたり必要となる大学院学則や諸規程、内規などを示したもので、ここに記されているルールにもとづいて、大学院生等への身分保証や授業運営がおこなわれます。規程や内規については、大学院生が安心して学修できるようにするため、必要に応じて改訂をおこなっていますが、少なくともこの1年は本『学生便覧』に従って大学院が運営されていくので、手元に置いて随時参照してください。

23ページからは履修要項が記されており、各研究科の専攻・コースや博士前期・後期課程における修了までに必要な単位数、その認定方法、研究倫理についての諸注意、開講科目や担当教員などの情報がまとめられています。大学院生が学部生と最も異なるのは、自分が研究した内容を学界あるいは一般社会に向けて、実際に発表する機会が出てくることです。当然、そこには研究上の高い倫理性が求められます。「自分はまだ学生だから」といった甘えは許されません。6ページの研究倫理についての記載は、その意味でとても重要です。論文執筆の際には、必ずこの箇所を読み返しましょう。

もしこの『学生便覧』を読んでも、よく理解できないところがあったり、また精神的に不安を覚えたりした際には、遠慮なく大学院事務課を訪ねてきてください。本学大学院の教職員はともに、みなさんの学修が前に進むことを願い、その手助けをおこないます。さあ、一緒に学んでいきましょう。

建学の精神

明治維新の際、わが国の急務は、まず、世界の先進国に追いつくことでした。欧米諸国の思想、文化、体制の導入を急ぐあまり、欧化万能の風潮が日本全土を覆い、日本古来の思想・文物が顧みられない状態となっていました。しかし一方、わが国が独立を全うし、国家の発展を将来に期するためには、思想も文化も体制も、単に欧風の模倣でなく、わが国の歴史・民族性に基づくものでなければならないという気運が興り、國學院大學の母体である皇典講究所は、このような反省の気運を背景として、明治15年に創立されました。11月4日の開闢式当日、有栖川宮幟仁親王は、初代総裁として教職員・生徒に対して、次のような告諭を述べられました。

「凡學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ故ニ國體ヲ講明シテ以テ立國ノ基礎ヲ鞏クシ徳性ヲ涵養シテ以テ人生ノ本分ヲ盡スハ百世易フベカラザル典則ナリ而シテ世或ハ此ニ暗シ是レ本質ノ設立ヲ要スル所以ナリ」

國學院大學建学の精神はこの告諭の「本ヲ立ツル」ことを基底としています。元学長芳賀矢一博士作詞の校歌は、この精神を正しくうたい、この建学の精神こそ、本学の学問研究・人間教育を特色づけるものです。

大学院基本研究教育方針（大学院憲章）

学統の継承・発展と創新

本学学術資産への理解を基に、学統の継承・発展そして新たな創造を企図する。

研究倫理確立を通じた人格の陶冶

研究倫理・法令の遵守・人権の保護を徹底し、それらを基盤とする人格の陶冶に努める。

研究能力の飽くなき向上

創新・企画・協調・遂行の資質の涵養によって、国際化に対応する研究能力の向上を図る。

学知の拡大と連携

関連領域のない学問は存在しない。よって学知の拡大を企図し、より高度な専門知識の獲得の上に、多様で柔軟な隣接領域への学知の拡大を推進する。

研究成果の発信と社会還元

学修成果の可視化、研究成果の発信を積極的に推進する。

教育研究上の目的

本大学院は、法令の遵守・人権の保護を徹底して研究倫理を確立し、教学を通じて人格の陶冶に努める。それを基盤として、神道学・宗教学・文学・民俗学・史学・法学・経済学に関する専門分野を教授・研究し、自立して研究活動を行う者及び専門的な業務に従事する者の高度な研究能力と豊かな学識を涵養し、人類文化の進展に寄与することを目的とする。

人材育成の方針

國學院大學は、神道精神（主体性を保持した寛容性と謙虚さ）を教育目的の基礎に置いています。この神道精神をもとに、多様化する社会で有為な人材となるために必要な知識・技能、市民的教養と社会人力、多文化に対する適応力を備えた、主体性を持ち、自立した「大人」を育成します。

博士課程教育実施方針（3つのポリシー）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）

博士前期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得し、専門的知識を自らのものとするとともに、主体的に研究課題を定め、これに関する諸研究の検討を行い、新たな知見を加えた修士論文・リサーチペーパーあるいはプロジェクト・ペーパーを提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す修士号を授与する。

博士後期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得するとともに、その分野の研究動向を理解した上で、独自の見解を含む博士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、その分野で継続的な研究が行い得ると認定された者に、その専攻分野を示す博士号を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士号を授与する。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

大学院の設置目的を実現するために文学、法学、経済学の3研究科を置き、大学院学生が、学知を主体的に選択して、自己の研究に取り組む能力を涵養し、研究指導・方法の多様性と、自己の意志に基づく自由な選択を保障することを方針として教育課程を編成する。この方針に基づいて、全研究科を通じて開講科目を全セメスター化とし、博士前期課程と博士後期課程とを一貫させた教育課程として設ける。また、各研究科ごとに演習、論文指導演習、研究指導、専門講義科目あるいはワークブック科目、アカデミック・ライティングなどを設置するとともに、複数の教員による指導制を確立する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

大学院ならびに各研究科設置の目的と合致する、積極的な目的意識や志向性を有するとともに、研究科の学修ならびに研究に必要な基礎的な知識や能力などを備えていることを受入れ方針としている。また、学士課程（学部）修了者を対象とする一般入学に加え、学士課程（学部）において優秀な成績を修めている多様な入学制度を設けることで、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大をはかることを方針としている。

科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目を適切な番号で分類することで、学修の段階や順序、授業科目間の関係性を示し、教育課程の体系性を明確にする重要な情報です。この仕組みにより、授業科目の対象とするレベルや学問分野が明示され、履修計画を立てる際の指針として活用することができます。

科目ナンバリングの構成

本学が開講する授業科目に、以下の定義に基づいた科目ナンバーを付番しています。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
課程・研究科・専攻等	レベル	学問分野	主要授業科目	整理番号	授業形態	使用言語

① 課程・研究科・専攻等

授業科目を開講する課程・研究科・専攻等をアルファベット2文字で示しています。

課程・研究科・専攻等	コード
大学院博士前期課程	文学研究科 神道学・宗教学専攻
	文学研究科 文学専攻
	文学研究科 史学専攻
	法学研究科 法律学専攻
	経済学研究科 経済学専攻
大学院博士後期課程	文学研究科 神道学・宗教学専攻
	文学研究科 文学専攻
	文学研究科 史学専攻
	法学研究科 法律学専攻
	経済学研究科 経済学専攻

② レベルコード表

授業のレベルを数字1桁で示しています。

レベルの目安	レベル
大学院（博士前期） 基礎的な内容の科目	5
大学院（博士前期） 発展的な内容の科目	6
大学院（博士後期） 専門科目、研究指導科目	7
レベル分けに適さない科目	9

③ 学問分野コード表

学問分野をアルファベット2文字で示しています。

区分A 思想、芸術およびその関連分野
コード 学問分野
AC 宗教学関連
AD 思想史関連
AE 美学及び芸術論関連
AF 美術史関連
AJ 神道学関連

区分B 文学、言語学およびその関連分野
コード 学問分野
BA 日本文学関連
BB 中国文学関連
BE 文学一般関連
BF 言語学関連
BG 日本語学関連
BK 中国語学関連
BL 日本語教育関連
BM 国語教育関連
BU 伝承文学関連

区分C 歴史学、考古学、博物館学およびその関連分野
コード 学問分野
CA 史学一般関連
CB 日本史関連
CC アジア史及びアフリカ史関連
CD ヨーロッパ史及びアメリカ史関連
CE 考古学関連
CF 文化財科学関連
CG 博物館学関連

区分D 地理学、文化人類学、民俗学およびその関連分野
コード 学問分野
DA 地理学関連
DB 人文地理学関連
DC 文化人類学及び民俗学関連

区分E 法学およびその関連分野	
コード	学問分野
EA	基礎法学関連
EB	公法学関連（憲法関連）
EC	公法学関連（行政法関連）
ED	公法学関連（その他）
EE	国際法学関連
EH	刑事法学関連（刑事手続法関連）
EI	刑事法学関連（犯罪学関連）
EJ	刑事法学関連（その他）
EK	民事法学関連（民法関連）
EL	民事法学関連（商法関連）
EM	民事法学関連（民事手続法関連）
EN	民事法学関連（その他）

区分F 思想、芸術およびその関連分野	
コード	学問分野
FA	政治学関連
FB	国際関係論関連
FE	行政学関連
FF	政治史関連

区分H 思想、芸術およびその関連分野	
コード	学問分野
HA	理論経済学関連
HB	経済学説及び経済思想関連
HC	経済統計関連
HD	経済政策関連
HE	公共経済及び労働経済関連
HF	金融及びファイナンス関連
HG	経済史関連
HH	経営学関連
HI	会計学関連

区分I 思想、芸術およびその関連分野	
コード	学問分野
IA	教育学関連
ID	教科教育学及び初等中等教育学関連

区分N 思想、芸術およびその関連分野	
コード	学問分野
NA	導入演習関連
NC	演習関連
NF	論文指導演習関連

④ 主要授業科目コード表

主要授業科目をアルファベット1文字で示しています。

主要授業科目	コード
教育課程上主要と認める授業科目	M
上記以外の授業科目	A

⑤ 整理番号表

科目ナンバーを一意にするために、各学問分野コードに00から99までの番号を自動的に割り当てています。

⑥ 授業形態コード表

授業形態を数字1桁で示しています。

コード	授業形態
1	講義
2	演習
3	実習／実技
4	実験
5	メディア授業
6	2 つ以上の形態（上記 1～5 の組合せ）の併用
7	卒業論文／卒業研究／卒業制作／論文指導／研究指導
9	その他

⑦ 使用言語コード表

使用言語をアルファベット 1 文字で示しています。

コード	使用言語 (※)
J	日本語のみ
E	英語のみ
A	英語以外の外国語のみ
M	日本語と英語の併用
N	日本語と英語以外の外国語の併用
Z	その他

(※) 授業で教授する際に使われる言語を指す

科目ナンバーは、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 在学生の方へ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/curriculum#04>



第1章 國學院大學で研究活動を行う皆さんへ

第1節 「研究倫理」（研究者が理解し、身につけておくべき心得）について

学部生や大学院生も、研究活動を行うときは研究倫理を守らなければなりません。不正行為は、いかなる理由によっても認められません。もし、不正行為を行えば、あなた自身のみならず、國學院大學の信頼をも揺るがすことになります。

不正行為とは？

「不正行為」の典型例は、発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果などの捏造、改ざん及び盗用です。

1. 捏造

研究活動において、存在しないデータ、研究結果等を作成すること。

2. 改ざん

研究活動において、研究資料又は過程を変更する操作を行い、データ又は研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

3. 盗用

研究活動において、他の者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語をその者の了解又は適切な表示なく流用すること。

上記のほかに、國學院大學では以下の3つも、不正行為として定めています。

4. 研究データの保存の懈怠（けたい）

研究に関する資料等の適切な保存を怠ること。発表した研究成果に対して、不正の疑念が持たれた場合に、その疑念を晴らすことができるように、成果の根拠となった資料等は、しっかりと保存しておきましょう。

5. 二重投稿

同一内容の論文をすでに公表した紀要（大学や研究所等で発行する学術雑誌）、雑誌又は書籍等とは異なるところで発表すること。ただし、再録である旨を明確に表示した上で公表する場合は不正行為の対象にはなりません。

6. 不適切なオーサーシップ

論文の作成になんら関与又は貢献していない者が、執筆者又は共同執筆者として名前を連ねることは許されません。逆に、論文の作成に関与又は貢献した者が、執筆者又は共同執筆者として名を連ねないことも、許されません。

研究活動における具体的な注意事項

1) 調査・実験などの依頼にあたって

インフォームド・コンセント（「十分な情報を提供した上での同意」のこと）の原則に立って研究活動を行うことが必要です。

具体的には、以下の項目について、事前に明確に伝えた上で相手方の了解を得るようにしましょう。

- ① 調査・実験の目的
- ② 調査・実験の主体、責任者、連絡先
- ③ 調査・実験結果の利用・発表の方法
- ④ 秘密保持及び目的外使用をしないことの約束
- ⑤ 調査・実験への協力を拒否しても、不利益を被ることはないことの保証

なお、未就学児等で本人の理解や了解を得ることが難しい場合には、ご家族や施設の職員の方など、その代理人となりうる立場の方の了解を得ることが必要です。また、調査票による調査を行う際には、上記の各項目についてわかりやすく明記した文書を添付するのが原則です。

2) 調査・見学などの実施にあたって

① 学校・施設等の見学や活動への参加について（教育実習等を含む）

写真撮影や録音の際は、必ず学校や施設の関係者の許可を得てください。また、許可が得られたとしても、個人が特定されるような写真等の記録は避けてください。

学校や施設見学の際に、個人情報が含まれる記録・資料などを見せていただく場合、そこで知れた個人情報については決して漏らしてはいけません。報告書等にその記録・資料の内容について何らかの言及をしたい場合は、何をどこまで記載してよいかについて、事前の了解を得ることが必要です。

② 聞き取り調査について

何気ない質問や言葉が当事者の心理に影響を与えることがあるということを意識し、事前に質問の内容や聞き方等について十分に検討してください。自分だけでは判断に迷う場合には、担当の教員に事前に相談してください。聞き取りの際にメモを取ったり、録音をしたりする場合には、事前に了解を得ましょう。当事者や調査協力者の方の氏名や役職名、伺った内容やいただいた資料の内容をどこまで公開してよいか、必ず調査時に相談して確認・指示を受けるようにしてください。

③ 調査票を用いた調査について

質問文や選択肢が協力者の感情を害さないように、十分な注意を払ってください。

3) 調査データの集計や分析にあたって

調査で収集したデータの集計や分析の過程において、データの転記ミスや集計ミスのないように、十分な注意を払い、確認をしながら作業を進めることが大切です。

4) 発表・公開やデータ・資料の管理・廃棄にあたって

発表・公開にあたっては、結論の正確さ、妥当性の検討に加えて、個人情報保護の観点に立った、全面的なチェックが必要です。

発表した報告・論文において個人情報を掲載する場合は、必ず事前に該当者から承諾を得なければなりません。また、個人情報の流出は、報告・論文の作成の途中で、調査・実験データの管理が不十分なために起こる可能性もあります。調査・実験の実施中に対象者リストや資料を紛失したり、データの整理分析中に情報漏えいが起こらないように、十分注意してください。

なお、研究成果を学術雑誌等で発表した場合、そこで使用した研究データについては、文献等であれば10年間、生物試料等であれば5年間の保存が求められます。また、定められた保存期間が過ぎた後の文献やデータ廃棄の際には、万が一の漏えいが起こらないように、必ずシュレッターにかける、コンピュータのハードディスク等のファイルの削除を行うなど、細心の注意を払ってください。

第2節 学生証等について

学生証（正規学生）

新入生には、入学手続き時に提出した学生証用写真を貼付し、所属・学籍番号・氏名・生年月日が印刷された学生証を、入学式終了後に交付します。裏面には氏名と住所が印字されたシールが貼付されています。学生証は、学生研究室や図書館への入館時に必要となりますので、登校時には必ず携帯してください。また、教職員から提示を求められた場合は、速やかに提示しなければなりません。

在学生は、新年度のガイダンス時に大学院事務課窓口で裏面シールを受け取り、学生証の更新を行う必要があります。

身分証（正規学生以外の在籍者）

科目等履修生・特別研究生・聴講生・委託特別聴講生・交換留学生、及び特別研究員には、身分証明書が交付されます。この身分証は、図書館の入館時に必要となるほか、教職員から提示を求められた際には、速やかに提示を行う義務があることから、登校時には必ず携帯してください。なお、身分証は当該年度終了時に大学院事務課へ返却する必要があります。

学生証・身分証の再発行

学生証や身分証を盗難あるいはその他の理由で紛失した場合、直ちに所轄の警察署及び大学院事務課に届け出た上で、再発行手続きを行ってください。

（学生証等再発行料金）再発行には通常1週間を要します。

●汚損等の場合……………1,000円

●紛失の場合……………2,000円

（仮学生証等再発行料金）当日発行

●当日有効証明証……………200円

第3節 奨学金の申請手続き

本学大学院奨学金

本学では、経済支援型奨学金と学業奨励型奨学金の2種類の奨学金を提供しています。奨学金の詳細については、下段に記載のホームページを必ず確認してください。

日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構は、日本国内の大学等で学ぶ学生に対し、適切な修学環境の整備を通じて、次代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的な人材を育成し、国際相互理解の促進に寄与することを目指しています。

日本学生支援機構の奨学金は貸与奨学金であり、貸与終了後には返還の義務が生じます。返還は毎月決められた金額を支払う必要があるため、申請にあたっては、各自の経済状況や将来の生活設計を十分に考慮の上で申し込んでください。

奨学金の種類は、以下の3つです。

- 第1種奨学金（無利子）
- 第2種奨学金（有利子）
- 第1種・第2種併用奨学金

その他の奨学金

本学大学院奨学金及び日本学生支援機構奨学金を含む奨学金の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > 受験生 > 大学院受験希望の方へ > 学費等納付金／奨学金

<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p2-2>



第4節 研究用複写補助及び複写機の利用について

利用方法

- ① 大学院生専用コピー機の利用
各自が作成した資料を用いて授業時に発表する場合や、個人の研究・調査資料の複写は、若木タワー6階に設置された「大学院生専用コピー機」を利用できます。
- ② コピー機の管理
コピー機は本学生協が管理しています。コピー用紙やトナーが不足した場合、またはその他のトラブルが発生した際は、コピー機に貼付されている連絡先もしくは大学院事務課にお問い合わせください。
- ③ 図書館での文献コピー
図書館内の専用コピー機を使用して、文献のコピーが可能です。

コピーカードの取り扱い

- ① カードの取り扱い注意
コピーカードは磁気が弱いため、他の磁気カード（ICカード等）と重ねないように、取扱いには十分注意してください。
- ② カードの補充
配布されたカードを使い切った場合は、本学生協で追加購入できます（100度数：700円）。

第 5 節 事務取扱い時間について

大学院事務課の事務取扱い時間は、以下のとおりです（日曜・祝日を除く）。

○授業実施期間

月～金 ：午前 9 時00分～午後 6 時00分

土 ：午前 9 時00分～午後 5 時00分

休止時間：午後 0 時50分～午後 1 時50分

○夏季休暇期間（※）

月～金 ：午前 9 時00分～午後 5 時00分

休止時間：午後 0 時50分～午後 1 時50分

※土曜日及び一斉休暇期間は事務休止

○冬季休暇期間（※）

年末から年始（授業再開前日）は事務休止

○授業終了期間（2 ～ 3 月）（※）

月～土 ：午前 9 時00分～午後 5 時00分

休止時間：午後 0 時50分から午後 1 時50分

（※）夏季休暇、冬季休暇、及び授業終了期間中の事務取扱い時間については、ホームページを確認してください。

第6節 就職相談及びキャリアパスについて

第1項 就職相談

大学院生向けの就職相談は、キャリアサポート課（百周年記念館1階）及び教職センター（百周年記念館1階）で実施しています。資料コーナーにある求人情報や求人票ファイル等は、学部学生と同様に自由に閲覧できます。ただし、大学院生を対象とした求人は限られているため、外部の情報も積極的に収集し、就職活動を行うことが推奨されます。また、若木タワー6階の掲示板には、大学教員・研究者の募集情報を掲示しています。

第2項 文学研究科のキャリアパス

神道学・宗教学専攻

●多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

神道学・宗教学においては、学生が自ら設定したテーマを深く追究し専門性を高めていくことと神道文化・宗教文化についての幅広い知見を能動的に獲得していくことの双方が必要とされる。本専攻では、さまざまな研究テーマを持つ専任教員による演習を用意して前者を可能にするとともに、講義として神道学・宗教学の多様なテーマに関する選択科目を用意することで、後者の課題に対応している。学生が適切な教員を選択できるように、博士前期課程の第1セメスターでは、専任教員全員が各自の研究内容を具体的に紹介するオムニバス形式の演習を実施している。学生には、学部の卒業後すぐに大学院に進んだ学生のみならず、いったん社会におけるさまざまな活動を経験した者や、家事・子育てなどに従事してきた者、また現在仕事や家庭での諸活動に従事している者が少なからず含まれている。また、数は多くないが海外からの留学生とともに学んでいる。

●博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

博士前期課程修了者は、神社界では神道学・宗教学に関する調査・研究能力を身につけた人材として評価され、全国の神社の神職、神社本庁および都道府県神社庁の職員などに採用される者が少なくない。なかでも、学部の明階総合課程修了者または博士前期課程在籍時に専攻課程Ⅱ類を修了し神社本庁の定める審査に合格した者は、神職階位（明階）を有する者として神社に奉職することが可能である。

学部または大学院で学芸員資格を取得した者のなかには、博物館の学芸員として活躍している者もいる。

教職免許を取得した者には、中学校（中学社会）・高等学校（公民・地歴）の教員となる者もいる。神道を中心とした日本文化の理解、宗教文化を焦点とした世界の政治・経済・文化の把握方法は、これら教育の現場に資するところも大きいと思われる。

一般企業に就職する者も多くいる。修了者が人文学の研究を理解する能力があること、また神道文化・宗教文化を知悉していることを考えれば、今後出版やマスコミの世界に進む者が増えることも期待される。また、海外では観光業において宗教文化に関する幅広い知識の必要度が高く、今後、国内の観光業でもその傾向が強まるとされる。また、現代社会において人生儀礼の多様化が進行する中で、運営する側では国内外の諸儀礼についての深い理解が求められる。これらの点から、観光業や冠婚葬祭に関わる業種も、本専攻での学修を具体的に生かせる進路として期待される。

公務員については、社会教育関係を含め国家公務員・地方公務員（都道府県・市町村）の専門職・総合職などにおいて、神道学・神道文化や宗教学・宗教文化の専門知識を十分に生かせるため、将来的に実績が拡大してよい進路と考えられる。

●博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

博士後期課程修了者は、神社界では神道学・宗教学に関していっそう高度な調査・研究能力を身につけた人材として評価され、全国の神社の神職、神社本庁および都道府県神社庁の職員などに採用される者が少なくない。とりわけ、学位を取得した者に対する斯界の期待は大きい。博士前期課程と同じく、学部の明階総合課程修了者または大学院在籍時に専攻課程Ⅱ類を修了し神社本庁の定める審査に合格した者は、神職階位（明階）を有する者として神社に奉職することが可能である。

学部または大学院で学芸員資格を取得した者のなかには、博物館の学芸員として活躍している者もある。

一般企業に就職する者も多くいる。修了者が人文学の研究を理解する能力があること、また神道文化・宗教文化を知悉していることを考えれば、出版やマスコミの世界も進路としての可能性が高い。また、今後拡大が予想される観光業は、神道・仏教をはじめ宗教的なものの考え方にいたる形で日本や世界の宗教文化を理解している本専攻出身者の重要な進路のひとつとなりうる。冠婚葬祭に関わる業種も、国内外の儀礼文化を深く学ぶ本専攻での学修を具体的に生かせる進路として期待される。

公務員については、社会教育関係を含め国家公務員・地方公務員(都道府県・市町村)の専門職・総合職などにおいて、神道学・神道文化や宗教学・宗教文化の専門知識を十分に生かせるため、将来的に実績が拡大してよい進路と考えられる。

文学専攻

●多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

文学専攻には、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学、高度国語・日本語教育の五つのコースがあり、理論と実践を兼ね備えた多彩な教育研究活動を展開している。前期課程一年次ではコース別の基礎理論を学び、また文学専攻共通科目のオムニバス授業で他のコースの学びについても知ることができる。研究指導を担当する教員は、高度な専門的学識を有する研究者と、それに加えて高等学校の教育経験を有する教員や、博物館学芸員の経験を有する教員もあり、実践的な面も補完できている。学生も多用であり、國學院大學の新卒者だけではなくさまざまな大学の卒業生が入学しており、また長く高校教員を勤めてきた者や、実社会で働いてきた者なども入学している。

●博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

中学・高校の教員、博物館の学芸員、宮内庁書陵部の専門職員、大学図書館の司書、専門出版社の編集者など、大学院で学んだ専門的知識・能力を生かした職業に従事している。

●博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

大学・短期大学・高等専門学校の教員、研究所（国文学資料館、国立国語研究所、国立歴史民俗博物館など）や各種研究機関の研究員といった研究職に就く者の他、中学・高校の教員、博物館の学芸員、宮内庁書陵部の専門職員、大学図書館の司書、専門出版社の編集者など、大学院で学んだ専門的知識・能力を生かした職業に従事している。

◎日本文学コース

●多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

日本文学コースは、上代・中古・中世・近世・近現代の五つの時代に分かれて、それぞれの専門分野について深く学ぶ。また韻文（和歌・漢詩・歌謡・俳諧・近代詩歌）、散文（神話・物語・説話・日記・随筆・小説）、芸能（能・狂言・幸若舞・浄瑠璃・歌舞伎・近代演劇）といった多様なジャンルについて研究することができる。研究方法も、文献学的研究・国語学的研究・歴史学的研究・民俗学的研究・比較文学的研究など、多様な方法を学ぶことができる。さらに文献学・書誌学の基礎を学ぶことで、変体仮名の判読や漢文の訓読なども習得することができるので、図書館司書など専門職を目指す者にとってキャリア形成に役立つ。各演習で採り上げる文学作品は中学・高校の国語科教材と重なるので、大学院での学びが国語科教員のキャリア形成に資するところはきわめて大きい。

●博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

中学・高校の教員、宮内庁書陵部の専門職員、大学図書館の司書、専門出版社の編集者など、大学院で学んだ専門的知識・能力を生かした職業に従事している。

●博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

大学・短期大学・高等専門学校の教員、研究所（国文学資料館）や各種研究機関の研究員といった研究職に就く者の他、中学・高校の教員、宮内庁書陵部の専門職員、大学図書館の司書、専門出版社の編集者など、大学院で学んだ専門的知識・能力を生かした職業に従事している。

◎日本語学コース

●多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

古代語から現代語に至る言語事実や歴史的・空間的変異を扱う講義など日本語に関する幅広いカリキュラムを用意している。さらに、日本語教育学や日本文学などの関連分野の科目も受講することができるカリキュラムとなっている。これによって、自らの研究テーマに留ることなく、広い視野から言語事象を分析できるようになる教育研究体制を取っている。さらに、必修科目の演習では、教員・他の受講者と議論をすることを通してプレゼンテーション能力や多様な見解に対応する能力を身につけられるように工夫している。また、指導教員の計画するプロジェクト形式の研究に加わり、メンバーの一員としての役割を果たすことで、知識を獲得することだけではなく組織の運営などにも携わる環境が整っている。

- 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路
中学高等学校国語科教員、日本語教師、出版社

- 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路
中学高等学校国語科教員、日本語教師、出版社

◎中国文学コース

- 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

中国文学コースは、中国古典学を中核として幅広く中国文学およびその関連諸領域を研究できるようなカリキュラムを用意している。前期課程では、とくに、時代やジャンル、研究方法などについて視野が狭くならないように、さまざまな授業を受けて自らの研究テーマをどのように研究史や現在の研究状況の中に位置づけ深めていくかを、十分に考えられるように留意した教育研究体制をとっている。前期課程・後期課程ともに、教育プログラムの中心をなすのは、論文作成の指導であるが、これについては、複数の教員から指導を受けて研究を深めていけるような体制を整えている。希望をすれば教員の参画している共同研究に加わる機会もあるので、そうした機会を通じてより広い視野を得て研究を進めることも可能である。

- 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路
中学高等学校国語科教員、出版社、民間企業

- 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路
中学高等学校国語科教員、出版社、民間企業

◎伝承文学コース

- 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

伝承文学コースは、4つの研究分野・カリキュラムから成り立っている。1) 民俗学、2) 口承文芸研究、3) 藝能研究、4) 現代民俗研究である。1) 民俗学は民間伝承を中心として、文献資料に残された民間伝承も対象として、その変遷を明らかにする分野である。2) 口承文芸研究は口頭での語りを中心として、それがあがる段階で記された説話も視野に入れるとともに、近年インターネットなどから生じてくる多様な語りの文化も対象とする分野である。3) 藝能研究は民間に伝承される民俗芸能とその元になった古典芸能を対象とする分野である。4) 現代民俗学は、多様な社会を構成する現代社会において伝えられる現代の民俗的な事象を「伝承」という視点で捉える分野である。これらの4つの分野からの伝承文化研究が伝承文学コースの特徴である。

- 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

取得した教員免許や学芸員資格を活かして、中学・高等学校の教諭、博物館や自治体の文化財担当の専門職を目指す進路となっている。

また、資料採集のために実施される聞き取り調査を中心としたフィールドワークの実践によって身につく対人能力を活かして、一般企業などの営業部門に就職する卒業生も多い。

- 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

取得した教員免許や学芸員資格をもとに、前期課程修了者よりもより深い専門性を持った人材として、中学・高等学校の教諭、博物館や自治体の文化財担当の専門職を目指す卒業生も多い。

◎高度国語・日本語教育コース（国語教育）

- 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

国語教育の領域では、日本語を第一言語・母語とする国語教育について、理論と実践に関する充実したカリキュラムを用意している。国語教育学、教育方法学を中心に、教科書研究や近現代文学・古典・学校文法・漢文学といった教科内容に関する授業、さらに教育法規といった中等教育段階の学校現場に必要な授業を広く開講している。他コースの授業を受講することもでき、日本文学・日本語学・中国文学・伝承文学の研究の場に参加しながら、それらの成果を国語科授業ということばを学び合う教育の場でどのように生かしていくのか、追究することが可能である。学部卒業生、現職国語科教員、民間企業就職後、再度、高度な国語教育学研究を志す社会人など、経歴・年代の多様な院生たちがそれぞれの研究テーマについて広い視野をもち深い考察を進めている。研究会の運営・研究誌『国語教育学論稿』発行の他、学外の学会・研究会での発表・投稿も活発で、修了後も実践研究を継続している。

- 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路
中学校高等学校国語科教員、民間企業

- 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路
中学高等学校国語科教員

◎高度国語・日本語教育コース（日本語教育）

- 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

日本語を非母語とする学習者に対する日本語教育のために必要な教授法・教材分析・第二言語習得論・日本語教育文法・ビジネス日本語・日本語教育史・ITCなどを学べる豊富なカリキュラムを用意している。さらに、日本語学や日本文学・対照言語学などの関連分野の科目も受講することができるカリキュラムとなっている。これによって、自らの研究テーマを深化させるとともに、日本語教育学から日本語学に互に幅広い分野に対応できる研究教育者を養成する体制を整えている。日本語教育学や日本語学を学部の専門科目や副専攻で修めた学生のみならず日本語教育機関での教員経験者、また、各国からの留学生など多彩な学生が集まり研鑽している。講義とともに演習科目では日本語教育関連の学会・研究会での発表論文投稿や修士・博士論文の完成をめざして活潑な議論を交わして研究能力を高めており、日本および海外・母国の研究教育機関、日本語教育機関における研究教育者を輩出している。

- 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路
国語科教員、日本語教師、出版社、日本および海外の企業

- 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路
日本語教師、日本および海外の企業

史学専攻

◎日本史学・外国史学・考古学・美学美術史・博物館学コース

- 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

専門領域とは異なる時代・地域・分野の研究方法を学ぶオムニバス授業「史学方法論研究」を開設し、時代・分野の異なる複数の教員で学生を指導する体制を構築しており、博物館学芸員、国家公務員、地方公務員、財団法人職員、高校教員、研究機関研究員など多様な経歴を持つ多くの専任教員・兼任教員を配置している。

日本史学コース・外国史学コースでは、史資料を扱う授業や、高等学校の新科目が求める史料読解力、世界と日本の相互的視野を育成する授業を設けている。

考古学コースでは先史考古学・歴史考古学の枠を超えた合同論文指導演習で構想力・発表力を養っている。また、遺跡発掘調査にあたる1級考古調査士の取得が可能である。

博物館学コース、美学・美術史コースでは、博物館・美術館専門職への道を鑑み、実践的教育と専門科目の強化によって学部で取得した学芸員資格の高度化を図っている。

- 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

博物館・美術館学芸員、資料館・文書館職員、文化財担当専門職、国家公務員、地方公務員、財団法人職員、教員、図書館司書、発掘会社、博物館関連企業、出版・印刷関連企業、一般企業

- 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

博物館・美術館学芸員、資料館・文書館職員、文化財担当専門職、研究機関研究員、国家公務員、地方公務員、財団法人職員、教員、図書館司書、発掘会社、博物館関連企業、出版関連企業

第3項 法学研究科のキャリアパス

- 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

法学研究科博士前期課程には、公務員養成コースと研究コースの二つがある。公務員養成コースでは、公務員として実務で活躍する人材を育てることを目標としており、実践研究科目や実務家教員科目を開講し、筆記試験対策や面接試験対策の他、公務員に就いた後の能力を磨くための学修を提供している（令和5年度・令和6年度の修了生は全員公務員ないし準公務員に就くことができた）。また、研究コースにおいては、多様な専門科目を提供しており、アカデミック・ポストを得るための基礎的な能力を修得することを目指している。

● 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

公務員養成コースに属する学生の主たる進路は公務員（公益法人等の準公務員も含む）であり、実際に内定を得て就職した者も数多い。また、研究コースに属する学生の主たる就職先は民間企業であり、本学や他大学の博士後期課程に進学する者もいる。

● 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

博士後期課程に属する学生には、アカデミック・ポストを得て大学等で研究を続ける他、民間企業に就職して法学や政治学の専門知識を生かして活躍することが見込まれる。

第4項 経済学研究科のキャリアパス

経済学専攻

● 多様なキャリアパスを見据えた教育研究体制（博士前期・後期課程共通）

経済学研究科には2つのコースがある。キャリアコースは文字通り税理士として実務で活躍する人材の育成を掲げており、入試に際してもそれを特に重視している。当該コースを主導するのは国税庁出身で実務の前線を経験した経験豊富な教員や現役の税理士として活躍している教員であり、コース開設以来着実な実績を残し続けている（平成21年度以降の入学者で税理士資格を得た者は7割に迫る）。アカデミックコースも研究者養成のみならず高度専門職業人の育成を強く意識しており、そのために必要なスキルを選択必修のコースワーク科目（理論経済学特論、統計学特論、経営学特論）、専門科目、そして個別の研究指導によって身に付けさせるよう指導体制を工夫している。特に近年は、社会的要請をふまえ、データの取り扱い方やその分析方法など、民間企業や行政機関でも役立てることのできるスキルの獲得を重視した教育、研究指導を行っている。

● 博士前期課程修了者の博士後期課程進学以外の進路

データ分析を含む経済学と経営学の大学院教育を修了した場合、民間企業はもとより、受験科目上有利な公務員試験に合格して行政機関に就職する道がひらかれる。加えて、中学や高校では、適切な経済学・経営学教育を受けた社会科教員人材が不足しており（政治・経済分野、歴史分野）、國學院の教育界における伝統をふまえ、わが国の中等・高等教育を支える人材となることも十分に視野に入る。

● 博士後期課程修了者・単位修得者の大学研究者以外の進路

上記に同じ。

第7節 研究室、演習室、学生共同研究室・文献資料室、校舎配置図

○教員研究室

文学研究科	神道学・宗教学	若木タワー	16・17階
	日本文学	〃	10階
	日本語学	〃	11階
	伝承文学	〃	11階
	日本史学	〃	11・12階
	中国文学	〃	11階
	外国史学	〃	12階
	考古学・博物館学	学術メディアセンター	1階
	美学・美術史	若木タワー	12・13階
	高度国語・日本語教育	〃	11・16階

法学研究科 若木タワー 7・8階

経済学研究科 〃 8～10・15階

○大学院演習室 〃 5階

○考古学実習室・地理学実習室 学術メディアセンター 1階

○大学院客員教授研究室 若木タワー 15階

○学生研究室

文学・法律学 若木タワー 6階

史学専攻 〃

神道学・宗教学・経済学専攻 若木タワー 6階

○学生共同研究・文献資料室

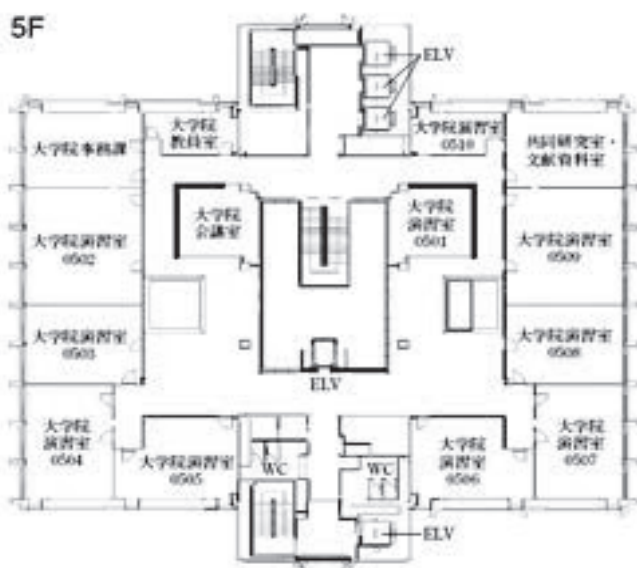
若木タワー 5階

○大学院事務課 若木タワー 5階

若木タワー

神殿側

神殿側



百周年記念館側

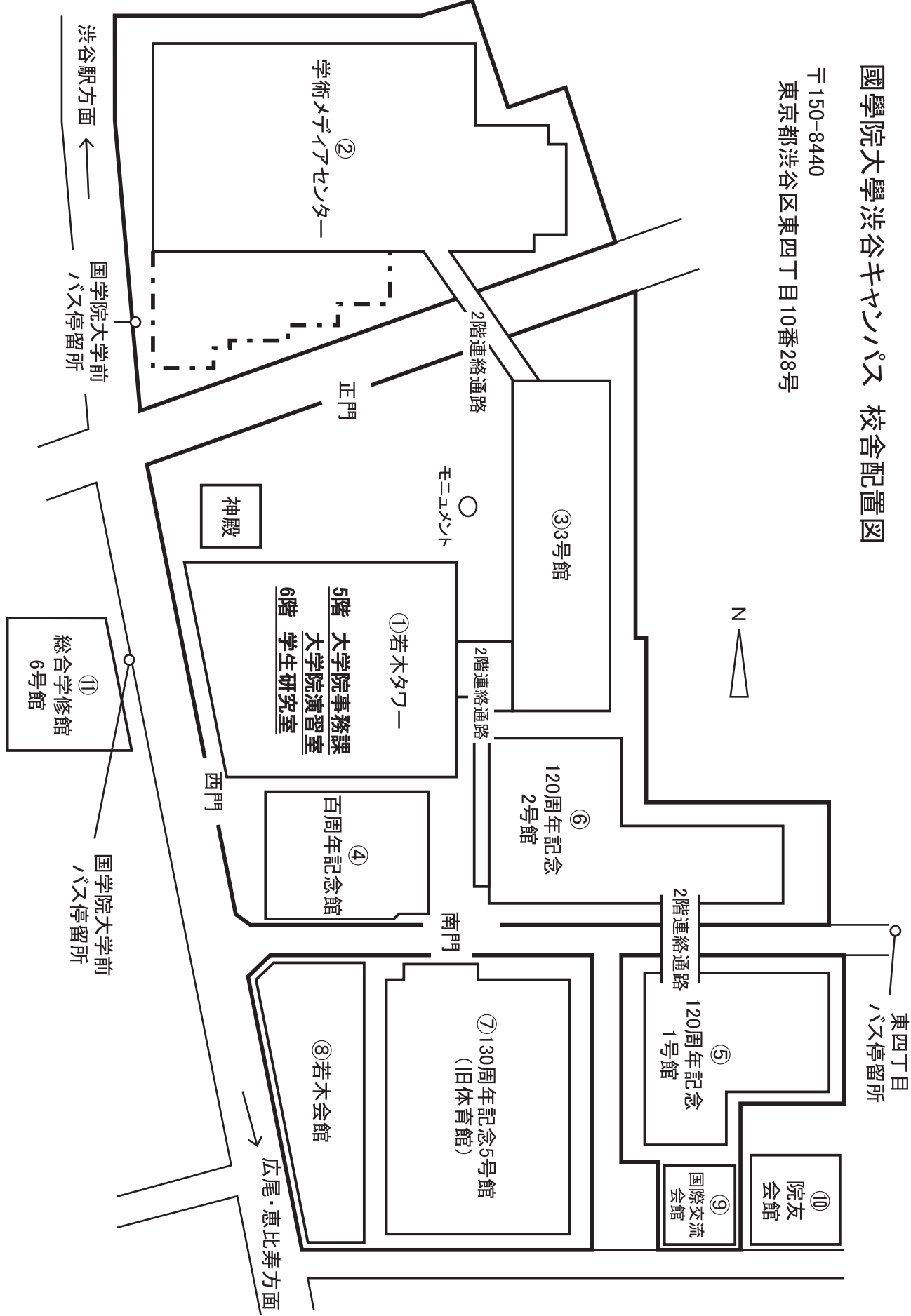


百周年記念館側

國學院大學渋谷キャンパス 校舎配置図

〒150-8440

東京都渋谷区東四丁目10番28号



第2章 大学院における学修

第1節 履修登録上の留意点

シラバス（講義概要）

授業科目の履修決定にあたっては、各授業の内容を十分に理解することが重要です。本学で開講する授業科目についての詳細は、K-SMAPYⅡのシラバスに掲載しています。シラバスには、授業のテーマ、内容、到達目標、授業計画、成績評価の方法や基準等を掲載しています。これらの情報をよく確認し、適切な履修登録を行うようにしてください。

履修登録

指導教員の指導のもと、履修科目を決定し、履修登録期間内にK-SMAPYⅡからWEB登録を行ってください。「研究指導」又は「論文指導演習」のみの場合も、必ずWEB登録を行うことが必要です。前年度までの成績については、K-SMAPYⅡにログインし、各自で確認してください。履修登録期間は、K-SMAPYⅡにて告知します。

注意事項

1. 履修登録後、履修確認表を配付します。登録した科目や研究指導・論文指導演習の曜日・時間を確認し、指導教員の自署または捺印を受けた上で、大学院事務課に提出してください。
2. 本学の専攻科又は学部の授業科目を履修する場合は、大学院所定の用紙に必要事項を記入し、指導教員の承認印を受けた後、履修登録期間内に大学院事務課に提出してください。なお、K-SMAPYⅡでのWEB登録はできません。

第2節 休講について

休講について

1. 大学の都合により休講する場合には、國學院大學ホームページ及び大学院事務課掲示板で告知する。
2. 教員の都合により休講する場合には、國學院大學学生支援システム「K-SMAPYⅡ」及び大学院事務課掲示板で告知する。
3. 交通ストライキ、または台風による大雨や暴風、大雪等の自然災害でJR 山手線・東急田園都市線のいずれかが全面運休（始発駅から終点駅で上下線とも運休、山手線は内回り・外回りとも運休）した場合は、その時点で休講とする。
4. 気象庁・地方気象台発表される警報で、「暴風警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」（いずれも特別警報を含む）が島嶼部を除く東京都全域または神奈川県東部に発令された場合は、その時点で休講とする。なお、警報が発令されていない場合でも、気象状況が悪化し、登下校の危険が予測される場合は、休講とすることがある。
5. 交通機関が運行再開または気象警報が解除された場合は、以下の基準により休講を変更し、授業を実施する。また、交通機関の運休と気象警報が重複している場合は、両方の要件とも解除された時点で授業を実施する。なお、授業の実施に関する情報は、大学のホームページで告知する。

運行再開又は警戒解除時刻	授業の実施
午前6時まで	1時限から平常どおり実施
午前10時まで	3時限から平常どおり実施
午後2時まで	6時限から平常どおり実施

上記については、國學院大學ホームページ、國學院大學学生支援システム「K-SMAPYⅡ」及び学内緊急放送等により告知する。

第3節 学位申請論文

指導教員の変更

やむを得ない理由により指導教員を変更する必要がある場合は、所定の用紙に必要事項を記入し、大学院事務課に提出してください。指導教員の変更には、所属する研究科の研究科委員会の承認が必要です。承認を得た後、変更が正式に適用されます。

修士学位申請論文

修士学位申請論文の体裁については、各研究科の指定に従って作成してください。提出の期日等については、ホームページ等を必ず確認してください。

第一次題目届

前期課程（修士課程）の1年次に在学する者は、所定の期日までに、指導教員の認印を得た上で、「修士学位申請論文題目届（副題を含む）」を本学所定の用紙で提出しなければなりません。

提出締切日 各研究科 令和7年11月29日（土）正午

第二次題目届

1. 前期課程（修士課程）の2年次に在学する者（早期修了希望者は1年次）は、所定の期日までに、指導教員の認印を得た上で、「修士学位申請論文題目届（副代含む）」を本学所定の用紙で提出しなければなりません。

提出締切日 各研究科 令和7年5月31日（土）正午

2. 論文題目届提出後に、やむを得ず題目を変更する必要がある場合は、指導教員の認印を得た上で、「修士学位申請論文題目変更届」を令和7年11月7日（金）までに大学院事務課に提出すること。ただし、法学研究科は令和8年1月7日（水）正午までとする。

修士学位論文提出期間 令和7年12月10日（水）～令和8年1月9日（金）正午

提出期限については、いかなる理由があっても遅延は認められません。提出は十分な時間的余裕を持って行い、最終日に間に合わなかったことにより修了できなかった例もあるため、注意してください。

博士学位申請論文

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年	8 年	9 年	10年	11年	12年		
入学		修了											
		所定単位 修得退学	6 年以内に再入学							再入学後 3 年以内に 博士論文提出⇒修了			
		修了延期	修了										
			所定単位 修得退学	6 年以内に再入学							再入学後 2 年以内に 博士論文提出⇒修了		
			修了延期	修了									再入学年度に 博士論文提出 ⇒ 修了
				所定単位 修得退学	6 年以内に再入学								
				修了延期	修了								
				修了延期	所定単位 修得退学	この後は論文博士学位申請のみ							

提出期間

提出期限については、いかなる理由があっても遅延は認められません。提出は十分な時間的余裕を持って行い、最終日に間に合わず修了が延期となった例もあるため、注意してください。

第4節 最終試験

博士前期課程

当該年度修了予定者を対象に、修士学位申請論文及びこれに関連した学問領域について、下記日程により口述試験を行う。

イ 文学研究科 令和8年2月17日（火）

博士前期課程修了予定者のうち、修士論文が未提出・不合格および論文指導演習が不合格で修了を延期する者、ならびに修得単位不足で修了を延期する者には、今後の研究計画・学習計画について試問を行なう。

ロ 法学研究科 令和8年2月20日（金）

ハ 経済学研究科 令和8年2月20日（金）

試験開始時間・場所等については1月下旬に提示する。

なお、事情により修了を延期せざるを得ない者は、最終試験前に指導教員の許可を得た後「修了延期願」を大学院事務課に提出しなければならない。

最終試験の合格発表は、2月下旬に行う。詳細は別に発表する。

授与される修士学位の名称

本大学院学則 第8条第1項参照のこと。

博士前期課程9月修了について

博士前期課程において、前期終了時に本学大学院学則第8条第1項に定める修了要件を満たした学生は9月修了をすることができる。

（國學院大學大学院 博士前期課程（修士課程）9月修了の取り扱いに関する規程を参照のこと）

9月修了に関する日程は下記のとおりである。9月修了願はシェアポイントへ掲載されているので確認すること。

9月修了願提出締切：令和7年4月30日（水）16時

修士論文第2次題目締切：令和7年5月30日（金）正午

9月修了修士論文提出日：令和7年7月22日（火）正午

9月修了最終試験：令和7年9月17日（水）詳細は追って連絡します。

9月修了学位記授与式：令和7年9月24日（水）詳細は別に発表する。

博士後期課程

最終試験は、各自の研究テーマに基づいて、これに関連する学問領域について口述試験を行う。

イ 文学研究科 最終試験日 令和8年2月17日（火）

在学3年目以上（休学期間を除く）の在学学生で、修了予定者（課程博士学位取得見込み者）を除く、在学学生を対象に実施する。

所定単位修得後退学

在学の最終年となる者の論文指導演習は、本学博士後期課程入学後、研究業績として複数の論文または学会等における口頭発表があることを単位認定の前提とする。

文学研究科の論文指導演習Bの成績評価は最終試験における口述試験結果によって最終評価が決定される。

ロ 法学研究科 最終試験日 令和8年2月20日（金）

在学3年目（休学期間を除く）の在学学生を対象に実施する。

ハ 経済学研究科 最終試験日 令和8年2月20日（金）

在学3年目以上（休学期間を除く）の在学学生を対象に実施する。

※ 1. 最終試験受験者は、「研究業績書一覧」（リスト）を所定の期日（1月中旬）までに大学院事務課に提出のうえ、最終試験当日には「研究発表論文の掲載誌、又は、抜き刷り」を持参し、最終試験に臨むこと。

2. 引続き在学を希望する者は、指導教員の承認印を受けた「修了延期願」と「研究業績書一覧」を提出して、最終試験において今後の研究計画等を口述しなければならない。

3. 時間・場所等は1月下旬に掲示する。

4. 最終試験の合格発表は、2月下旬に行う。詳細は別に発表する。

授与される博士学位の名称

本大学院学則 第8条第2項参照のこと。

第5節 単位の認定・成績通知

単位認定方法は、試験（筆記・口述）・レポート・平常点のいずれか、又はこれらを総合的に評価して行います。各授業科目の単位認定方法については、シラバスに評価方法として掲載されていますが、詳細は前期開講科目については7月上旬、後期開講科目については12月上旬に告知します。

成績評価

成績評価は、シラバスに示された科目の目的・内容、評価方法・基準、教科書・参考文献、授業計画に基づき行われます。公平性を確保しつつ、学期末試験の成績、授業への出席状況、授業での発言、レポート・小テスト等の課題への取り組みと成果等を考慮して、総合的に評価します。各授業科目の成績評価方法については、各学期の授業終了前に告知され、詳細は担当教員の指示に従ってください。

成績評価基準

評価	基準点	合否	QPI
S	100～90	合格	4.0
A	89～80		3.0
B	79～70		2.0
C	69～60		1.0
G	なし	合格	対象外
N			
D	59～0	不合格	0.0
R	評価対象外		

※合格した授業科目については、上表にしたがい、所定の単位を与える。

※「G」は、一定の基準を満たした場合に与えられる評価で、ABC評価をしない場合に使用され、単位が認定されます。

※「N」は、本大学院入学前に修得した単位に与えられる評価で、単位が認定されます。

※「R」は、出席日数不足や評価レポート未提出の場合に与えられる評価で、単位は認定されません。

※「QPI」については、「GPA制度」を参照すること。

GPA制度

本学では、成績評価の公平性と透明性を確保し、学修・教育効果の向上を目指して、GPA（Grade Point Average）制度を導入しています。

各年次のGPA値は、登録科目の単位数とその科目に付与されたQPI（Quality Point Index）を基に算出されます。GPAは、登録した各科目の単位数にQPIを乗じた合計を、登録した科目の単位数の合計で割ることによって求められます。

GPA値は、大学院での学修支援や指導に利用されます。

本学大学院入学以前の既修得単位の認定について

本学大学院学則第21条に基づき、本大学院博士前期課程に入学する以前に本学又は他大学等の大学院において修得した単位について認定を受けたい場合は、所定の手続に従う必要があります。詳細については、大学院学77頁参照」を確認してください。

本学大学院以外の国内外の大学院等において修得した単位の認定について

本学大学院学則第20第3項および第4項に基づき、本大学院博士前期課程に入学後に指導教員の承認を受けた上で本学以外の国内外の大学院等において修得した単位について認定を受けたい場合は、所定の手続に従う必要があります。詳細については、大学院学則第20条4項を確認してください。

第6節 単位互換制度

単位互換制度は、他大学院と協定を締結することで他大学院の授業科目を履修することができる制度です。この制度により、他大学院で修得した単位を本学の修了単位として認定することができます。単位互換を利用する大学院生は「委託特別聴講生」と呼ばれます。

現在、文学研究科の3専攻において、以下の協定大学院と単位互換協定を締結しています。

協定大学院

文学専攻

聖心女子大学大学院文学研究科	(日本語日本文学専攻)
実践女子大学大学院文学研究科	(国文学専攻)
青山学院大学大学院文学研究科	(日本文学・日本語専攻、史学専攻)

史学専攻

青山学院大学大学院文学研究科	(史学専攻)
中央大学大学院文学研究科	(日本史学、東洋史学、西洋史学各専攻)
上智大学大学院文学研究科	(史学専攻)
明治大学大学院文学研究科	(史学専攻)
立教大学大学院文学研究科	(史学専攻)
専修大学大学院文学研究科	(史学専攻)
国土館大学大学院人文科学研究科	(人文科学専攻 日本史・東洋史コース)
駒澤大学大学院人文科学研究科	(歴史学専攻)
東海大学大学院文学研究科	(史学専攻)
東洋大学大学院文学研究科	(史学専攻)
清泉女子大学大学院人文科学研究科	(思想文化専攻)

神道学・宗教学専攻

駒澤大学大学院人文科学研究科	(仏教学専攻)
創価大学大学院文学研究科	(社会学専攻)
大正大学大学院文学研究科	(宗教学専攻)
東洋英和女学院大学大学院人間科学研究科	(人間科学専攻)
聖心女子大学大学院文学研究科	(人間科学専攻)
立教大学大学院キリスト教学研究科	(キリスト教学専攻)

聴講手続

1. 所定の願出用紙に必要事項を記入し、所属大学院の指導教員の承認印及び大学院事務課担当者の査印を受けた後、聴講手数料と写真2枚を添えて、履修を希望する大学院の事務担当課に提出してください。
2. 協定大学院の授業時間割表やシラバスは、大学院事務課窓口で閲覧できます。
3. 聴講手数料は1科目2,000円、半期2単位科目の場合は1科目1,000円です。

単位の認定

委託特別聴講生として履修した単位は、本大学院学則22条4項に基づき本学の課程修了に必要な単位として認定することができます(詳細は、本大学院学則第22条4項(本便覧77頁参照)を確認してください。

第3章 文学研究科

第1節 教育研究上の目的、学位授与及び教育課程の編成・実施方針

研究科概要

昭和26（1951）年に創設された文学研究科は、創設75年という長い歴史を持ち、神道学・宗教学、文学、史学の3領域で、専門性の高い教育・研究を推進しています。

神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の3専攻を擁し、神道学・宗教学専攻では、神道学系と宗教学の2分野、文学専攻は、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学、高度国語・日本語教育の5コース。史学専攻は、日本史学、考古学、外国史学、美学・美術史、博物館学の5コースが設置されています。

修士、博士の学位は、いずれも神道学、宗教学、文学、民俗学、歴史学の5分野を有し、各分野に多くの研究者や教育者、職業人を輩出しています。特に博士学位の授与数は、課程・論文博士とも人文系研究科としては国内有数の学位授与数を誇り、今日では課程博士の学位を取得し、各専門分野で活躍する大学院学生も増えています。

文学研究科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 文学研究科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/gsol>



教育研究上の目的

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる、優れた研究者及び専門的な業務に従事する者を養成することを目的とする。

●神道学・宗教学専攻

日本古来の伝統宗教である神道を中心とする日本の伝統文化に関して、歴史的思想神学的な理解を深め、内外の諸宗教及びそれに関連する宗教文化の意義と役割を比較研究し、幅広い人材を養成すること。

●文学専攻

文化・文学・言語に関する高度な研究の深化・発展を図り、その能力を有する研究者、及び豊かな学識と高度な教育能力をもつ教育者を養成し、専門的業務に従事する社会人を再教育すること。

●史学専攻

国内外の歴史学・考古学・地理学・博物館学及び美学美術史の幅広い分野に関し研究の深化・発展を図り、各種研究教育機関で研究教育に携わる優れた人材を育成すること、併せて社会人を積極的に受け入れ、幅広い人材を養成すること。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻において編成されている教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す学位を授与する。

また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。

●神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、神道学ならびに関係諸学にもとづく研究課題を自ら定め、これに関する先行研究の検討を行い、資史料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者には修士（神道学）の学位を、宗教学ならびに関係諸学にもとづく研究課題を自ら定め、これに関する先行研究の検討を行い、資史料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者には修士（宗教学）の学位を、それぞれ授与する。なお、修士（神道学）の学位と修士（宗教学）の学位を同時に授与することはしない。

博士後期課程においては、神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、神道学、関係諸学、および研究対象に関する先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者には博士（神道学）の学位を、宗教学、関係諸学、および研究対象に関する先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者には博士（宗教学）の学位を、それぞれ授与する。なお、博士（神道学）の学位と博士（宗教学）の学位を同時に授与することはしない。また、神道学ならびに関係諸学を踏まえて自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して博士（神道学）を授与し、宗教学ならびに関係諸学を踏まえて自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して博士（宗教学）の学位を授与する。

●文学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資史料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては修士（文学）の学位を授与する。伝承文学コースにおいては、上記の者には修士（文学）の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には修士（民俗学）の学位をそれぞれ授与する。

博士後期課程においては、文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士（文学）の学位を授与する。伝承文学コースにおいては、上記の者には博士（文学）の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には博士（民俗学）の学位をそれぞれ授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士（文学）の学位を授与する。伝承文学コースにおいては、上記の者には博士（文学）の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には博士（民俗学）の学位をそれぞれ授与する。

●史学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資史料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、修士（歴史学）の学位を授与する。

博士後期課程においては、史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験においても的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、博士（歴史学）の学位を授与する。」

また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、

口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、博士（歴史学）の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻内に専門分野に基づいたコースを設けることによって、学生の研究に資することを方針としている。

●神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資史料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論文指導演習を実施する。

博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

●文学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、日本文学（高度国語教育含む）、日本語学、伝承文学、中国文学、日本語教育の各コースにおいて、横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、各コースごとに複数の指導教員による資史料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、各コースごとに複数の指導教員による論文指導演習を実施する。

博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

●史学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資史料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論文指導演習を実施する。

博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

第2節 博士前期課程（文学研究科）

第1項 修了要件及び修士学位申請論文

修了に必要な単位数

本大学院博士前期課程に、原則として2年以上在学し、30単位（※注1）を修得したうえで、最終試験（修士学位申請論文及びこれに関連した学問領域についての口述試験）に合格した場合に、修士の学位が授与される。

なお、学部 of 授業科目は、履修することはできる（教職専門科目・諸資格講座科目等を除く）が、修了要件には含まれない。

※注1 本大学院学則第20条第2項、第4項及び第21条の規程により認定された単位を含む。

カリキュラムの留意点について

授業科目のセメスター化、複数の教員による指導体制の確立、コースワーク科目の設置がなされている下記の点に留意すること。

1. 主に研究指導を行う教員と、研究分野に関連する内容を専門とする教員の複数体制で指導を行う。
詳細については、履修指導時に説明を行う。各専攻・コースの指示に従うこと。
2. 1年次前期のコースワーク科目受講後、指導教員は、7月末頃に決定する。
3. 必修科目の論文指導演習8単位は、1セメスター毎の主たる指導教員の論文指導演習A・Bである。
1年次前期は指導教員が未定のため、いずれの教員の論文指導演習Aを履修しても必修科目の単位数には含まれないが、修了要件の30単位には含まれる。専攻を超えて論文指導演習の履修を希望する場合は、別途手続を指示する。
4. ただし、休学等により正規の履修方法を採れなかった場合には、A / Bの別にかかわらず、論文指導演習を8単位修得すれば、必修科目の要件を満たしたものとする。

修士学位申請論文審査基準

1. 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること。
2. 研究対象に関わる先行研究が、網羅的かつ体系的に纏められ、そこに学位申請者の研究が位置づけられていること。
3. 研究資料の調査と収集が適切であり、分析と考察が論理的・実証的に適切であること。
4. 新しい知見と独自の観点からの結論があり、学術的に価値を有すること。
5. 研究成果が当該分野の研究に寄与する内容であること。
6. 研究目的・方法・内容などが、研究倫理を遵守していること。
7. 学位申請者が当該分野における幅広く深い知識を持ち、その分野において優れた能力を示すと認められる人物であること。

修士学位申請論文

修士学位申請論文の体裁は、次の各研究科指定のとおりにすること。提出方法については、大学院事務課からの案内に基づき、オンライン方式で提出すること。

本文体裁（受領基準）は、以下の基準を満たすものとする。

1 ページ（タテ書・ヨコ書共通設定）805字×25ページ以上、総字数20,000字以上

文字ポイント設定_文字ポイント：11ポイント、

ページ設定_1頁：35文字/行×23行＝805文字

※行間は字数に含めない

※原則として、表や図は字数に含めない

論文最終ページに設定（文字ポイント・ページ設定）と総ページ数・総文字数を明記すること。

第2項 履修方法

複数指導制度について

令和2年度以降の入学学生には、複数指導制度が導入されています。これに関する重要な注意事項を以下に記載しますので、必ず確認してください。

◎令和2年度以降の前期課程入学学生について

複数指導制度の概要及び単位認定は、以下のとおりです。

1. 本学の学位規則に基づき、主査・副査制が定められており、複数の教員から論文指導を受けることになります。
2. 論文指導には、「複数教員合同指導」と「単独教員指導」の2つの形態があります。
3. 複数教員合同指導を受ける場合、同一時間帯の1コマとして扱われ、単位認定は1コマあたり半期2単位となり、この形態で「複数指導」を担保します。
4. 単独教員指導の場合、単独の1コマの履修に加えて別の単独の1コマの履修が必要で、合計で2コマの履修が求められます。
5. その他、合同指導と単独指導の組み合わせや、合同指導同士の組み合わせも、合計2コマの履修となります。
6. 論文指導演習に関しては、履修規程に従い、2年間で8単位を修得する必要があります。

上記いずれの形態の場合でも、令和2年度以降入学学生の論文指導演習における要卒単位数は半期2単位です。複数教員による合同指導であっても、1コマあたりの半期2単位となり、4単位にはなりません（同一時間帯は1コマあたり半期2単位）。また、1年目の前期に論文指導を4コマ履修しても修了要件は満たせません。1年次後期、2年次前期・後期も継続して論文指導演習を履修する必要があります。

※1年前期において、7月に各専攻で指導教員が決定しますが、論文指導演習を履修した教員と指導教員が変更となった場合でも、前期に修得した論文指導演習の2単位はそのまま認定されます。履修規程に従い、指導教員以外の教員による論文指導演習も単位として認定されます。

◎令和2年度の後期課程入学学生について

後期課程入学学生については、履修規程に従い、指導教員が提供する「授業科目」又は指導教員が指定する「授業科目」から8単位以上、さらに「論文指導演習A・B」12単位を修得する必要があります。

神道学・宗教学専攻

科目区分		履修方法	単位数
必修科目	論文指導演習A（前期）	1年次4単位（A・Bそれぞれ2単位）	10単位
	論文指導演習B（後期）	2年次4単位（A・Bそれぞれ2単位）	
	神道学・宗教学理論演習	1年次前期2単位	
選択科目		1年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	8単位以上
合計			30単位以上
修士学位申請論文			—

※神道専攻課程Ⅱ類希望者は、本便覧32頁の備考欄を参照のこと。

文学専攻

●複専修制度について

複専修制度は、幅広い研究分野で質の高い専門的知識を修得し研究成果につなげるために、専攻主分野の科目（主コース）と専攻副分野の科目（他コース）の単位修得により前期課程の修了単位を満たすものである。複専修を希望する場合は、履修指導時に指導教員の指導を受け、計画的に他コースの科目を履修すること。なお、成績表には複専修の表記はしない。

●日本文学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	10 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
	日本古典研究AまたはB	いずれか 2 単位を修得すること。	
専攻選択科目A- I		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	8 単位以上
専攻選択必修科目	日本文学研究法（上代～近現代）	1 年次前期 2 単位	2 科目 4 単位
専攻選択科目A- II			2 科目 4 単位
合計			30 単位以上
修士学位申請論文			—

●日本語学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	10 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
	日本古典研究AまたはB	いずれか 2 単位を修得すること。	
専攻選択科目B- I		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	8 単位以上
専攻選択必修科目	日本文学研究法	1 年次前期 2 単位	2 科目 4 単位
専攻選択科目B- II			2 科目 4 単位
合計			30 単位以上
修士学位申請論文			—

●中国文学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	10 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
	日本古典研究AまたはB	いずれか 2 単位を修得すること。	
専攻選択科目C- I		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	8 単位以上
専攻選択必修科目	中国文学研究法	1 年次前期 2 単位	2 科目 4 単位
専攻選択科目C- II			2 科目 4 単位
合計			30 単位以上
修士学位申請論文			—

● 伝承文学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	10 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
	日本古典研究AまたはB	いずれか 2 単位を修得すること。	
専攻選択科目D- I		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	8 単位以上
専攻選択必修科目	伝承文学研究法	1 年次前期 2 単位	2 科目 4 単位
専攻選択科目D- II			2 科目 4 単位
合計			30 単位以上
修士学位申請論文			—

● 高度国語・日本語教育コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	10 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
	日本古典研究AまたはB	いずれか 2 単位を修得すること。	
専攻選択科目E- I		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	8 単位以上
専攻選択必修科目	日本語教育学研究法	1 年次前期 2 単位	2 科目 4 単位
	※高度国語選択者については「日本文学研究法」（上代～近現代）を履修すること。		
専攻選択科目E- II			2 科目 4 単位
合計			30 単位以上
修士学位申請論文			—

史学専攻

● 日本史学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	8 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
専攻選択必修科目	史学方法論研究 I または II	1 年次前期 2 単位	2 単位
選択科目A		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	16 単位
合計			30 単位以上
修士学位申請論文			—

●外国史学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	8 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
専攻選択必修科目	史学方法論研究 I または II	1 年次前期 2 単位	2 単位
選択科目B		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	16単位
合計			30単位以上
修士学位申請論文			—

●考古学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	8 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
専攻選択必修科目	史学方法論研究 I または II	1 年次前期 2 単位	2 単位
選択科目C		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	16単位
合計			30単位以上
修士学位申請論文			—

●美学・美術史コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	8 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
専攻選択必修科目	史学方法論研究 I または II	1 年次前期 2 単位	2 単位
選択科目D		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	16単位
合計			30単位以上
修士学位申請論文			—

●博物館学コース

科目区分		履修方法	単位数
専攻必修科目	論文指導演習A（前期）	1 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	8 単位
	論文指導演習B（後期）	2 年次 4 単位（A・Bそれぞれ 2 単位）	
専攻選択必修科目	史学方法論研究 I または II	1 年次前期 2 単位	2 単位
選択科目E		1 年次後期以降、主たる指導教員の担当する科目を含めて継続して履修すること。	16単位
合計			30単位以上
修士学位申請論文			—

第3項 開講講座表

開講講座表には、授業科目・担当教員・開講等の授業に関する重要な情報を記載しています。

博士前期課程

〔神道学・宗教学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
	神道学・宗教学理論演習	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 遠 藤 潤	
神 道 神 学 研 究 I	神 道 神 学 研 究 A I	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 西 岡 和 彦	※
	神 道 神 学 研 究 B I	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 西 岡 和 彦	※
神 道 神 学 研 究 II	神 道 神 学 研 究 A II	演習				※休講
	神 道 神 学 研 究 B II	演習				※休講
神 道 史 研 究 I	神 道 史 研 究 A I	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 加 瀬 直 弥	◎
	神 道 史 研 究 B I	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 加 瀬 直 弥	◎
神 道 史 研 究 II	神 道 史 研 究 A II	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 武 田 秀 章	
	神 道 史 研 究 B II	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 武 田 秀 章	
神 道 史 研 究 I	神 社 史 研 究 A I	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 笹 生 衛	
	神 社 史 研 究 B I	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 笹 生 衛	
神 道 史 研 究 II	神 社 史 研 究 A II	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 藤 本 頼 生	
	神 社 史 研 究 B II	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 藤 本 頼 生	
祭 祀 研 究 I	祭 祀 研 究 A I	演習				□休講
	祭 祀 研 究 B I	演習				□休講
神 道 古 典 研 究	神 道 古 典 研 究 A	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 松 本 久 史	※
	神 道 古 典 研 究 B	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 松 本 久 史	※
神 道 古 典 研 究	神 道 古 典 研 究 A	講義				休講
	神 道 古 典 研 究 B	講義				休講
神 道 思 想 史 研 究 A	神 道 思 想 史 研 究 A	講義	兼 担 教 授	博士（神道学・國學院大學）	大 東 敬 明	
神 道 思 想 史 研 究 B	神 道 思 想 史 研 究 B	講義	兼 担 教 授	博士（神道学・國學院大學）	大 東 敬 明	
神 社 行 政 ・ 管 理 研 究 A	神 社 行 政 ・ 管 理 研 究 A	講義	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 加 瀬 直 弥	
神 社 行 政 ・ 管 理 研 究 B	神 社 行 政 ・ 管 理 研 究 B	講義	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 加 瀬 直 弥	
宗 教 学 研 究 I	宗 教 学 研 究 A I	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 遠 藤 潤	△
	宗 教 学 研 究 B I	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 遠 藤 潤	△
宗 教 学 研 究 II	宗 教 学 研 究 A II	演習				△休講
	宗 教 学 研 究 B II	演習				△休講
宗 教 社 会 学 研 究 I	宗 教 社 会 学 研 究 A I	演習				△休講
	宗 教 社 会 学 研 究 B I	演習				△休講
宗 教 社 会 学 研 究 II	宗 教 社 会 学 研 究 A II	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 黒 崎 浩 行	△
	宗 教 社 会 学 研 究 B II	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 黒 崎 浩 行	△
宗 教 行 政 研 究 A	宗 教 行 政 研 究 A	講義	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 藤 本 頼 生	※専攻科と合併
宗 教 行 政 研 究 B	宗 教 行 政 研 究 B	講義	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 藤 本 頼 生	※専攻科と合併
祭 祀 研 究 A	祭 祀 研 究 A	講義	兼 担 教 授	博士（宗教学・國學院大學）	小 林 宣 彦	□
祭 祀 研 究 B	祭 祀 研 究 B	講義	兼 担 教 授	博士（宗教学・國學院大學）	小 林 宣 彦	□
宗 教 哲 学 研 究 A I	宗 教 哲 学 研 究 A I	講義	兼 任 講 師	博士（文学・東京大学）	奥 山 倫 明	
宗 教 哲 学 研 究 B I	宗 教 哲 学 研 究 B I	講義	兼 任 講 師	博士（文学・東京大学）	奥 山 倫 明	
宗 教 哲 学 研 究 A II	宗 教 哲 学 研 究 A II	講義	兼 担 准 教 授	博士（文学・東京大学）	エリック シッケンツ	
宗 教 哲 学 研 究 B II	宗 教 哲 学 研 究 B II	講義	兼 担 准 教 授	博士（文学・東京大学）	エリック シッケンツ	
仏 教 研 究 A	仏 教 研 究 A	講義	兼 任 講 師	博士（文学・総合研究大学院大学）	岡 野 浩 二	
仏 教 研 究 B	仏 教 研 究 B	講義	兼 任 講 師	博士（文学・総合研究大学院大学）	岡 野 浩 二	
キ リ ス ト 教 研 究 A	キ リ ス ト 教 研 究 A	講義	兼 任 講 師		深 澤 英 隆	
キ リ ス ト 教 研 究 B	キ リ ス ト 教 研 究 B	講義	兼 任 講 師		深 澤 英 隆	
イ ス ラ ム 研 究 A	イ ス ラ ム 研 究 A	講義				休講
イ ス ラ ム 研 究 B	イ ス ラ ム 研 究 B	講義				休講
神 社 教 化 研 究 A	神 社 教 化 研 究 A	講義	兼 担 准 教 授	博士（宗教学・國學院大學）	齊 藤 智 朗	※
神 社 教 化 研 究 B	神 社 教 化 研 究 B	講義	兼 担 准 教 授	博士（宗教学・國學院大學）	齊 藤 智 朗	※
神 社 祭 式 基 礎 研 究	神 社 祭 式 基 礎 研 究 A	講義	兼 担 准 教 授	博士（神道学・國學院大學）	星 野 光 樹	※専攻科と合併
	神 社 祭 式 基 礎 研 究 B	講義	兼 担 准 教 授	博士（神道学・國學院大學）	星 野 光 樹	※専攻科と合併
神 社 祭 式 研 究	神 社 祭 式 研 究 A	講義	兼 担 准 教 授	博士（神道学・國學院大學）	星 野 光 樹	※
	神 社 祭 式 研 究 B	講義	兼 担 准 教 授	博士（神道学・國學院大學）	星 野 光 樹	※

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
神社祭式応用研究	神社祭式応用研究A	講義	兼任講師	博士（神道学・國學院大學）	橋本富太郎	※
	神社祭式応用研究B	講義	兼任講師	博士（神道学・國學院大學）	橋本富太郎	※
社会科教育学研究A	社会科教育学研究A	講義				休講
社会科教育学研究B	社会科教育学研究B	講義				休講
公民科教育学研究A	公民科教育学研究A	講義				休講
公民科教育学研究B	公民科教育学研究B	講義				休講

注) ○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者（指導教員）。

神道専攻課程Ⅱ類希望者は※印必修、◎□印各1科目選択必修。

特に「神社行政・管理研究 A・B（講義）」「神社祭式基礎研究 A・B（講義）」「神社祭式研究 A・B（講義）」「神社祭式応用研究A・B（講義）」は隔年開講となるので、開講年度に履修し、修得すること。

専攻課程Ⅱ類の神社実習に関する詳細は、神道研修事務課（03-5466-0155）までお問い合わせ下さい。

〔文学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
日本古典研究A	日 本 古 典 研 究A	講義	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 谷 口 雅 博	オムニバス形式
日本古典研究B	日 本 古 典 研 究B	講義	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 飯 倉 義 之	オムニバス形式
海外日本文学研究	海 外 日 本 文 学 研 究	講義				休講
比較文学研究	比 較 文 学 研 究	講義				休講
対照言語研究A I	対 照 言 語 研 究A I	講義				休講
対照言語研究B I	対 照 言 語 研 究B I	講義				休講
対照言語研究A II	対 照 言 語 研 究A II	講義	兼 任 講 師	博士（文学・華中科技大学）	河 崎 み ゆ き	
対照言語研究B II	対 照 言 語 研 究B II	講義	兼 任 講 師	博士（文学・華中科技大学）	河 崎 み ゆ き	
関係外国語研究A	関 係 外 国 語 研 究A	講義				休講
関係外国語研究B	関 係 外 国 語 研 究B	講義				休講
日中古典比較研究A	日 中 古 典 比 較 研 究A	講義				休講
日中古典比較研究B	日 中 古 典 比 較 研 究B	講義	兼 任 講 師	博士（文学・國學院大學）	塚 越 義 幸	
アジア文化比較研究A	ア ジ ア 文 化 比 較 研 究A	講義	兼 任 講 師	博士（文学・國學院大學）	松 尾 恒 一	
アジア文化比較研究B	ア ジ ア 文 化 比 較 研 究B	講義	兼 任 講 師	博士（文学・國學院大學）	松 尾 恒 一	
	アカデミック・ライティングA I	講義	兼担准教授	博士（文学・関西大学）	牧 野 格 子	
	アカデミック・ライティングB II	講義				休講
	アカデミック・ライティングA III	講義	兼 任 講 師	博士（文学・國學院大學）	曹 咏 梅	
日本古典実習A	日 本 古 典 実 習A	実習	兼担准教授	博士（文学・國學院大學）	渡 邊 卓	
日本古典実習B	日 本 古 典 実 習B	実習				休講
日本伝承文化実習	日 本 伝 承 文 化 実 習	実習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 大 石 泰 夫	
	日 本 文 学 研 究 法	講義	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 岩 崎 雅 彦	
	日 本 語 学 研 究 法	講義	教 授	博士（文学・東北大学）	○ 三 井 は る み	
	中 国 文 学 研 究 法	講義	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 浅 野 春 二	
	伝 承 文 学 研 究 法	講義	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 大 石 泰 夫	
	日 本 語 教 育 学 研 究 法	講義	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
日本上代文学研究 I	日 本 上 代 文 学 研 究A I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 土 佐 秀 里	
	日 本 上 代 文 学 研 究B I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 土 佐 秀 里	
日本上代文学研究 II	日 本 上 代 文 学 研 究A II	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 谷 口 雅 博	
	日 本 上 代 文 学 研 究B II	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 谷 口 雅 博	
日本中古文学研究 I	日 本 中 古 文 学 研 究A I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 竹 内 正 彦	
	日 本 中 古 文 学 研 究B I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 竹 内 正 彦	
日本中古文学研究 II	日 本 中 古 文 学 研 究A II	演習				休講
	日 本 中 古 文 学 研 究B II	演習				休講
日本中世文学研究 I	日 本 中 世 文 学 研 究A I	演習				休講
	日 本 中 世 文 学 研 究B I	演習				休講
日本近世文学研究 I	日 本 近 世 文 学 研 究A I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 岩 崎 雅 彦	
	日 本 近 世 文 学 研 究B I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 岩 崎 雅 彦	
日本近世文学研究 II	日 本 近 世 文 学 研 究A II	演習	教 授		○ 中 村 正 明	
	日 本 近 世 文 学 研 究B II	演習	教 授		○ 中 村 正 明	
日本近現代文学研究 I	日 本 近 現 代 文 学 研 究A I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 石 川 則 夫	
	日 本 近 現 代 文 学 研 究B I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 石 川 則 夫	
日本近現代文学研究 II	日 本 近 現 代 文 学 研 究A II	演習	准 教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 安 西 晋 二	
	日 本 近 現 代 文 学 研 究B II	演習	准 教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 安 西 晋 二	
日本古代語研究 I	日 本 古 代 語 研 究A I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 小 田 勝	
	日 本 古 代 語 研 究B I	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 小 田 勝	
日本古代語研究 II	日 本 古 代 語 研 究A II	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 吉 田 永 弘	
	日 本 古 代 語 研 究B II	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 吉 田 永 弘	
日本近代語研究	日 本 近 代 語 研 究A	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
	日 本 近 代 語 研 究B	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
日本現代語研究	日 本 現 代 語 研 究A	演習	教 授	博士（文学・東北大学）	○ 三 井 は る み	
	日 本 現 代 語 研 究B	演習	教 授	博士（文学・東北大学）	○ 三 井 は る み	
中国文学研究 I	中 国 文 学 研 究A I	演習	教 授		○ 石 本 道 明	
	中 国 文 学 研 究B I	演習	教 授		○ 石 本 道 明	
中国文学研究 II	中 国 文 学 研 究A II	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 立 石 展 大	
	中 国 文 学 研 究B II	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 立 石 展 大	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
中国文学研究Ⅲ	中国文学研究AⅢ	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 浅野 春二	
	中国文学研究BⅢ	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 浅野 春二	
中国文学研究Ⅳ	中国文学研究AⅣ	演習	教授(特別専任)		○ 宮内 克浩	
	中国文学研究BⅣ	演習	教授(特別専任)		○ 宮内 克浩	
伝承文学研究Ⅰ	伝承文学研究AⅠ	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 飯倉 義之	
	伝承文学研究BⅠ	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 飯倉 義之	
伝承文学研究Ⅱ	伝承文学研究AⅡ	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 伊藤 龍平	
	伝承文学研究BⅡ	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 伊藤 龍平	
伝統芸能研究	伝統芸能研究A	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 大石 泰夫	
	伝統芸能研究B	演習	教授	博士（文学・國學院大學）	○ 大石 泰夫	
民俗学研究Ⅰ	民俗学研究AⅠ	演習	教授	博士（民俗学・國學院大學）	○ 服部比呂美	
	民俗学研究BⅠ	演習	教授	博士（民俗学・國學院大學）	○ 服部比呂美	
民俗学研究Ⅱ	民俗学研究AⅡ	演習				休講
	民俗学研究BⅡ	演習				休講
民俗学研究Ⅲ	民俗学研究AⅢ	演習				休講
	民俗学研究BⅢ	演習				休講
日本文学史研究AⅠ	日本文学史研究AⅠ	講義	兼任教授	博士（文学・國學院大學）	上野 誠	上代
日本文学史研究BⅠ	日本文学史研究BⅠ	講義	兼任教授	博士（文学・國學院大學）	上野 誠	上代
日本文学史研究AⅡ	日本文学史研究AⅡ	講義				中古／休講
日本文学史研究BⅡ	日本文学史研究BⅡ	講義				中古／休講
日本文学史研究AⅢ	日本文学史研究AⅢ	講義	兼任講師	博士（文学・立教大学）	疋田 雅昭	近現代
日本文学史研究BⅢ	日本文学史研究BⅢ	講義	兼任講師	博士（文学・立教大学）	疋田 雅昭	近現代
日本文学特論AⅠ	日本文学特論AⅠ	講義	兼任講師		多田 元	上代
日本文学特論BⅠ	日本文学特論BⅠ	講義	兼任講師		多田 元	上代
日本文学特論AⅡ	日本文学特論AⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	森野 正弘	中古
日本文学特論BⅡ	日本文学特論BⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	森野 正弘	中古
日本文学特論AⅢ	日本文学特論AⅢ	講義	兼任講師	博士（文学・大阪大学）	小林 健二	中世
日本文学特論BⅢ	日本文学特論BⅢ	講義	兼任講師	博士（文学・大阪大学）	小林 健二	中世
日本文学特論AⅣ	日本文学特論AⅣ	講義				近現代／休講
日本文学特論BⅣ	日本文学特論BⅣ	講義				近現代／休講
日本語語法学AⅠ	日本語語法学AⅠ	講義	兼任講師		北澤 尚	
日本語語法学BⅠ	日本語語法学BⅠ	講義	兼任講師		北澤 尚	
日本語語法学AⅡ	日本語語法学AⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	小柳 智一	
日本語語法学BⅡ	日本語語法学BⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	小柳 智一	
日本語学史A	日本語学史A	講義				休講
日本語学史B	日本語学史B	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	村山 昌俊	
日本語音韻史A	日本語音韻史A	講義	兼任講師		肥爪 周二	
日本語音韻史B	日本語音韻史B	講義	兼任講師		肥爪 周二	
日本語学特論AⅠ	日本語学特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（文学・東北大学）	小林 隆	
日本語学特論BⅠ	日本語学特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（文学・東北大学）	小林 隆	
日本語学特論AⅡ	日本語学特論AⅡ	講義				休講
日本語学特論BⅡ	日本語学特論BⅡ	講義				休講
中国文学史研究A	中国文学史研究A	講義	兼任講師	博士（文学・京都大学）	浅見 洋二	
中国文学史研究B	中国文学史研究B	講義	兼任講師	博士（文学・京都大学）	浅見 洋二	
中国文学特論AⅠ	中国文学特論AⅠ	講義				休講
中国文学特論BⅠ	中国文学特論BⅠ	講義	兼任講師		大橋 由美	
中国文学特論AⅡ	中国文学特論AⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・慶應義塾大学）	種村 和史	
中国文学特論BⅡ	中国文学特論BⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・慶應義塾大学）	種村 和史	
中国文学特論AⅢ	中国文学特論AⅢ	講義	兼任講師		澤崎 久和	
中国文学特論BⅢ	中国文学特論BⅢ	講義	兼任講師		澤崎 久和	
中国語学研究	中国語学研究A	演習				休講
	中国語学研究B	演習				休講
伝承文学史A	伝承文学史A	講義	兼任講師	博士（文学・二松学舎大学）	原由来恵	
伝承文学史B	伝承文学史B	講義	兼任講師	博士（文学・二松学舎大学）	原由来恵	
伝承文学特論AⅠ	伝承文学特論AⅠ	講義				休講
伝承文学特論BⅠ	伝承文学特論BⅠ	講義				休講

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
伝承文学特論AⅡ	伝承文学特論AⅡ	講義				休講
伝承文学特論BⅡ	伝承文学特論BⅡ	講義	兼任講師	博士(民俗学・國學院大學)	小川直之	
伝承文学特論AⅢ	伝承文学特論AⅢ	講義	兼担教授	博士(学術・東京外国語大学)	黒澤直道	
伝承文学特論BⅢ	伝承文学特論BⅢ	講義	兼担教授	博士(学術・東京外国語大学)	黒澤直道	
民俗学特論AⅠ	民俗学特論AⅠ	講義	兼任講師	博士(民俗学・國學院大學)	小川直之	
民俗学特論BⅠ	民俗学特論BⅠ	講義	兼任講師	博士(民俗学・國學院大學)	小川直之	
民俗学特論AⅡ	民俗学特論AⅡ	講義	兼任講師	博士(文学・筑波大学)	宮内貴久	
民俗学特論BⅡ	民俗学特論BⅡ	講義	兼任講師	博士(文学・筑波大学)	宮内貴久	
民俗学特論AⅢ	民俗学特論AⅢ	講義	兼任講師	博士(文学・筑波大学)	関沢まゆみ	
民俗学特論BⅢ	民俗学特論BⅢ	講義	兼任講師	博士(文学・筑波大学)	関沢まゆみ	
民俗学特論AⅣ	民俗学特論AⅣ	講義	兼任講師	博士(文学・大阪大学)	林承緯	
伝統芸能特論AⅠ	伝統芸能特論AⅠ	講義				休講
伝統芸能特論BⅠ	伝統芸能特論BⅠ	講義				休講
伝統芸能特論AⅡ	伝統芸能特論AⅡ	講義	兼任講師	博士(学術・千葉大学)	俵木 悟	
伝統芸能特論BⅡ	伝統芸能特論BⅡ	講義	兼任講師	博士(学術・千葉大学)	俵木 悟	
儀礼文化研究A	儀礼文化研究A	講義				休講
儀礼文化研究B	儀礼文化研究B	講義				休講
国語教育実践研究	国語教育実践研究AⅠ	演習				休講
	国語教育実践研究BⅠ	演習				休講
	国語教育実践研究AⅡ	演習	教 授		○ 齋藤智哉	
	国語教育実践研究BⅡ	演習	教 授		○ 齋藤智哉	
日本語教育研究Ⅰ	日本語教育研究AⅠ	演習	教 授	博士(文学・國學院大學)	○ 諸星美智直	
	日本語教育研究BⅠ	演習	教 授	博士(文学・國學院大學)	○ 諸星美智直	
日本語教育研究Ⅱ	日本語教育研究AⅡ	演習	准教授	博士(教育学・広島大学)	○ 植松容子	
	日本語教育研究BⅡ	演習	准教授	博士(教育学・広島大学)	○ 植松容子	
日本語教育研究AⅢ	日本語教育研究AⅢ	演習	客員教授		○ 菊地康人	
日本語教育研究BⅢ	日本語教育研究BⅢ	演習	客員教授		○ 菊地康人	
学校文法体系論A	学校文法体系論A	講義	兼任講師	博士(言語学・筑波大学)	矢澤真人	
学校文法体系論B	学校文法体系論B	講義	兼任講師	博士(言語学・筑波大学)	矢澤真人	
日本文学研究AⅠ	日本文学研究AⅠ	講義	兼任講師	博士(文学・國學院大學)	沼尻利通	古典
日本文学研究BⅠ	日本文学研究BⅠ	講義	兼任講師	博士(文学・國學院大學)	沼尻利通	古典
日本文学研究AⅡ	日本文学研究AⅡ	講義				休講
日本文学研究BⅡ	日本文学研究BⅡ	講義				休講
漢文学研究A	漢文学研究A	講義	教 授		○ 石本道明	
漢文学研究B	漢文学研究B	講義	教 授		○ 石本道明	
国語教育学研究A	国語教育学研究A	講義	兼任講師	博士(文学・國學院大學)/博士(教育学・東京大学)	眞有澄香	
国語教育学研究B	国語教育学研究B	講義	兼任講師	博士(文学・國學院大學)/博士(教育学・東京大学)	眞有澄香	
教科書研究A	教科書研究A	講義	兼任講師	博士(教育学・早稲田大学)	幸田国広	
教科書研究B	教科書研究B	講義	兼任講師	博士(教育学・早稲田大学)	幸田国広	
教育法規研究A	教育法規研究A	講義	兼任講師		高木加奈絵	
教育法規研究B	教育法規研究B	講義	兼任講師		高木加奈絵	
日本語教授法実践	日本語教授法実践	講義	兼任講師		河内彩香	
日本語教授法研究	日本語教授法研究	講義	兼任講師		河内彩香	
日本語教育教材研究A	日本語教育教材研究A	講義	兼任講師	博士(文学・國學院大學)	伊藤孝行	
日本語教育教材研究B	日本語教育教材研究B	講義	兼任講師	博士(文学・國學院大學)	伊藤孝行	
第二言語習得論A	第二言語習得論A	講義	兼任講師	博士(人文科学・お茶の水女子大学)	橋本ゆかり	
第二言語習得論B	第二言語習得論B	講義	兼任講師	博士(人文科学・お茶の水女子大学)	橋本ゆかり	
日本語教育文法A	日本語教育文法A	講義	兼任講師		北澤 尚	
日本語教育文法B	日本語教育文法B	講義	兼任講師		北澤 尚	
日本語音声学A	日本語音声学A	講義	兼任講師	博士(言語学・筑波大学)	松崎 寛	
日本語音声学B	日本語音声学B	講義	兼任講師	博士(言語学・筑波大学)	松崎 寛	
応用言語学A	応用言語学A	講義	兼任講師	Ed.D (ハーバード大学)	宇佐美まゆみ	
応用言語学B	応用言語学B	講義	兼任講師	Ed.D (ハーバード大学)	宇佐美まゆみ	
教育方法学研究A	教育方法学研究A	講義				休講
教育方法学研究B	教育方法学研究B	講義				休講

注) ○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者(指導教員)。

〔史学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
	史学方法論研究Ⅰ	講義	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 高橋秀樹	オムニバス
	史学方法論研究Ⅱ	講義	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 高橋秀樹	オムニバス
日本古代史研究Ⅰ	日本古代史研究AⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 佐藤長門	
	日本古代史研究BⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 佐藤長門	
日本古代史特論AⅡ	日本古代史特論AⅡ	講義	兼任講師		神谷正昌	
日本古代史特論BⅡ	日本古代史特論BⅡ	講義	兼任講師		神谷正昌	
日本古代史特論AⅢ	日本古代史特論AⅢ	講義	兼任講師		平野卓治	
日本古代史特論BⅢ	日本古代史特論BⅢ	講義	兼任講師		平野卓治	
日本中世史研究Ⅰ	日本中世史研究AⅠ	演習	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 高橋秀樹	
	日本中世史研究BⅠ	演習	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 高橋秀樹	
日本中世史研究Ⅱ	日本中世史研究AⅡ	演習				休講
	日本中世史研究BⅡ	演習				休講
日本中世史特論	日本中世史特論A	講義	兼任講師	博士（文学・東北大学）	金子 拓	
	日本中世史特論B	講義	兼任講師	博士（文学・東北大学）	金子 拓	
日本近世史研究Ⅰ	日本近世史研究AⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 吉岡 孝	
	日本近世史研究BⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 吉岡 孝	
日本近世史研究Ⅱ	日本近世史研究AⅡ	演習	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 岩橋清美	
	日本近世史研究BⅡ	演習	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 岩橋清美	
日本近世史特論AⅠ	日本近世史特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（歴史学・國學院大學）	大友 一雄	
日本近世史特論BⅠ	日本近世史特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（歴史学・國學院大學）	大友 一雄	
日本近世史特論AⅡ	日本近世史特論AⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	佐藤孝之	
日本近世史特論BⅡ	日本近世史特論BⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・國學院大學）	佐藤孝之	
日本近現代史研究Ⅰ	日本近現代史研究AⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 樋口秀実	
	日本近現代史研究BⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 樋口秀実	
日本近現代史研究Ⅱ	日本近現代史研究AⅡ	演習	教 授		○ 多和田真理子	
	日本近現代史研究BⅡ	演習	教 授		○ 多和田真理子	
日本近現代史特論AⅠ	日本近現代史特論AⅠ	講義				休講
日本近現代史特論BⅠ	日本近現代史特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（政治学・早稲田大学） 博士（歴史学・南開大学）	徐 顕 芬	
日本近現代史特論AⅡ	日本近現代史特論AⅡ	講義	兼任講師	博士（史学・上智大学）	櫻井良樹	
日本近現代史特論BⅡ	日本近現代史特論BⅡ	講義				休講
日本近現代史特論AⅢ	日本近現代史特論AⅢ	講義	兼担准教授	博士（歴史学・國學院大學）	手塚雄太	
日本近現代史特論BⅢ	日本近現代史特論BⅢ	講義	兼担准教授	博士（歴史学・國學院大學）	手塚雄太	
宗教史料学研究	宗教史料学研究A	演習				休講
	宗教史料学研究B	演習				休講
日本史研究AⅠ	日本史研究AⅠ	講義	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 佐藤長門	
日本史研究BⅠ	日本史研究BⅠ	講義	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 佐藤長門	
日本史研究AⅡ	日本史研究AⅡ	講義				休講
日本史研究BⅡ	日本史研究BⅡ	講義				休講
日本史研究AⅢ	日本史研究AⅢ	講義				休講
日本史研究BⅢ	日本史研究BⅢ	講義				休講
歴史地理学研究	歴史地理学研究A	演習	准教授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 川名 禎	
	歴史地理学研究B	演習	准教授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 川名 禎	
歴史地理学特論A	歴史地理学特論A	講義	兼任講師		林 和 生	
歴史地理学特論B	歴史地理学特論B	講義	兼任講師	博士（歴史学・國學院大學）	橋村 修	
比較地誌学研究	比較地誌学研究A	演習				休講
	比較地誌学研究B	演習				休講
比較地誌学特論A	比較地誌学特論A	講義	兼任講師	博士（文学・筑波大学）	三木 一 彦	
比較地誌学特論B	比較地誌学特論B	講義	兼任講師		林 和 生	
地 図 学 研 究	地 図 学 研 究 A	演習	客員教授		○ 吉田敏弘	
	地 図 学 研 究 B	演習	客員教授		○ 吉田敏弘	
地 図 学 特 論 A	地 図 学 特 論 A	講義				休講
地 図 学 特 論 B	地 図 学 特 論 B	講義				休講
日本思想史特論A	日本思想史特論A	講義				休講
日本思想史特論B	日本思想史特論B	講義				休講

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
東洋史研究Ⅰ	東洋史研究AⅠ	演習	准教授	博士（史学・明治大学）	○江川式部	
	東洋史研究BⅠ	演習	准教授	博士（史学・明治大学）	○江川式部	
東洋史研究Ⅱ	東洋史研究AⅡ	演習				休講
	東洋史研究BⅡ	演習				休講
東洋史特論AⅠ	東洋史特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（文学・京都大学）	櫻井智美	
東洋史特論BⅠ	東洋史特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（文学・京都大学）	櫻井智美	
東洋史特論AⅡ	東洋史特論AⅡ	講義				休講
東洋史特論BⅡ	東洋史特論BⅡ	講義				休講
東アジア史研究Ⅰ	東アジア史研究AⅠ	演習				休講
	東アジア史研究BⅠ	演習				休講
東アジア史特論A	東アジア史特論A	講義				休講
東アジア史特論B	東アジア史特論B	講義				休講
西洋史研究Ⅰ	西洋史研究AⅠ	演習	教授	博士（学術・東京大学）	○神長英輔	
	西洋史研究BⅠ	演習	教授	博士（学術・東京大学）	○神長英輔	
西洋史研究Ⅱ	西洋史研究AⅡ	演習	教授		○大久保桂子	
	西洋史研究BⅡ	演習	教授		○大久保桂子	
西洋史特論A	西洋史特論A	講義				休講
西洋史特論B	西洋史特論B	講義				休講
比較文化史研究	比較文化史研究A	演習				休講
	比較文化史研究B	演習				休講
比較文化史特論A	比較文化史特論A	講義	兼任講師		市川裕	
比較文化史特論B	比較文化史特論B	講義	兼任講師		市川裕	
東洋思想史特論A	東洋思想史特論A	講義				休講
東洋思想史特論B	東洋思想史特論B	講義				休講
西洋思想史特論A	西洋思想史特論A	講義				休講
西洋思想史特論B	西洋思想史特論B	講義				休講
日本考古学研究	日本考古学研究A	演習				休講
	日本考古学研究B	演習				休講
日本考古学特論A	日本考古学特論A	講義	兼任講師		福尾正彦	
日本考古学特論B	日本考古学特論B	講義	兼任教授		池田榮史	
先史考古学研究	先史考古学研究A	演習				休講
	先史考古学研究B	演習				休講
先史考古学特論A	先史考古学特論A	講義	兼任講師	博士（文学・筑波大学）	設楽博己	
先史考古学特論B	先史考古学特論B	講義	兼任講師	博士（文学・筑波大学）	設楽博己	
先史考古学特論AⅡ	先史考古学特論AⅡ	講義	兼任講師	博士（歴史学・國學院大學）	阿部昭典	
先史考古学特論BⅡ	先史考古学特論BⅡ	講義	兼任講師	博士（歴史学・國學院大學）	阿部昭典	
歴史考古学研究	歴史考古学研究A	演習	教授	博士（歴史学・國學院大學）	○青木敬	
	歴史考古学研究B	演習	教授	博士（歴史学・國學院大學）	○青木敬	
歴史考古学特論AⅠ	歴史考古学特論AⅠ	講義	教授	博士（歴史学・國學院大學）	○青木敬	
歴史考古学特論BⅠ	歴史考古学特論BⅠ	講義	教授	博士（歴史学・國學院大學）	○青木敬	
歴史考古学特論AⅡ	歴史考古学特論AⅡ	講義	兼任講師		古谷毅	
歴史考古学特論BⅡ	歴史考古学特論BⅡ	講義	兼任講師		古谷毅	
外国考古学研究	外国考古学研究A	演習				休講
	外国考古学研究B	演習				休講
外国考古学特論A	外国考古学特論A	講義				休講
外国考古学特論B	外国考古学特論B	講義				休講
理論考古学研究	理論考古学研究A	演習				休講
	理論考古学研究B	演習				休講
理論考古学特論A	理論考古学特論A	講義				休講
理論考古学特論B	理論考古学特論B	講義				休講
環境考古学研究	環境考古学研究A	演習				休講
	環境考古学研究B	演習				休講
環境考古学特論A	環境考古学特論A	講義	兼任講師	博士（史学・東京都立大学）	工藤雄一郎	
環境考古学特論B	環境考古学特論B	講義	兼任講師		山崎京美	
民族考古学特論A	民族考古学特論A	講義	兼任講師	博士（文学・法政大学）	佐藤宏之	
民族考古学特論B	民族考古学特論B	講義	兼任講師	博士（文学・法政大学）	佐藤宏之	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
考古学研究	考古学研究A	演習				休講
	考古学研究B	演習				休講
考古学特論A	考古学特論A	講義				休講
考古学特論B	考古学特論B	講義				休講
考古学実習A	考古学実習A	実習				休講
考古学実習B	考古学実習B	実習	教授	博士（歴史学・國學院大學）	○青木 敬	
美学研究	美学研究A	演習	教授	博士（人間・環境学・京都大学）	○岡本源太	
	美学研究B	演習	教授	博士（人間・環境学・京都大学）	○岡本源太	
美学特論A	美学特論A	講義				休講
美学特論B	美学特論B	講義				休講
美術史研究Ⅰ	美術史研究AⅠ	演習	教授	博士（美術史・考古学・パリ第4大学）	○三浦 篤	
	美術史研究BⅠ	演習	教授	博士（美術史・考古学・パリ第4大学）	○三浦 篤	
美術史研究Ⅱ	美術史研究AⅡ	演習	教授	博士（哲学・学習院大学）	○藤澤 紫	
	美術史研究BⅡ	演習	教授	博士（哲学・学習院大学）	○藤澤 紫	
美術史研究AⅢ	美術史研究AⅢ	演習	客員教授		○小池 寿子	
美術史研究BⅢ	美術史研究BⅢ	演習	客員教授		○小池 寿子	
美術史特論A	美術史特論A	講義				休講
美術史特論B	美術史特論B	講義				休講
芸術学研究	芸術学研究A	演習				休講
	芸術学研究B	演習				休講
芸術学特論AⅠ	芸術学特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（史学・学習院大学）	田中 潤	
芸術学特論BⅠ	芸術学特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（史学・学習院大学）	田中 潤	
芸術学特論AⅡ	芸術学特論AⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・東京大学）	外山紀久子	
芸術学特論BⅡ	芸術学特論BⅡ	講義	兼任講師	博士（文学・東京大学）	外山紀久子	
比較芸術学研究	比較芸術学研究A	演習				休講
	比較芸術学研究B	演習				休講
比較芸術学特論AⅠ	比較芸術学特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（日本語日本文学・学習院大学）	藤澤 茜	
比較芸術学特論BⅠ	比較芸術学特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（日本語日本文学・学習院大学）	藤澤 茜	
比較芸術学特論AⅡ	比較芸術学特論AⅡ	講義				休講
比較芸術学特論BⅡ	比較芸術学特論BⅡ	講義				休講
比較芸術学特論AⅢ	比較芸術学特論AⅢ	講義				休講
比較芸術学特論BⅢ	比較芸術学特論BⅢ	講義				休講
芸術情報論A	芸術情報論A	講義	兼任講師	博士（哲学・学習院大学）	三宅 秀和	
芸術情報論B	芸術情報論B	講義	兼任講師	博士（哲学・学習院大学）	三宅 秀和	
資料保存展示論研究Ⅰ	資料保存展示論研究A	演習	教授		○内川 隆志	
	資料保存展示論研究B	演習	教授		○内川 隆志	
資料保存展示論研究Ⅱ	資料保存展示論研究AⅡ	演習	教授		○山本 哲也	
	資料保存展示論研究BⅡ	演習	教授		○山本 哲也	
地域博物館論研究	地域博物館論研究A	演習	教授		○山本 哲也	
	地域博物館論研究B	演習	教授		○山本 哲也	
博物館史特論	博物館史特論	講義	兼任講師	博士（歴史学・法政大学）	金山 喜昭	
博物館学史特論	博物館学史特論	講義	教授		○山本 哲也	
欧米博物館史特論	欧米博物館史特論	講義	兼任講師	博士（歴史学・法政大学）	金山 喜昭	
博物館関係法規特論	博物館関係法規特論	講義	兼任講師		栗原 祐司	
博物館資料論特論AⅠ	博物館資料論特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（民俗学・國學院大學）	小川 直之	
博物館資料論特論BⅠ	博物館資料論特論BⅠ	講義	兼任講師		井本 悠紀	
博物館資料論特論AⅡ	博物館資料論特論AⅡ	講義	兼任講師		池田 宏	
博物館資料論特論BⅡ	博物館資料論特論BⅡ	講義	兼担教授		池田 榮史	
博物館経営特論	博物館経営特論	講義	兼任講師		井上 洋一	
博物館教育活動特論	博物館教育活動特論	講義	兼任講師	博士（歴史学・國學院大學）	駒見 和夫	
展示工学特論	展示工学特論	講義	兼任講師	博士（文学・早稲田大学）	山田 磯夫	
博物館学専門実習Ⅰ	博物館学専門実習AⅠ	実習	教授		○内川 隆志	オムニバス (内川・大東・深澤)
	博物館学専門実習BⅠ	実習	教授		○内川 隆志	オムニバス (内川・大東・深澤)
博物館学専門実習Ⅱ	博物館学専門実習AⅡ	実習	教授		○内川 隆志	インターンシップ
	博物館学専門実習BⅡ	実習	教授		○内川 隆志	インターンシップ
史学理論特論A	史学理論特論A	講義				休講

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
史学理論特論B	史学理論特論B	講義				休講
史料学研究	史料学研究A	演習				休講
	史料学研究B	演習				休講
史料学特論AⅠ	史料学特論AⅠ	講義	兼任講師	博士（文学・東京大学）	榎原雅治	
史料学特論BⅠ	史料学特論BⅠ	講義	兼任講師	博士（文学・東京大学）	榎原雅治	
史料学特論AⅡ	史料学特論AⅡ	講義				休講
史料学特論BⅡ	史料学特論BⅡ	講義				休講
文化人類学研究	文化人類学研究A	演習				休講
	文化人類学研究B	演習				休講
文化人類学特論A	文化人類学特論A	講義				休講
文化人類学特論B	文化人類学特論B	講義				休講
文化財学研究	文化財学研究A	演習				休講
	文化財学研究B	演習				休講
文化財学特論A	文化財学特論A	講義				休講
文化財学特論B	文化財学特論B	講義	兼任講師		井上洋一	
社会科教育学研究A	社会科教育学研究A	研究				休講
社会科教育学研究B	社会科教育学研究B	研究				休講
地理科教育学研究A	地理科教育学研究A	講義				休講
地理科教育学研究B	地理科教育学研究B	講義				休講
歴史科教育学研究A	歴史科教育学研究A	講義				休講
歴史科教育学研究B	歴史科教育学研究B	講義				休講
史料管理学	史料管理学A	講義	教授	博士（史学・中央大学）	○岩橋清美	
	史料管理学B	講義	教授	博士（史学・中央大学）	○岩橋清美	

注）○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者（指導教員）。

第3節 博士後期課程（文学研究科）

第1項 後期課程修了要件

後期課程修了（課程博士学位修得）要件

1. 在学期間 本大学院博士後期課程に標準修業年限3年以上在学するものとする。ただし、優れた業績をあげた者は2年以上在学すれば足りるものとする。
2. 必要単位 大学院学則の定めにより、12単位以上を修得するものとする。
3. 研究指導 各研究科並びに入学年度の定めにより、定期的に「研究指導」又は「論文指導演習」を受けなければならない。
4. 論文提出 博士学位申請論文を提出し、その審査及び試験に合格しなければならない。なお、提出に際しては本大学院学則・本学学位規則及び本便覧77頁の各研究科「博士学位の授与に関する内規」の項参照。

提出部数及び申請時に提出する書類等

学位授与申請に際しては、指定された様式に則って以下の書類を提出してください。

1. 学位授与申請書（1通） 指定用紙 様式1
2. 論文目録（1通） 指定用紙 様式2
3. 履歴書（1通） 指定用紙 様式3
4. 研究業績書（1通） 指定用紙 様式4
5. 住民票（1通）発行後3ヵ月以内のもの、本籍記載のもの
6. 学位申請論文（6部）
7. 論文の要旨（6部） 8,000字程度にまとめたもの
＊その他参考論文があるときは、当該参考論文（6部）も添付のこと。

なお、各様式については、SharePointにて確認・ダウンロードできます。

参考

文部科学省の定め（本学学位規則第11条）により、博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、その論文をインターネットの利用により公表することになっており、やむを得ない事由がある場合は、本学の承認を受けて当該論文の全文に代えてその内容の要約したものを公表するものとする。要約を公表した場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

また、博士の学位の名称を用いるときは、「博士（〇〇学・國學院大學）」のように、専門分野・授与大学名を附記すること。

第2項 修了必要単位数、論文指導演習、博士学位申請論文

修了必要単位数

12単位以上とする。

指導教員の「授業科目」又は指導教員の指定する「授業科目」から8単位以上、「論文指導演習A・B」12単位の修得を原則とする。

論文指導演習

指導教員の定める方針に従い、「論文指導演習A・B」を定期的に受けなければならない。「論文指導演習A・B」の曜時は、各自が指導教員と相談のうえ設定し、他の授業科目とともに登録しなければならない。

博士学位申請論文提出への過程

1. 後期課程入学後、6月末日までに指導教員の指導・承認を経て「博士学位申請論文作成計画書」を提出するものとする。
2. 研究の成果として毎年度の2月末日までに所定の様式による「年次研究成果報告書」を提出するものとする。最終学年の者は、1月中旬の指定日までに提出すること。
3. 提出期限は毎年4月又は9月とする。
なお、「博士学位申請論文中間報告」として博士論文の草稿（清書すれば完成論文となる構成と内

容のもの)を、博士学位申請論文提出の3ヵ月前までに提出すること。

ただし、「注」や「図表」等については必ずしも完成したものでもよい。

4. 「博士学位申請論文中間報告」の提出の有無に限らず、当該年度の「学位論文作成計画・論文要旨」・「年次研究成果報告書」を繰返し提出するものとする。
5. 博士学位申請論文提出に際しては、指導教員の承認を得なければならない。＊大学ホームページに掲載されている「学位修得までの流れ」を参照すること。

論文審査及び最終試験

博士学位申請論文を提出した者は、論文の審査、及び博士後期課程の最終試験（口述、公開審査）を受けなければならない。

課程博士の学位申請基準

神道学・宗教学専攻

- 研究業績として、査読制度を持ち、オープンアクセス可能な学術誌への掲載論文1編以上を含む3編以上の学術論文を公表した研究業績を有する者。
- 課程博士の学位申請論文枚数は、400字詰め原稿用紙に換算して400枚以上を原則とする。

文学専攻

- 研究業績として、査読制度を持ち、オープンアクセス可能な学術誌への掲載論文2編以上を含む3編以上の学術論文を公表していること。各コースで要件が異なるので必ず確認すること。
- 課程博士の学位申請論文の枚数は、日本語による場合、400字詰め原稿用紙に換算して400枚以上を原則とする。

史学専攻

- 研究業績として、原則として査読制度を持ち、オープンアクセス可能な学術誌への掲載論文を2編以上含んで合計4編以上（但し、未公開の論文のうち公刊が決定された論文をこの中に含めることができる）とする。
- 課程博士の学位申請論文枚数は、400字詰め原稿用紙に換算して400枚以上を原則とする。但し、外国語で執筆する場合はこれに準じた枚数とする。

課程博士の学位審査基準（各専攻共通）

1. 研究対象と研究目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること。
2. 研究対象に関わる先行研究が、網羅的かつ体系的に纏められ、そこに学位申請者の研究が位置づけられていること。
3. 研究資料の調査と収集が適切であり、分析と考察が論理的・実証的に適切であること。
4. 新しい知見と独創的な観点からの結論があり、かつ当該領域の学界で評価された学位申請者の研究が含まれていること。
5. 研究成果が当該分野の研究に寄与し、その分野の研究を進展させる内容であること。
6. 研究目的・方法・内容などが、研究倫理を遵守していること。
7. 学位申請者が当該分野における幅広く深い知識を持ち、その分野において指導的な役割を果たすことができる優れた能力を持つと認められる研究者であること。

第3項 開講講座表

開講講座表には、授業科目・担当教員・開講等の授業に関する重要な情報を記載しています。

博士後期課程

〔神道学・宗教学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
神道神学特殊研究Ⅰ	神道神学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 西岡和彦	
	神道神学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 西岡和彦	
神道神学特殊研究Ⅱ	神道神学特殊研究AⅡ	演習				休講
	神道神学特殊研究BⅡ	演習				休講
神道史特殊研究Ⅰ	神道史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 加瀬直弥	
	神道史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 加瀬直弥	
神道史特殊研究Ⅱ	神道史特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 武田秀章	
	神道史特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 武田秀章	
神道史特殊研究Ⅲ	神社史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 笹生 衛	
	神社史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 笹生 衛	
神道史特殊研究Ⅳ	神社史特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 藤本頼生	
	神社史特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 藤本頼生	
神道古典特殊研究	神道古典特殊研究A	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 松本久史	
	神道古典特殊研究B	演習	教 授	博士（神道学・國學院大學）	○ 松本久史	
宗教学特殊研究Ⅰ	宗教学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 遠藤 潤	
	宗教学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 遠藤 潤	
宗教学特殊研究Ⅱ	宗教学特殊研究AⅡ	演習				休講
	宗教学特殊研究BⅡ	演習				休講
宗教社会学特殊研究Ⅰ	宗教社会学特殊研究AⅠ	演習				休講
	宗教社会学特殊研究BⅠ	演習				休講
宗教社会学特殊研究Ⅱ	宗教社会学特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 黒崎浩行	
	宗教社会学特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（宗教学・國學院大學）	○ 黒崎浩行	
宗教行政特殊研究	宗教行政特殊研究A	演習				休講
	宗教行政特殊研究B	演習				休講

注) ○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者（指導教員）。

〔文学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
日本上代文学特殊研究Ⅰ	日本上代文学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 土 佐 秀 里	
	日本上代文学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 土 佐 秀 里	
日本上代文学特殊研究Ⅱ	日本上代文学特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 谷 口 雅 博	
	日本上代文学特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 谷 口 雅 博	
日本中古文学特殊研究Ⅰ	日本中古文学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 竹 内 正 彦	
	日本中古文学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 竹 内 正 彦	
日本中古文学特殊研究Ⅱ	日本中古文学特殊研究AⅡ	演習				休講
	日本中古文学特殊研究BⅡ	演習				休講
日本中世文学特殊研究Ⅰ	日本中世文学特殊研究AⅠ	演習				休講
	日本中世文学特殊研究BⅠ	演習				休講
日本近世文学特殊研究Ⅰ	日本近世文学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 岩 崎 雅 彦	
	日本近世文学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 岩 崎 雅 彦	
日本近世文学特殊研究Ⅱ	日本近世文学特殊研究AⅡ	演習	教 授		○ 中 村 正 明	
	日本近世文学特殊研究BⅡ	演習	教 授		○ 中 村 正 明	
日本近現代文学特殊研究Ⅰ	日本近現代文学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 石 川 則 夫	
	日本近現代文学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 石 川 則 夫	
日本近現代文学特殊研究Ⅱ	日本近現代文学特殊研究AⅡ	演習	准 教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 安 西 晋 二	
	日本近現代文学特殊研究BⅡ	演習	准 教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 安 西 晋 二	
日本古代語特殊研究Ⅰ	日本古代語特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 小 田 勝	
	日本古代語特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 小 田 勝	
日本古代語特殊研究Ⅱ	日本古代語特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 吉 田 永 弘	
	日本古代語特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 吉 田 永 弘	
日本近代語特殊研究Ⅰ	日本近代語特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
	日本近代語特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
日本近代語特殊研究Ⅱ	日本近代語特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（文学・東北大学）	○ 三 井 は る み	
	日本近代語特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（文学・東北大学）	○ 三 井 は る み	
中国文学特殊研究Ⅰ	中国文学特殊研究AⅠ	演習	教 授		○ 石 本 道 明	
	中国文学特殊研究BⅠ	演習	教 授		○ 石 本 道 明	
中国文学特殊研究Ⅱ	中国文学特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 立 石 展 大	
	中国文学特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 立 石 展 大	
中国文学特殊研究Ⅲ	中国文学特殊研究AⅢ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 浅 野 春 二	
	中国文学特殊研究BⅢ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 浅 野 春 二	
中国文学特殊研究Ⅳ	中国文学特殊研究AⅣ	演習	教 授		○ 宮 内 克 浩	
	中国文学特殊研究BⅣ	演習	教 授		○ 宮 内 克 浩	
伝承文学特殊研究Ⅰ	伝承文学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 飯 倉 義 之	
	伝承文学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 飯 倉 義 之	
伝承文学特殊研究Ⅱ	伝承文学特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 伊 藤 龍 平	
	伝承文学特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 伊 藤 龍 平	
伝統芸能特殊研究Ⅰ	伝統芸能特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 大 石 泰 夫	
	伝統芸能特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 大 石 泰 夫	
民俗学特殊研究Ⅰ	民俗学特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（民俗学・國學院大學）	○ 服 部 比 呂 美	
	民俗学特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（民俗学・國學院大學）	○ 服 部 比 呂 美	
民俗学特殊研究Ⅱ	民俗学特殊研究AⅡ	演習				休講
	民俗学特殊研究BⅡ	演習				休講
民俗学特殊研究Ⅲ	民俗学特殊研究AⅢ	演習				休講
	民俗学特殊研究BⅢ	演習				休講
国語教育実践特殊研究Ⅰ	国語教育実践特殊研究AⅠ	演習				休講
	国語教育実践特殊研究BⅠ	演習				休講
国語教育実践特殊研究Ⅱ	国語教育実践特殊研究AⅡ	演習	教 授		○ 齋 藤 智 哉	
	国語教育実践特殊研究BⅡ	演習	教 授		○ 齋 藤 智 哉	
日本語教育特殊研究Ⅰ	日本語教育特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
	日本語教育特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（文学・國學院大學）	○ 諸 星 美 智 直	
日本語教育特殊研究Ⅱ	日本語教育特殊研究AⅡ	演習	准 教 授	博士（教育学・広島大学）	○ 植 松 容 子	
	日本語教育特殊研究BⅡ	演習	准 教 授	博士（教育学・広島大学）	○ 植 松 容 子	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
日本語教育特殊研究Ⅲ	日本語教育特殊研究AⅢ	演習	客員教授		○ 菊地 康 人	
	日本語教育特殊研究BⅢ	演習	客員教授		○ 菊地 康 人	

注) ○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者(指導教員)。

〔史学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
日本古代史特殊研究Ⅰ	日本古代史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 佐藤 長 門	
	日本古代史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 佐藤 長 門	
日本古代史特殊研究Ⅱ	日本古代史特殊研究AⅡ	演習				休講
	日本古代史特殊研究BⅡ	演習				休講
日本中世史特殊研究Ⅰ	日本中世史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 高橋 秀 樹	
	日本中世史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（史学・学習院大学）	○ 高橋 秀 樹	
日本中世史特殊研究Ⅱ	日本中世史特殊研究AⅡ	演習				休講
	日本中世史特殊研究BⅡ	演習				休講
日本近世史特殊研究Ⅰ	日本近世史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 吉岡 孝	
	日本近世史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 吉岡 孝	
日本近世史特殊研究Ⅱ	日本近世史特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（史学・中央大学）	○ 岩橋 清 美	
	日本近世史特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（史学・中央大学）	○ 岩橋 清 美	
日本近現代史特殊研究Ⅰ	日本近現代史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 樋口 秀 実	
	日本近現代史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 樋口 秀 実	
日本近現代史特殊研究Ⅱ	日本近現代史特殊研究AⅡ	演習	教 授		○ 多和田真理子	
	日本近現代史特殊研究BⅡ	演習	教 授		○ 多和田真理子	
宗教史料学特殊研究	宗教史料学特殊研究A	演習				休講
	宗教史料学特殊研究B	演習				休講
歴史地理学特殊研究	歴史地理学特殊研究A	演習	准 教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 川名 禎	
	歴史地理学特殊研究B	演習	准 教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 川名 禎	
比較地誌学特殊研究	比較地誌学特殊研究A	演習				休講
	比較地誌学特殊研究B	演習				休講
地 図 学 特 殊 研 究	地 図 学 特 殊 研 究 A	演習	客 員 教 授		○ 吉田 敏 弘	
	地 図 学 特 殊 研 究 B	演習	客 員 教 授		○ 吉田 敏 弘	
東 洋 史 特 殊 研 究 Ⅰ	東 洋 史 特 殊 研 究 AⅠ	演習	准 教 授	博士（史学・明治大学）	○ 江川 式 部	
	東 洋 史 特 殊 研 究 BⅠ	演習	准 教 授	博士（史学・明治大学）	○ 江川 式 部	
東 洋 史 特 殊 研 究 Ⅱ	東 洋 史 特 殊 研 究 AⅡ	演習				休講
	東 洋 史 特 殊 研 究 BⅡ	演習				休講
東アジア史特殊研究	東アジア史特殊研究A	演習				休講
	東アジア史特殊研究B	演習				休講
西 洋 史 特 殊 研 究 Ⅰ	西 洋 史 特 殊 研 究 AⅠ	演習	教 授	博士（学術・東京大学）	○ 神長 英 輔	
	西 洋 史 特 殊 研 究 BⅠ	演習	教 授	博士（学術・東京大学）	○ 神長 英 輔	
西 洋 史 特 殊 研 究 Ⅱ	西 洋 史 特 殊 研 究 AⅡ	演習	教 授		○ 大久保桂子	
	西 洋 史 特 殊 研 究 BⅡ	演習	教 授		○ 大久保桂子	
比較文化史特殊研究	比較文化史特殊研究A	演習				休講
	比較文化史特殊研究B	演習				休講
日本考古学特殊研究	日本考古学特殊研究A	演習				休講
	日本考古学特殊研究B	演習				休講
先史考古学特殊研究	先史考古学特殊研究A	演習				休講
	先史考古学特殊研究B	演習				休講
歴史考古学特殊研究	歴史考古学特殊研究A	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 青木 敬	
	歴史考古学特殊研究B	演習	教 授	博士（歴史学・國學院大學）	○ 青木 敬	
外国考古学特殊研究	外国考古学特殊研究A	演習				休講
	外国考古学特殊研究B	演習				休講
考 古 学 特 殊 研 究	考 古 学 特 殊 研 究 A	演習				休講
	考 古 学 特 殊 研 究 B	演習				休講
美 学 特 殊 研 究	美 学 特 殊 研 究 A	演習	教 授	博士（人間・環境学・京都大学）	○ 岡本 源 太	
	美 学 特 殊 研 究 B	演習	教 授	博士（人間・環境学・京都大学）	○ 岡本 源 太	
美術史特殊研究Ⅰ	美術史特殊研究AⅠ	演習	教 授	博士（美術史・考古学・パリ第4大学）	○ 三浦 篤	
	美術史特殊研究BⅠ	演習	教 授	博士（美術史・考古学・パリ第4大学）	○ 三浦 篤	
美術史特殊研究Ⅱ	美術史特殊研究AⅡ	演習	教 授	博士（哲学・学習院大学）	○ 藤澤 紫	
	美術史特殊研究BⅡ	演習	教 授	博士（哲学・学習院大学）	○ 藤澤 紫	
美術史特殊研究Ⅲ	美術史特殊研究AⅢ	演習	客 員 教 授		○ 小池 寿 子	
	美術史特殊研究BⅢ	演習	客 員 教 授		○ 小池 寿 子	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
比較芸術学特殊研究	比較芸術学特殊研究A	演習				休講
	比較芸術学特殊研究B	演習				休講
芸術学特殊研究	芸術学特殊研究A	演習				休講
	芸術学特殊研究B	演習				休講
資料保存展示論特殊研究Ⅰ	資料保存展示論特殊研究AⅠ	演習	教 授		○ 内 川 隆 志	
	資料保存展示論特殊研究BⅠ	演習	教 授		○ 内 川 隆 志	
資料保存展示論特殊研究Ⅱ	資料保存展示論特殊研究AⅡ	演習	教 授		○ 山 本 哲 也	
	資料保存展示論特殊研究BⅡ	演習	教 授		○ 山 本 哲 也	
地域博物館論特殊研究	地域博物館論特殊研究A	演習	教 授		○ 山 本 哲 也	
	地域博物館論特殊研究B	演習	教 授		○ 山 本 哲 也	
博物館学特殊実習Ⅰ	博物館学特殊実習AⅠ	実習	教 授		○ 内 川 隆 志	オムニバス(内川・大塚・瀧)
	博物館学特殊実習BⅠ	実習	教 授		○ 内 川 隆 志	オムニバス(内川・大塚・瀧)
博物館学特殊実習Ⅱ	博物館学特殊実習AⅡ	実習	教 授		○ 内 川 隆 志	インターンシップ
	博物館学特殊実習BⅡ	実習	教 授		○ 内 川 隆 志	インターンシップ

注) ○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者(指導教員)。

第4章 法学研究科

第1節 教育研究上の目的、学位授与及び教育課程の編成・実施方針

研究科概要

法学研究科は、法律学や政治学の分野において、専門的な分析能力を身につけ、社会のさまざまな現象を分析評価し、主張・決断・実現し、そして、組織をリードできるような人材の養成を目標としています。そのような理念に基づき、先取り履修の促進や実務家教員による指導を積極的に行っています。

法学研究科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。
(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 法学研究科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/gsolo>



教育研究上の目的

法学研究科は、学部教育を基礎とし、法学及び政治学に関する、専門的分析能力を用いて先端的問題を総合的に分析・判断し社会的諸問題の解決に貢献する者、及び専攻分野に関し独創的研究を行い指導する能力をもつ研究者を養うことを目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を踏まえ、法学または政治学についての高度な専門知識を十分に自らのものとし、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を示す成果をあげた者に対し、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で修得した高度な専門知識と主体的で独自の姿勢に加えて、自らの研究成果を纏めるための研究計画を立案し、着実に実行することができ、かつ、実行のために必要とされる資料収集、読解能力、語学力及び情報処理技術などを身につけ、今後、専攻分野において独創的研究を継続的に行い、後進を指導する能力を身につけたことを示す成果をあげた者に対し、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程においては、学生が専門知識を修得し、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開設する。加えて、関連諸領域における法的・政治的な諸問題についても専門知識を修得できるように、指導教員以外が担当する授業科目を開設する。

博士後期課程においては、学生が専攻分野に関するより高度な専門知識を修得し、より独創的かつ自立的な研究活動に必要とされる高度な専門的技術を含めた研究能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開設する。

なお、新たに生起する問題や先進的な研究動向に応じた学修の機会を確保するために、特殊研究（演習）を開設する。

第2節 博士前期課程（法学研究科）

第1項 修了要件、修士学位申請論文

修了に必要な単位数

30単位（本学大学院学則第20条第2項、第4項及び第21条の規程により認定された単位を含む。）

修士学位論文審査基準

1. 研究テーマの妥当性
2. 先行研究に対する調査と整理の適切性
3. 調査・分析方法の妥当性
4. 論述と内容の論理一貫性
5. 論文構成（章、節および注）の適切性

修士学位申請論文

修士学位申請論文の体裁は、次の各研究科指定のとおりにすること。提出方法については、大学院事務課からの案内に基づき、オンライン方式で提出すること。

- 「研究コース」所属の者は「修士論文」を、「公務員養成コース」所属の者は「プロジェクト・ペーパー」を、それぞれ執筆する。
- 公務員養成コースの「プロジェクト・ペーパー」の題目を決めるにあたっては、各自が指導教員と相談の上、「自己の関心のある政策上の課題に関し、それを解明するために必要な学問分野の学術的知見を踏まえて、政策提言を行う」内容とする。
- 修士論文およびプロジェクト・ペーパーの字数は、12,000字以上であること。
- 書式は、タテ書でもヨコ書でもよいが、タテ書の場合でも、外国語を文章中に原語で引用する場合には、ヨコ書で表記すること。

第2項 履修方法

研究コース

研究コースは、法学又は政治学の研究職を目指す者のみならず、法学又は政治学に関する関心をさらに深めて学修したい者をも対象とし、後期課程への進学、又は、自らの関心を深めることを目標とする。

- 必修 指導教員の担当する講義4単位及び論文指導演習4単位、併せて8単位を修得すること。
- 選択イ 授業科目（本便覧49頁～51頁の授業科目の講義又は演習）のうちから併せて22単位以上を修得すること。
- ロ 科目名が同一でかつ担当教員も同一の科目については、指導教員の承認を得て、各科目4単位まで修了に必要な30単位に算入することができる。ただし、指導教員の担当する科目については、各科目6単位まで修了に必要な30単位に算入することができる。

＊なお、学部の授業科目を履修することはできる（教職に関する科目・諸資格講座科目を除く）が、修了に必要な単位数には含まれない。

公務員養成コース

公務員養成コースは、国家又は地方公務員を目指す者を対象とし、試験に合格するのみならず、就職後、実務においても学術的基礎に基づいた活躍ができるようになることを目標とする。

- 必修 指導教員の担当する講義4単位及び論文指導演習4単位、併せて8単位を修得すること。
- 選択イ 授業科目（本便覧49頁～51頁の授業科目の講義又は演習）のうちから併せて22単位以上を修得すること。
- ロ 科目名が同一でかつ担当教員も同一の科目については、指導教員の承認を得て、各科目6単位まで修了に必要な30単位に算入することができる。

＊なお、学部の授業科目を履修することはできる（教職に関する科目・諸資格講座科目を除く）が、修了に必要な単位数には含まれない。

研究指導・論文指導演習（各コース共通）

- イ 授業時間割以外に指導教員のもとで、1年次には「研究指導」を、2年次には「論文指導演習」を受けなければならない。
- ※但し、早期修了希望者は所定の手続きにより、1年次に「論文指導演習」を受けること。
- ロ 「研究指導」又は「論文指導演習」の曜時は、各自が指導教員と相談のうえ設定し、他の授業科目とともに登録しなければならない。
- ハ 秋季入試に合格し、公務員養成コースに登録して先取履修する者は、各自が指導教員と相談の上、先取履修する授業科目とともに「研究指導」に登録しなければならない。

コースの変更

「公務員養成コース」から「研究コース」に変更を希望する者は、毎年度の初めに申し出て手続をする。

第3項 開講講座表

開講講座表には、授業科目・担当教員・開講等の授業に関する重要な情報を記載しています。

博士前期課程

〔法律学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
法 哲 学 研 究	法 哲 学 研 究 A	講義				休講
	法 哲 学 研 究 B	講義				休講
日 本 法 制 史 研 究 I	日 本 法 制 史 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・國學院大學）	○長又高夫	
	日 本 法 制 史 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・國學院大學）	○長又高夫	
日 本 法 制 史 研 究 II	日 本 法 制 史 研 究 A	講義				休講
	日 本 法 制 史 研 究 B	講義				休講
東 洋 法 制 史 研 究	東 洋 法 制 史 研 究 A	講義	兼 任 講 師	博士（歴史学・國學院大學）	速 水 大	
	東 洋 法 制 史 研 究 B	講義	兼 任 講 師	博士（歴史学・國學院大學）	速 水 大	
西 洋 法 制 史 研 究	西 洋 法 制 史 研 究 A	講義	兼 任 講 師	法学博士（パリ第2大学）	松 本 英 実	
	西 洋 法 制 史 研 究 B	講義	兼 任 講 師	法学博士（パリ第2大学）	松 本 英 実	
外 国 法 研 究	外 国 法 研 究 A	講義	教 授		○ 捧 剛	
	外 国 法 研 究 B	講義				休講
	外 国 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 捧 剛	
憲 法 研 究 I	憲 法 研 究 A	講義				休講
	憲 法 研 究 B	講義	教 授		○ 植 村 勝 慶	
	憲 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 植 村 勝 慶	
憲 法 研 究 II	憲 法 研 究 A	講義	教 授		○ 平 地 秀 哉	
	憲 法 研 究 B	講義				休講
	憲 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 平 地 秀 哉	
憲 法 研 究 III	憲 法 研 究 A	講義				休講
	憲 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・中央大学）	○ 福 岡 英 明	
	憲 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・中央大学）	○ 福 岡 英 明	
行 政 法 研 究 I	行 政 法 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 高 橋 信 行	
	行 政 法 研 究 B	講義				休講
	行 政 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 高 橋 信 行	
行 政 法 研 究 II	行 政 法 研 究 A	講義				休講
	行 政 法 研 究 B	講義	教 授		○ 川 合 敏 樹	
	行 政 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 川 合 敏 樹	
国 際 法 研 究	国 際 法 研 究 A	講義	教 授		○ 宮 内 靖 彦	
	国 際 法 研 究 B	講義				休講
	国 際 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 宮 内 靖 彦	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
刑 法 研 究 I	刑 法 研 究 A	講義				休講
	刑 法 研 究 B	講義				休講
	刑 法 実 践 研 究	講義				休講
刑 法 研 究 II	刑 法 研 究 A	講義				休講
	刑 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 甘 利 航 司	
	刑 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 甘 利 航 司	
刑 事 訴 訟 法 研 究	刑 事 訴 訟 法 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 中 川 孝 博	
	刑 事 訴 訟 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 中 川 孝 博	
刑 事 政 策 研 究	刑 事 政 策 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・大阪市立大学）	○ 安 田 恵 美	
	刑 事 政 策 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・大阪市立大学）	○ 安 田 恵 美	
民 法 研 究 I	民 法 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 佐 藤 秀 勝	
	民 法 研 究 B	講義				休講
	民 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 佐 藤 秀 勝	
民 法 研 究 II	民 法 研 究 A	講義				休講
	民 法 研 究 B	講義				休講
民 法 研 究 III	民 法 研 究 A	講義	兼担准教授		古 賀 絢 子	
	民 法 研 究 B	講義				休講
	民 法 実 践 研 究	講義	兼担准教授		古 賀 絢 子	
民 法 研 究 IV	民 法 研 究 A	講義	兼担准教授		姫 野 学 郎	
	民 法 研 究 B	講義	兼担准教授		姫 野 学 郎	
民 法 研 究 V	民 法 研 究 A	講義				休講
	民 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・早稲田大学）	○ 一 木 孝 之	
	民 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・早稲田大学）	○ 一 木 孝 之	
民 法 研 究 VI	民 法 研 究 A	講義				休講
	民 法 研 究 B	講義				休講
	民 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 岡 田 康 夫	
民 事 訴 訟 法 研 究 I	民 事 訴 訟 法 研 究 A	講義	教 授		○ 佐 古 田 真 紀 子	
	民 事 訴 訟 法 研 究 B	講義	教 授		○ 佐 古 田 真 紀 子	
民 事 訴 訟 法 研 究 II	民 事 訴 訟 法 研 究 A	講義	兼担准教授		大 江 毅	
	民 事 訴 訟 法 研 究 B	講義	兼担准教授		大 江 毅	
商 法 研 究 I	商 法 研 究 A	講義				休講
	商 法 研 究 B	講義	教 授		○ 鈴 木 達 次	
	商 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 鈴 木 達 次	
商 法 研 究 II	商 法 研 究 A	講義	教 授		○ 森 川 隆	
	商 法 研 究 B	講義	教 授		○ 森 川 隆	
商 法 研 究 III	商 法 研 究 A	講義				休講
	商 法 研 究 B	講義	教 授		○ 中 曾 根 玲 子	
	商 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 中 曾 根 玲 子	
労 働 法 研 究	労 働 法 研 究 A	講義	教 授		○ 本 久 洋 一	
	労 働 法 研 究 B	講義				休講
	労 働 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 本 久 洋 一	
国 際 私 法 研 究	国 際 私 法 研 究 A	講義				休講
	国 際 私 法 研 究 B	講義				休講
政 治 学 研 究 I	政 治 学 研 究 A	講義	兼 任 講 師	博士（法学・東京大学）	上 神 貴 佳	
	政 治 学 研 究 B	講義	兼 任 講 師	博士（法学・東京大学）	上 神 貴 佳	
政 治 学 研 究 II	政 治 学 研 究 A	講義	兼担准教授		宮 下 大 志	
	政 治 学 研 究 B	講義	兼担准教授		宮 下 大 志	
政 治 学 研 究 III	政 治 学 研 究 A	講義	教 授	博士（学術・東京大学）	○ 山 本 健 太 郎	
	政 治 学 研 究 B	講義	教 授	博士（学術・東京大学）	○ 山 本 健 太 郎	
政 治 学 研 究 IV	政 治 学 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 藤 嶋 亮	
	政 治 学 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 藤 嶋 亮	
行 政 学 研 究	政 治 学 実 践 研 究	講義				休講
	行 政 学 研 究 A	講義	教 授	博士（政治学・東京都立大学）	○ 稲 垣 浩	
	行 政 学 研 究 B	講義	教 授	博士（政治学・東京都立大学）	○ 稲 垣 浩	
西 洋 政 治 史 研 究	西 洋 政 治 史 研 究 A	講義				休講
	西 洋 政 治 史 研 究 B	講義				休講

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
日 本 政 治 史 研 究	日 本 政 治 史 研 究A	講義	教 授	法学博士（東京都立大学）	○坂本一登	
	日 本 政 治 史 研 究B	講義	教 授	法学博士（東京都立大学）	○坂本一登	
西 洋 政 治 思 想 史 研 究	西 洋 政 治 思 想 史 研 究A	講義	教 授		○菊田真司	
	西 洋 政 治 思 想 史 研 究B	講義	教 授		○菊田真司	
日 本 政 治 思 想 史 研 究	日 本 政 治 思 想 史 研 究A	講義	兼担准教授		小原 薫	
	日 本 政 治 思 想 史 研 究B	講義	兼担准教授		小原 薫	
国 際 関 係 史 研 究	国 際 関 係 史 研 究A	講義	兼 任 講 師	博士（法学・北海道大学）	川嶋 周一	
	国 際 関 係 史 研 究B	講義	兼 任 講 師	博士（法学・北海道大学）	川嶋 周一	
国 際 政 治 研 究	国 際 政 治 研 究A	講義	兼 任 講 師	博士（法学・東京大学）	石田 憲	
	国 際 政 治 研 究B	講義	兼 任 講 師	博士（法学・東京大学）	石田 憲	
	公 共 政 策 演 習B	演習				未定
	公 共 政 策 演 習B	演習	兼 任 講 師		松尾 聖司	
法 律 学 特 殊 研 究 I	法 律 学 特 殊 研 究A	演習	教 授		○廣瀬 美佳	
	法 律 学 特 殊 研 究B	演習	教 授		○廣瀬 美佳	
法 律 学 特 殊 研 究 II	法 律 学 特 殊 研 究A	演習	兼担准教授	博士（法学・関西大学）	山下 裕樹	
	法 律 学 特 殊 研 究B	演習	兼担准教授	博士（法学・関西大学）	山下 裕樹	
法 律 学 特 殊 研 究 III	法 律 学 特 殊 研 究A	演習	兼担准教授	博士（法学・東京大学）	小川 亮	
	法 律 学 特 殊 研 究B	演習	兼担准教授	博士（法学・東京大学）	小川 亮	
法 律 学 特 殊 研 究 IV	法 律 学 特 殊 研 究A	演習	教 授	法学博士（國學院大學）	高内 寿夫	
	法 律 学 特 殊 研 究B	演習	教 授	法学博士（國學院大學）	高内 寿夫	
法 律 学 特 殊 研 究 V	法 律 学 特 殊 研 究A	演習	兼担准教授		川村 尚子	
	法 律 学 特 殊 研 究B	演習	兼担准教授		川村 尚子	
政 治 学 特 殊 研 究 I	政 治 学 特 殊 研 究A	演習				休講
	政 治 学 特 殊 研 究B	演習				休講
マスター・キャリア・プランニング	キャリア・プランニングA	演習	兼 任 講 師		荻野 徹	
	キャリア・プランニングB	演習	兼 任 講 師		前田 順一郎	
研 究 指 導	研 究 指 導 A				専任教員全員	
	研 究 指 導 B				専任教員全員	
論 文 指 導 演 習	論 文 指 導 演 習A	演習			専任教員全員	
	論 文 指 導 演 習B	演習			専任教員全員	

注）○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者（指導教員）。

第3節 博士後期課程（法学研究科）

第1項 後期課程修了要件

後期課程修了（課程博士学位修得）要件

1. 在学期間 本大学院博士後期課程に標準修業年限3年以上在学するものとする。ただし、優れた業績をあげた者は2年以上在学すれば足りるものとする。
2. 必要単位 大学院学則の定めにより、12単位以上を修得するものとする。
3. 研究指導 各研究科並びに入学年度の定めにより、定期的に「研究指導」又は「論文指導演習」を受けなければならない。
4. 論文提出 博士学位申請論文を提出し、その審査及び試験に合格しなければならない。なお、提出に際しては本大学院学則・本学学位規則及び本便覧77頁の各研究科「博士学位の授与に関する内規」の項参照。

提出部数及び申請時に提出する書類等

学位授与申請に際しては、指定された様式に則って以下の書類を提出してください。

1. 学位授与申請書（1通） 指定用紙 様式1
2. 論文目録（1通） 指定用紙 様式2
3. 履歴書（1通） 指定用紙 様式3
4. 研究業績書（1通） 指定用紙 様式4
5. 住民票（1通） 発行後3ヵ月以内のもの、本籍記載のもの
6. 学位申請論文（6部）
7. 論文の要旨（6部） 8,000字程度にまとめたもの
*その他参考論文があるときは、当該参考論文（6部）も添付のこと。

なお、各様式については、SharePointにて確認・ダウンロードできます。

参考

文部科学省の定め（本学学位規則第11条）により、博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、その論文をインターネットの利用により公表することになっており、やむを得ない事由がある場合は、本学の承認を受けて当該論文の全文に代えてその内容の要約したものを公表するものとする。要約を公表した場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

また、博士の学位の名称を用いるときは、「博士（〇〇学・國學院大學）」のように、専門分野・授与大学名を附記すること。

第2項 修了必要単位数、履修方法、博士学位申請論文

修了必要単位数

12単位以上とする。

履修方法

単位

1. 指導教員が担当する授業科目（講義又は演習。なお、論文指導演習を含む）もしくは、指導教員が指定する授業科目から12単位以上を修得するものとする。
2. 「論文指導演習」は、後期課程入学後3年間を通じて8単位以上修得するものとする。

研究指導・論文指導演習

1. 授業時間割科目以外に指導教員のもとで、定期的に「研究指導」又は「論文指導演習」を受けなければならない。
2. 「研究指導」又は「論文指導演習」の曜時は、各自が指導教員と相談のうえ設定し、他の授業科目とともに登録しなければならない。

博士学位申請論文の提出

1. 博士学位申請論文提出に際しては、指導教員の承認を得なければならない。
2. 提出期限は毎年9月の所定の期日とする。

課程博士の学位審査基準

1. 研究の学問的意義
2. 先行研究に対する網羅的な調査と、それを踏まえた研究視角の明瞭性
3. 研究の目的と特性からみた、調査・分析方法の学問的妥当性
4. 論述と内容の論理一貫性および研究成果の独創性
5. 論文構成（章・節および注）の厳密さと適切性

第3項 開講講座表

開講講座表には、授業科目・担当教員・開講等の授業に関する重要な情報を記載しています。

博士後期課程

〔法律学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
法 哲 学 研 究	法 哲 学 研 究 A	講義				休講
	法 哲 学 研 究 B	講義				休講
日 本 法 制 史 研 究 I	日 本 法 制 史 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・國學院大學）	○ 長 又 高 夫	
	日 本 法 制 史 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・國學院大學）	○ 長 又 高 夫	
日 本 法 制 史 研 究 II	日 本 法 制 史 研 究 A	講義				休講
	日 本 法 制 史 研 究 B	講義				休講
東 洋 法 制 史 研 究	東 洋 法 制 史 研 究 A	講義	兼 任 講 師	博士（歴史学・國學院大學）	速 水 大	
	東 洋 法 制 史 研 究 B	講義	兼 任 講 師	博士（歴史学・國學院大學）	速 水 大	
西 洋 法 制 史 研 究	西 洋 法 制 史 研 究 A	講義	兼 任 講 師	法学博士（パリ第2大学）	松 本 英 実	
	西 洋 法 制 史 研 究 B	講義	兼 任 講 師	法学博士（パリ第2大学）	松 本 英 実	
外 国 法 研 究	外 国 法 研 究 A	講義	教 授		○ 捧 剛	
	外 国 法 研 究 B	講義				休講
	外 国 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 捧 剛	
憲 法 研 究 I	憲 法 研 究 A	講義				休講
	憲 法 研 究 B	講義	教 授		○ 植 村 勝 慶	
	憲 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 植 村 勝 慶	
憲 法 研 究 II	憲 法 研 究 A	講義	教 授		○ 平 地 秀 哉	
	憲 法 研 究 B	講義				休講
	憲 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 平 地 秀 哉	
憲 法 研 究 III	憲 法 研 究 A	講義				休講
	憲 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・中央大学）	○ 福 岡 英 明	
	憲 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・中央大学）	○ 福 岡 英 明	
行 政 法 研 究 I	行 政 法 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 高 橋 信 行	
	行 政 法 研 究 B	講義				休講
	行 政 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 高 橋 信 行	
行 政 法 研 究 II	行 政 法 研 究 A	講義				休講
	行 政 法 研 究 B	講義	教 授		○ 川 合 敏 樹	
	行 政 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 川 合 敏 樹	
国 際 法 研 究	国 際 法 研 究 A	講義	教 授		○ 宮 内 靖 彦	
	国 際 法 研 究 B	講義				休講
	国 際 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 宮 内 靖 彦	
刑 法 研 究 I	刑 法 研 究 A	講義				休講
	刑 法 研 究 B	講義				休講
	刑 法 実 践 研 究	講義				休講
刑 法 研 究 II	刑 法 研 究 A	講義				休講
	刑 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 甘 利 航 司	
	刑 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 甘 利 航 司	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
刑 事 訴 訟 法 研 究	刑 事 訴 訟 法 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 中 川 孝 博	
	刑 事 訴 訟 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 中 川 孝 博	
刑 事 政 策 研 究	刑 事 政 策 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・大阪一立大学）	○ 安 田 恵 美	
	刑 事 政 策 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・大阪一立大学）	○ 安 田 恵 美	
民 法 研 究 I	民 法 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 佐 藤 秀 勝	
	民 法 研 究 B	講義				休講
	民 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・一橋大学）	○ 佐 藤 秀 勝	
民 法 研 究 II	民 法 研 究 A	講義				休講
	民 法 研 究 B	講義				休講
民 法 研 究 III	民 法 研 究 A	講義	兼担准教授		古 賀 絢 子	
	民 法 研 究 B	講義				休講
	民 法 実 践 研 究	講義	兼担准教授		古 賀 絢 子	
民 法 研 究 IV	民 法 研 究 A	講義	兼担准教授		姫 野 学 郎	
	民 法 研 究 B	講義	兼担准教授		姫 野 学 郎	
民 法 研 究 V	民 法 研 究 A	講義				休講
	民 法 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・早稲田大学）	○ 一 木 孝 之	
	民 法 実 践 研 究	講義	教 授	博士（法学・早稲田大学）	○ 一 木 孝 之	
民 法 研 究 VI	民 法 研 究 A	講義				休講
	民 法 研 究 B	講義				休講
	民 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 岡 田 康 夫	
民 事 訴 訟 法 研 究 I	民 事 訴 訟 法 研 究 A	講義	教 授		○ 佐 古 田 真 紀 子	
	民 事 訴 訟 法 研 究 B	講義	教 授		○ 佐 古 田 真 紀 子	
民 事 訴 訟 法 研 究 II	民 事 訴 訟 法 研 究 A	講義	兼担准教授		大 江 毅	
	民 事 訴 訟 法 研 究 B	講義	兼担准教授		大 江 毅	
商 法 研 究 I	商 法 研 究 A	講義				休講
	商 法 研 究 B	講義	教 授		○ 鈴 木 達 次	
	商 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 鈴 木 達 次	
商 法 研 究 II	商 法 研 究 A	講義	教 授		○ 森 川 隆	
	商 法 研 究 B	講義	教 授		○ 森 川 隆	
商 法 研 究 III	商 法 研 究 A	講義				休講
	商 法 研 究 B	講義	教 授		○ 中 曾 根 玲 子	
	商 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 中 曾 根 玲 子	
労 働 法 研 究	労 働 法 研 究 A	講義	教 授		○ 本 久 洋 一	
	労 働 法 研 究 B	講義				休講
	労 働 法 実 践 研 究	講義	教 授		○ 本 久 洋 一	
国 際 私 法 研 究	国 際 私 法 研 究 A	講義				休講
	国 際 私 法 研 究 B	講義				休講
政 治 学 研 究 I	政 治 学 研 究 A	講義	兼 任 講 師	博士（法学・東京大学）	上 神 貴 佳	
	政 治 学 研 究 B	講義	兼 任 講 師	博士（法学・東京大学）	上 神 貴 佳	
政 治 学 研 究 II	政 治 学 研 究 A	講義	兼担准教授		宮 下 大 志	
	政 治 学 研 究 B	講義	兼担准教授		宮 下 大 志	
政 治 学 研 究 III	政 治 学 研 究 A	講義	教 授	博士（学術・東京大学）	○ 山 本 健 太 郎	
	政 治 学 研 究 B	講義	教 授	博士（学術・東京大学）	○ 山 本 健 太 郎	
政 治 学 研 究 IV	政 治 学 研 究 A	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 藤 嶋 亮	
	政 治 学 研 究 B	講義	教 授	博士（法学・東京大学）	○ 藤 嶋 亮	
	政 治 学 実 践 研 究	講義				休講
行 政 学 研 究	行 政 学 研 究 A	講義	教 授	博士（政治学・東京都立大学）	○ 稲 垣 浩	
	行 政 学 研 究 B	講義	教 授	博士（政治学・東京都立大学）	○ 稲 垣 浩	
西 洋 政 治 史 研 究	西 洋 政 治 史 研 究 A	講義				休講
	西 洋 政 治 史 研 究 B	講義				休講
日 本 政 治 史 研 究	日 本 政 治 史 研 究 A	講義	教 授	法学博士（東京都立大学）	○ 坂 本 一 登	
	日 本 政 治 史 研 究 B	講義	教 授	法学博士（東京都立大学）	○ 坂 本 一 登	
西 洋 政 治 思 想 史 研 究	西 洋 政 治 思 想 史 研 究 A	講義	教 授		○ 菊 田 真 司	
	西 洋 政 治 思 想 史 研 究 B	講義	教 授		○ 菊 田 真 司	
日 本 政 治 思 想 史 研 究	日 本 政 治 思 想 史 研 究 A	講義	兼担准教授		小 原 薫	
	日 本 政 治 思 想 史 研 究 B	講義	兼担准教授		小 原 薫	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
国際関係史研究	国際関係史研究A	講義	兼任講師	博士（法学・北海道大学）	川嶋周一	
	国際関係史研究B	講義	兼任講師	博士（法学・北海道大学）	川嶋周一	
国際政治研究	国際政治研究A	講義	兼任講師	博士（法学・東京大学）	石田 憲	
	国際政治研究B	講義	兼任講師	博士（法学・東京大学）	石田 憲	
	公共政策演習B	演習				未定
	公共政策演習B	演習	兼任講師		松尾聖司	
法学特殊研究Ⅰ	法学特殊研究A	演習	教 授		○廣瀬美佳	
	法学特殊研究B	演習	教 授		○廣瀬美佳	
法学特殊研究Ⅱ	法学特殊研究A	演習	兼担准教授	博士（法学・関西大学）	山下裕樹	
	法学特殊研究B	演習	兼担准教授	博士（法学・関西大学）	山下裕樹	
法学特殊研究Ⅲ	法学特殊研究A	演習	兼担准教授	博士（法学・東京大学）	小川 亮	
	法学特殊研究B	演習	兼担准教授	博士（法学・東京大学）	小川 亮	
法学特殊研究Ⅳ	法学特殊研究A	演習	教 授	法学博士（國學院大學）	高内寿夫	
	法学特殊研究B	演習	教 授	法学博士（國學院大學）	高内寿夫	
法学特殊研究Ⅴ	法学特殊研究A	演習	兼担准教授		川村尚子	
	法学特殊研究B	演習	兼担准教授		川村尚子	
政治学特殊研究Ⅰ	政治学特殊研究A	演習				休講
	政治学特殊研究B	演習				休講
マスター・キャリア・プランニング	キャリア・プランニングA	演習	兼任講師		荻野 徹	
	キャリア・プランニングB	演習	兼任講師		前田順一郎	

注）○印を付した教員は本年度の論文指導演習担当者（指導教員）。

第5章 経済学研究科

第1節 教育研究上の目的、学位授与及び教育課程の編成・実施方針

研究科概要

経済学研究科は小規模の研究科です。そのため、専任教員が相互に連携し、それぞれの研究テーマに対応できる態勢をとりながら、大学院生のニーズに応じた幅広い領域の研究指導を実現しています。将来、研究者や教育者をを目指す者、専門知識が必要な企業への就職を目指す者、税理士や会計士などの高度専門職を目指す者、母国に帰って指導的な役割を果たすことを目指す留学生など様々ですが、大学院生一人ひとりの要望を尊重しつつ、教育・研究指導の充実を図っています。

経済学研究科の詳細は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。
(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 経済学研究科

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/gsoe>



教育研究上の目的

経済学研究科は、学部教育を基礎とし、経済及び経済学に関する、専門的知識と能力をもつ職業人、及び豊かな学識と創造的な研究能力をもつ研究者を育成することを目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見を踏まえ、経済学、経営学、会計学または税務に関わる専門分野について十分な学力があると認定された者に対して、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で求められた最先端の専門的知識に加えて、理論的革新や新しい知見の発見などの独創的研究を行い、今後、専攻分野において研究・教育する能力を身につけたことを示すことができる成果をあげた者に対して、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

博士前期課程においては、指導教員が担当する授業科目および論文指導を通じて、自己の専門領域における専門的知識を学ぶことと並行し、自己の専門領域の関連諸領域について授業科目の履修を通して学ぶこと。さらにアカデミック・コース、キャリア・コースの各コースを選択した者は、当該コースの選択必修科目から所定の単位数の科目を修得すること。

博士後期課程においては、指導教員が担当・指定する授業科目を修得するとともに、指導教員のもとで研究指導を受けること。

第2節 博士前期課程（経済学研究科）

第1項 修了要件、修士学位論文

修了に必要な単位数

本大学院博士前期課程に、原則として2年以上在学し、30単位（※注1）を修得したうえで、最終試験（修士学位申請論文及びこれに関連した学問領域についての口述試験）に合格した場合に、修士の学位が授与される。

なお、学部の授業科目は、履修することはできる（教職専門科目・諸資格講座科目等を除く）が、修了要件には含まれない。

※注1 本学大学院学則第20条第2項・第3項及び第22条により修得した単位、同21条により認定された単位を含む。

カリキュラムについて

指導教員・副指導教員（アカデミック・コースのみ）は入学時の研究計画に基づき、経済学研究科委員会で決定し告知する。なお、研究内容により指導教員を変更したい場合は1年次後期、2年次前期授業開始までに申し出ること。

修士学位論文審査基準

1. 研究対象と目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること。
2. 研究対象に関わる先行研究が、網羅的かつ体系的に纏められ、そこに学位申請者の研究が位置づけられていること。
3. 研究資料の調査と収集が適切であり、分析と考察が論理的・実証的に適切であること。
4. 研究成果が当該分野の研究に寄与する内容であること。
5. 研究目的・方法・内容などが、研究倫理を遵守していること。
6. 学位申請者が当該分野における幅広く深い知識を持ち、その分野で優れた能力を示すと認められること。

修士学位申請論文

修士学位申請論文の体裁は、次の研究科指定のとおりにすること。提出方法については、大学院事務課からの案内に基づき、オンライン方式で提出すること。

- 修士論文は20,000字以上（図表を含めない）とする。
- 用紙サイズはA4サイズとし、書式は指導教員の指示に従うこと。

第2項 履修方法

経済学専攻

●アカデミック・コース

アカデミック・コースは経済学ないし経営学分野において、将来的に研究者を目指す者または高度な学術的知識を必要とする職業に就く者を対象とし、当該学術分野の基本的な知見を身につけることを目的とする。

科目区分		履修方法	単位数
	論文指導演習A（前期） 論文指導演習B（後期）	1年次4単位（A・Bそれぞれ2単位） 2年次4単位（A・Bそれぞれ2単位）	8単位
専攻必修科目	研究方法と理論Ⅰ	1年次前期2単位	2単位
専攻選択科目	理論経済学特論AⅠ 統計学特論A 経営学特論AⅠ	左記3科目のうちから2科目を修得すること。	2科目4単位
選択科目		指導教員及び副指導教員の授業科目を、原則として2年間履修し、8単位以上修得すること。ただし、指導教員担当科目のうち必修単位数を超えて修得した場合は、超えた単位のうち4単位までを選択単位に充当できる。	16単位
合計			30単位以上
修士学位論文			—

1. 指導教員又は指導教員以外の授業科目（講義）のうちから20単位以上を修得すること。
2. 指導教員以外（副指導教員も含む）の同一授業科目は、継続して修得しても修了単位としては認定しない。
3. 指導教員が学生の研究上特に必要と認めて修得させる他の研究科・他の専攻の授業科目については、8単位までを、修了に要する単位として充当することができる。

●キャリア・コース

キャリア・コースは税理士試験の科目免除を目指す者を対象とし、免除を認定されるに足る修士論文の作成を行うことを目的とする。

科目区分		履修方法	単位数
	論文指導演習A（前期） 論文指導演習B（後期）	1年次4単位（A・Bそれぞれ2単位） 2年次4単位（A・Bそれぞれ2単位）	8単位
専攻必修科目	研究方法と理論Ⅱ	1年次前期2単位	2単位
選択科目			16単位以上
	税務特論	1年次に履修すること	2単位
合計			30単位以上
修士学位論文			—

1. 指導教員又は指導教員以外の授業科目（講義）のうちから20単位以上を修得すること。
2. 指導教員以外の同一授業科目は、継続して修得しても修了単位としては認定しない。
3. 指導教員が学生の研究上特に必要と認めて修得させる他の研究科・他の専攻の授業科目については、8単位までは、修了に要する単位として充当することができる。

論文指導演習（各コース共通）

1. 授業時間割以外に指導教員のもとで、「論文指導演習」を定期的に受けなければならない。
2. 「論文指導演習」の曜時は、各自が指導教員と相談のうえ設定し、他の授業科目とともに登録しなければならない。
3. ただし、休学等により正規の履修方法を採れなかった場合には、A／Bの別にかかわらず、論文指導演習を8単位修得すれば、必修科目の要件を満たしたものとする。

第3項 開講講座表

開講講座表には、授業科目・担当教員・開講等の授業に関する重要な情報を記載しています。

博士前期課程

〔経済学専攻〕

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	選択コース		職名	学位	教員名	備考
			アカデミック	キャリア				
理論経済学特論Ⅰ	理論経済学特論AⅠ	講義	★	★	教授	博士（経済学・一橋大学）	細谷 圭	
	理論経済学特論BⅠ	講義	★	★	教授	博士（経済学・一橋大学）	細谷 圭	
理論経済学特論Ⅱ	理論経済学特論AⅡ	講義	★	★				休講
	理論経済学特論BⅡ	講義	★	★				休講
経済学史特論Ⅰ	経済学史特論AⅠ	講義	★					休講
	経済学史特論BⅠ	講義	★		教授		尾近 裕幸	
貨幣金融特論Ⅰ	貨幣金融特論AⅠ	講義	★	★				休講
	貨幣金融特論BⅠ	講義	★	★	教授	博士（経済学・國學院大學）	木村 秀史	
貨幣金融特論Ⅱ	貨幣金融特論AⅡ	講義	★	★	教授	Ph.D. (Economics・ Massachusetts Institute of Technology)	齊藤 誠	
	貨幣金融特論BⅡ	講義	★	★				休講
財政学特論Ⅰ	財政学特論AⅠ	講義	★	★				休講
	財政学特論BⅠ	講義	★	★				休講
財政学特論Ⅱ	財政学特論AⅡ	講義	★	★				休講
	財政学特論BⅡ	講義	★	★	教授	博士（経済学・國學院大學）	根岸 毅宏	
経済政策特論Ⅰ	経済政策特論AⅠ	講義	★					休講
	経済政策特論BⅠ	講義	★					休講
経済政策特論Ⅱ	経済政策特論AⅡ	講義	★					休講
	経済政策特論BⅡ	講義	★		教授		林 行成	
経済政策特論Ⅲ	経済政策特論AⅢ	講義	★					休講
	経済政策特論BⅢ	講義	★					休講
経済政策特論Ⅳ	経済政策特論AⅣ	講義	★		教授	博士（理学・東北大学）	山本 健太	
	経済政策特論BⅣ	講義	★					休講
国際経済特論Ⅰ	国際経済特論AⅠ	講義	★					休講
	国際経済特論BⅠ	講義	★	★	教授		高橋 克秀	
国際経済特論Ⅱ	国際経済特論AⅡ	講義	★		教授		中馬 祥子	
	国際経済特論BⅡ	講義	★					休講
国際経済特論Ⅲ	国際経済特論AⅢ	講義	★					休講
	国際経済特論BⅢ	講義	★		教授	博士（経営学・立命館大学）	細井 長	
社会政策特論Ⅰ	社会政策特論AⅠ	講義	★		教授		水無田 気流	
	社会政策特論BⅠ	講義	★					休講
社会政策特論Ⅱ	社会政策特論AⅡ	講義	★					休講
	社会政策特論BⅡ	講義	★		教授		中泉 真樹	
社会政策特論Ⅲ	社会政策特論AⅢ	講義	★					休講
	社会政策特論BⅢ	講義	★		教授	文学博士（上智大学）	小木 曾道夫	
社会政策特論Ⅳ	社会政策特論AⅣ	講義	★					休講
	社会政策特論BⅣ	講義	★		教授	博士（学術・東京大学）	田原 裕子	
社会政策特論Ⅴ	社会政策特論AⅤ	講義	★					休講
	社会政策特論BⅤ	講義	★		教授	博士（経済学・大阪市立大学）	大西 祥恵	
統計学特論	統計学特論A	講義	★		教授		高橋 克秀	
	統計学特論B	講義	★					休講
経済史特論Ⅰ	経済史特論AⅠ	講義	★					休講
	経済史特論BⅠ	講義	★		教授	博士（経済学・東京大学）	杉山 里枝	
経済史特論Ⅱ	経済史特論AⅡ	講義	★		准教授		尾崎 麻弥子	
	経済史特論BⅡ	講義	★					休講
計量経済学特論	計量経済学特論A	講義	★					休講
	計量経済学特論B	講義	★					休講
経営学特論Ⅰ	経営学特論AⅠ	講義	★	★	教授	博士（経営学・東北大学）	星野 広和	
	経営学特論BⅠ	講義	★	★	教授	博士（商学・一橋大学）	尾田 基	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	選択コース		職名	学位	教員名	備考
			アカデミック	キャリア				
経営学特論Ⅱ	経営学特論AⅡ	講義	★					休講
	経営学特論BⅡ	講義	★		教授	博士（経営学・東北大学）	星野 広和	
経営学特論Ⅲ	経営学特論AⅢ	講義	★		教授	博士（経済学・國學院大學）	小野 正人	
	経営学特論BⅢ	講義	★					休講
経営学特論Ⅳ	経営学特論AⅣ	講義	★					休講
	経営学特論BⅣ	講義	★		教授		野村 一夫	
経営学特論Ⅴ	経営学特論AⅤ	講義	★		准教授		藤山 圭	
	経営学特論BⅤ	講義	★					休講
経営学特論Ⅵ	経営学特論AⅥ	講義	★		准教授		芳賀 英明	
	経営学特論BⅥ	講義	★					休講
経営学特論Ⅶ	経営学特論AⅦ	講義	★					休講
	経営学特論BⅦ	講義	★		教授	博士（経済学・國學院大學）	宮下 雄治	
経営学特論Ⅷ	経営学特論AⅧ	講義	★		教授	博士（学術・東京大学）	手塚 貞治	
	経営学特論BⅧ	講義	★					休講
経営学特論Ⅸ	経営学特論AⅨ	講義	★					休講
	経営学特論BⅨ	講義	★		教授	博士（工学・東京工業大学）	鈴木 智之	
会計学特論Ⅰ	会計学特論AⅠ	講義	★					休講
	会計学特論BⅠ	講義	★	★	准教授		東海林 孝一	
会計学特論Ⅱ	会計学特論AⅡ	講義	★	★				休講
	会計学特論BⅡ	講義	★	★				休講
会計学特論Ⅲ	会計学特論AⅢ	講義	★	★				休講
	会計学特論BⅢ	講義	★	★				休講
経営史特論	経営史特論A	講義	★					休講
	経営史特論B	講義	★					休講
税務特論Ⅰ	税務特論AⅠ	講義	★	★	教授(特別専任)		日野 雅彦	
	税務特論BⅠ	講義	★	★	教授(特別専任)		日野 雅彦	
税務特論Ⅱ	税務特論AⅡ	講義	★	★	客員教授		木上 律子	
	税務特論BⅡ	講義	★	★	客員教授		木上 律子	
税務特論Ⅲ	税務特論AⅢ	講義	★	★	客員教授		梶野 泰子	
	税務特論BⅢ	講義	★	★	客員教授		梶野 泰子	
税務特論Ⅳ	税務特論AⅣ	講義	★	★	教授(特別専任)		原 省三	
	税務特論BⅣ	講義	★	★	教授(特別専任)		原 省三	
税法総論	税法総論A	講義	★	★				休講
	税法総論B	講義	★	★				休講
税務特講	税務特講	講義		コース必修	客員教授		木上 律子	
研究方法と倫理Ⅰ	研究方法と倫理Ⅰ	講義	必修		教授	博士（商学・一橋大学）	尾田 基	
研究方法と倫理Ⅱ	研究方法と倫理Ⅱ	講義		必修	教授(特別専任)		日野 雅彦	
論文指導演習	論文指導演習A	演習					専任教員全員	
	論文指導演習B	演習					専任教員全員	

注1) 指導教員については、入学時に指示する。

注2) 各コース共通：1年次前期に「研究方法と倫理」を履修すること。

注3) キャリアコース：1年次後期に「税務特講」を履修すること。

注4) 各コース共通：それぞれ当該の列に★印を付した授業科目の中から12単位以上を修得すること。

注5) 各コース共通：1年次は「研究指導」、2年次は「論文指導演習」を履修すること。

第3節 博士後期課程（経済学研究科）

第1項 後期課程修了要件

後期課程修了（課程博士学位修得）要件

1. 在学期間 本大学院博士後期課程に標準修業年限3年以上在学するものとする。ただし、優れた業績をあげた者は2年以上在学すれば足りるものとする。
2. 必要単位 大学院学則の定めにより、12単位以上を修得するものとする。
3. 研究指導 各研究科並びに入学年度の定めにより、定期的に「研究指導」又は「論文指導演習」を受けなければならない。
4. 論文提出 博士学位申請論文を提出し、その審査及び試験に合格しなければならない。なお、提出に際しては本大学院学則・本学学位規則及び本便覧77頁の各研究科「博士学位の授与に関する内規」の項参照。

提出部数及び申請時に提出する書類等

学位授与申請に際しては、指定された様式に則って以下の書類を提出してください。

1. 学位授与申請書（1通） 指定用紙 様式1
2. 論文目録（1通） 指定用紙 様式2
3. 履歴書（1通） 指定用紙 様式3
4. 研究業績書（1通） 指定用紙 様式4
5. 住民票（1通） 発行後3ヵ月以内のもの、本籍記載のもの
6. 学位申請論文（6部）
7. 論文の要旨（6部） 8,000字程度にまとめたもの
*その他参考論文があるときは、当該参考論文（6部）も添付のこと。

なお、各様式については、SharePointにて確認・ダウンロードできます。

参考

文部科学省の定め（本学学位規則第11条）により、博士の学位を授与された者は、授与された日から1年以内に、その論文をインターネットの利用により公表することになっており、やむを得ない事由がある場合は、本学の承認を受けて当該論文の全文に代えてその内容の要約したものを公表するものとする。要約を公表した場合、本学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

また、博士の学位の名称を用いるときは、「博士（○○学・國學院大學）」のように、専門分野・授与大学名を附記すること。

第2項 修了必要単位数、履修方法、博士学位申請論文

修了必要単位数

12単位以上とする。

履修方法

単位

指導教員の「授業科目」又は指導教員の指定する「授業科目」から8単位以上修得するものとし、「論文指導演習」は、後期課程入学後3年間を通じて8単位以上修得するものとする。

研究指導・論文指導演習

1. 授業時間割以外に指導教員のもとで定期的に「研究指導」を受けなければならない。
2. 「研究指導」又は「論文指導演習」の曜時は、各自が指導教員と相談のうえ設定し、他の授業科目とともに登録しなければならない。

博士学位申請論文の提出

1. 博士学位申請論文提出に際しては、指導教員の承認を得なければならない。
2. 提出期限は毎年10月とする。

論文審査及び最終試験

提出された博士学位申請論文の審査及び博士課程最終試験（口述）に合格しなければならない。

課程博士の学位審査基準

1. 研究対象と目的が明確であり、それに応じた適切な研究方法が用いられていること。
2. 研究対象に関わる先行研究が、網羅的かつ体系的に纏められ、そこに学位申請者の研究が位置づけられていること。
3. 研究資料の調査と収集が適切であり、分析と考察が論理的・実証的に適切であること。
4. 新しい知見と独創的な観点からの結論があり、かつ当該領域の学界で評価された学位申請者の研究が含まれていること。
5. 研究成果が当該分野の研究に寄与し、その分野の研究を進展させる内容であること。
6. 研究目的・方法・内容などが、研究倫理を遵守していること。
7. 学位申請者が当該分野における幅広く深い知識を持ち、その分野において指導的な役割を果たすことができる優れた能力を持つと認められること

第3項 開講講座表

開講講座表には、授業科目・担当教員・開講等の授業に関する重要な情報を記載しています。

博士後期課程

(経済学専攻)

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
理論経済学研究Ⅰ	理論経済学研究AⅠ	講義	教 授	博士(経済学・一橋大学)	細 谷 圭	
	理論経済学研究BⅠ	講義	教 授	博士(経済学・一橋大学)	細 谷 圭	
理論経済学研究Ⅱ	理論経済学研究AⅡ	講義				休講
	理論経済学研究BⅡ	講義				休講
経済学史研究Ⅰ	経済学史研究AⅠ	講義				休講
	経済学史研究BⅠ	講義	教 授		尾 近 裕 幸	
貨幣金融研究Ⅰ	貨幣金融研究AⅠ	講義				休講
	貨幣金融研究BⅠ	講義	教 授	博士(経済学・國學院大學)	木 村 秀 史	
貨幣金融研究Ⅱ	貨幣金融研究AⅡ	講義	教 授	Ph.D. (Economics・Massachusetts Institute of Technology)	齊 藤 誠	
	貨幣金融研究BⅡ	講義				休講
財政学研究Ⅰ	財政学研究AⅠ	講義				休講
	財政学研究BⅠ	講義				休講
財政学研究Ⅱ	財政学研究AⅡ	講義				休講
	財政学研究BⅡ	講義	教 授	博士(経済学・國學院大學)	根 岸 毅 宏	
経済政策研究Ⅰ	経済政策研究AⅠ	講義				休講
	経済政策研究BⅠ	講義				休講
経済政策研究Ⅱ	経済政策研究AⅡ	講義				休講
	経済政策研究BⅡ	講義	教 授		林 行 成	
経済政策研究Ⅲ	経済政策研究AⅢ	講義				休講
	経済政策研究BⅢ	講義				休講
経済政策研究Ⅳ	経済政策研究AⅣ	講義	教 授	博士(理学・東北大学)	山 本 健 太	
	経済政策研究BⅣ	講義				休講
国際経済研究Ⅰ	国際経済研究AⅠ	講義				休講
	国際経済研究BⅠ	講義	教 授		高 橋 克 秀	
国際経済研究Ⅱ	国際経済研究AⅡ	講義	教 授		中 馬 祥 子	
	国際経済研究BⅡ	講義				休講
国際経済研究Ⅲ	国際経済研究AⅢ	講義				休講
	国際経済研究BⅢ	講義	教 授	博士(経営学・立命館大学)	細 井 長	
社会政策研究Ⅰ	社会政策研究AⅠ	講義	教 授		水無田気流	
	社会政策研究BⅠ	講義				休講
社会政策研究Ⅱ	社会政策研究AⅡ	講義				休講
	社会政策研究BⅡ	講義	教 授		中 泉 真 樹	
社会政策研究Ⅲ	社会政策研究AⅢ	講義				休講
	社会政策研究BⅢ	講義	教 授	文学博士(上智大学)	小 木 曾 道 夫	
社会政策研究Ⅳ	社会政策研究AⅣ	講義				休講
	社会政策研究BⅣ	講義	教 授	博士(学術・東京大学)	田 原 裕 子	
社会政策研究Ⅴ	社会政策研究AⅤ	講義				休講
	社会政策研究BⅤ	講義	教 授	博士(経済学・大阪市立大学)	大 西 祥 恵	
統計学研究	統計学研究A	講義	教 授		高 橋 克 秀	
	統計学研究B	講義				休講
経済史研究Ⅰ	経済史研究AⅠ	講義				休講
	経済史研究BⅠ	講義	教 授	博士(経済学・東京大学)	杉 山 里 枝	
経済史研究Ⅱ	経済史研究AⅡ	講義	准 教 授		尾 崎 麻 弥 子	
	経済史研究BⅡ	講義				休講
計量経済学研究	計量経済学研究A	講義				休講
	計量経済学研究B	講義				休講
経営学研究Ⅰ	経営学研究AⅠ	講義	教 授	博士(経営学・東北大学)	星 野 広 和	
	経営学研究BⅠ	講義	教 授	博士(商学・一橋大学)	尾 田 基	

令和元年度以前入学 授業科目	令和2年度以降入学 授業科目	区分	職名	学位	教員名	備考
経営学研究Ⅱ	経営学研究AⅡ	講義				休講
	経営学研究BⅡ	講義	教授	博士（経営学・東北大学）	星野 広和	
経営学研究Ⅲ	経営学研究AⅢ	講義	教授	博士（経済学・国学院大学）	小野 正人	
	経営学研究BⅢ	講義				休講
経営学研究Ⅳ	経営学研究AⅣ	講義				休講
	経営学研究BⅣ	講義	教授		野村 一夫	
経営学研究Ⅴ	経営学研究AⅤ	講義	准教授		藤山 圭	
	経営学研究BⅤ	講義				休講
経営学研究Ⅵ	経営学研究AⅥ	講義	准教授		芳賀 英明	
	経営学研究BⅥ	講義				休講
経営学研究Ⅶ	経営学研究AⅦ	講義				休講
	経営学研究BⅦ	講義	教授	博士（経済学・国学院大学）	宮下 雄治	
経営学研究Ⅷ	経営学研究AⅧ	講義	教授	博士（学術・東京大学）	手塚 貞治	
	経営学研究BⅧ	講義				休講
経営学研究Ⅸ	経営学研究AⅨ	講義				休講
	経営学研究BⅨ	講義	教授	博士（工学・東京工業大学）	鈴木 智之	
会計学研究Ⅰ	会計学研究AⅠ	講義				休講
	会計学研究BⅠ	講義	准教授		東海林 孝一	
会計学研究Ⅱ	会計学研究AⅡ	講義				休講
	会計学研究BⅡ	講義				休講
会計学研究Ⅲ	会計学研究AⅢ	講義				休講
	会計学研究BⅢ	講義				休講
経営史研究	経営史研究A	講義				休講
	経営史研究B	講義				休講

第6章 高度博物館学、考古調査士、教育職員免許状

第1節 高度博物館学教育プログラム

高度博物館学教育プログラムとは

本プログラムは、学芸員資格取得者を対象とし、高度で専門的な知識と技術、そして実践力を兼ね備えた人材の育成を目的としています。前期課程又は後期課程を修了（又は所定単位を修得して退学）し、博物館学の授業科目を履修し、所定の条件を満たすことに加え、口頭試問に合格することで、國學院大學が独自に認定する「國學院ミュージアム・アドミニストレーター」又は「國學院ミュージアム・キュレーター」の資格を取得することができます。

なお、プログラムの履修条件として以下の実習への参加が求められます。

●前期課程

「博物館学専門実習AⅠ・BⅠ」（学内インターンシップ）又は「博物館学専門実習AⅡ・BⅡ」（学外インターンシップ）

●後期課程

1年次に「博物館学特殊実習AⅠ・BⅠ」（学内インターンシップ）又は「博物館学特殊実習AⅡ・BⅡ」（学外インターンシップ）

これらの実習科目は、いずれか一方（A・Bのセット）の履修が必須ですが、両方を履修することも可能です。

履修説明会について

高度博物館学教育プログラムの履修説明会は、毎年4月のオリエンテーション期間中に実施します。この説明会では、受講条件、インターンシップの概要、年間スケジュール等を説明します。日時については、大学院事務課にて確認してください。

史学専攻博物館学コース専攻以外の学生による履修について

本大学院史学専攻の博物館学コース以外の学生も、主専攻に加えて本プログラムを複専修することで、独自資格の取得が可能です。ただし、修了要件以外の科目を履修する必要があるため、履修にあたっては必ず指導教員の許可を得てください。

高度博物館学教育プログラム履修科目一覧

年次	授業科目	開講時期	単位	必修・選択	区分	備考
修士 1年次	論文指導演習A	半期	2	必修	☆	
	論文指導演習B	半期	2	必修	☆	
	資料保存展示論研究A（演習）	半期	2	必修	☆・△	
	資料保存展示論研究B（演習）	半期	2	必修	☆・△	
	地域博物館論研究A（演習）	半期	2	必修	☆・△	
	地域博物館論研究B（演習）	半期	2	必修	☆・△	
	博物館史特論（講義）	半期	2	選択必修	※	
	欧米博物館史特論（講義）	半期	2	選択必修	※	
	博物館学史特論（講義）	半期	2	選択必修	※	
	博物館関係法規特論（講義）	半期	2	必修	※	
	博物館資料論特論AⅠ（金工）（講義）	半期	2	選択必修	※	
	博物館資料論特論AⅡ（有職）（講義）	半期	2	選択必修	※	

修士 2 年次	論文指導演習A	半期	2	必修	☆	
	論文指導演習B	半期	2	必修	☆	
	資料保存展示論研究A（演習）	半期	2	必修	☆・△	
	資料保存展示論研究B（演習）	半期	2	必修	☆・△	
	博物館学専門実習A I（実習）	半期	2	選択必修	☆・△	（注1）
	博物館学専門実習B I（実習）	半期	2	選択必修	☆・△	（注1）
	博物館学専門実習A II（実習）	半期	2	選択必修	☆・△	（注2）
	博物館学専門実習B II（実習）	半期	2	選択必修	☆・△	（注2）
	地域博物館論研究A（演習）	半期	2	選択	※	
	地域博物館論研究B（演習）	半期	2	選択	※	
	博物館経営特論（講義）	半期	2	選択	※	
	博物館教育活動特論（講義）	半期	2	選択	※	
	展示工学特論（講義）	半期	2	選択必修	※	
	博物館資料論特論B I（民俗）（講義）	半期	2	選択必修	※	
	博物館資料論特論B II（考古）（講義）	半期	2	選択必修	※	
修士 3 年次	論文指導演習A	半期	2	必修	★	
	論文指導演習B	半期	2	必修	★	
	資料保存展示論特殊研究A（演習）	半期	2	必修	★・▼	
	資料保存展示論特殊研究B（演習）	半期	2	必修	★・▼	
	地域博物館論特殊研究A（演習）	半期	2	選択		
	地域博物館論特殊研究B（演習）	半期	2	選択		
	博物館学特殊実習A I（実習）	半期	2	選択必修	★・▼	（注1）
	博物館学特殊実習B I（実習）	半期	2	選択必修	★・▼	（注1）
	博物館学特殊実習A II（実習）	半期	2	選択必修	★・▼	（注2）
	博物館学特殊実習B II（実習）	半期	2	選択必修	★・▼	（注2）
修士 4 年次	論文指導演習A	半期	2	必修	★	
	論文指導演習B	半期	2	必修	★	
	資料保存展示論特殊研究A（演習）	半期	2	必修	★・▼	
	資料保存展示論特殊研究B（演習）	半期	2	必修	★・▼	
	地域博物館論特殊研究A（演習）	半期	2	選択		
	地域博物館論特殊研究B（演習）	半期	2	選択		
修士 5 年次	論文指導演習A	半期	2	必修	★	
	論文指導演習B	半期	2	必修	★	

【区分・備考】

☆…博物館学コース履修者のアドミニストレーター資格取得必修科目（20単位）

△…複専修履修者のアドミニストレーター資格取得必修科目（16単位：内8単位は修了要件単位数として認定する。）

※…博物館学コース履修者は、※印の科目を修了時まで5科目10単位以上修得すること。ただし、アドミニストレーター資格取得希望者は、選択必修科目から5科目10単位以上を修得すること。

★…博物館学コース履修者のキュレーター資格取得必修科目（24単位）

▼…複専修履修者のキュレーター資格取得必修科目（12単位）

注1…学内インターンシップ

注2…夏期集中授業及び学外インターンシップ

【口頭試問・資格取得申請期間】

- ・アドミニストレーター及びキュレーターの資格取得には、口頭試問の合格が必要です。
- ・アドミニストレーター資格の取得は、前期課程修了後3年以内に申請することができます。
- ・キュレーター資格の取得は、後期課程修了後又は所定単位修得退学後3年以内に申請できます。

【國學院ミュージアム・キュレーター資格取得条件】

博士後期課程では、教育プログラム全体の中で、応用・展開プロセスに位置付けられる博物館学科目群（実習授業・調査実務・海外インターンシップ等を含む）を履修することによって、博物館運営能力に加えて国内外の博物館をめぐる社会状況を知悉し、社会における教育・文化のコーディネーターとしてのリーダーシップを発揮できる者に、「國學院ミュージアム・キュレーター」を授与します。その資格の取得要件は、下記の通りです。

1. 「國學院大學ミュージアム・アドミニストレーター」を有する者（同時取得は可能）。
2. 「資料保存展示論特殊研究A・B」及び「地域博物館論特殊研究A・B」（各2単位）、並びに国内外インターンシップ及び学外調査実習を含む「博物館学特殊実習A・B」（各2単位）の計12単位を修得した者。
3. 博物館学及び関連学術分野に関する研究業績を合計2件以上有し、それらの各業績の評価点数（別表）の合計が30点以上である者。
4. 「國學院ミュージアム・キュレーター」資格の口頭試問に合格した者。

「國學院ミュージアム・キュレーター」資格取得にかかる研究業績種別点数表

※博士後期課程在学中に博物館学及び関連学術分野に関する研究業績の合計点数が30点以上である必要があります。

※「博物館学特殊実習A・B」に含まれるインターンシップは、業績点数に計算されません。

活動の種類		点数	件数	点数計
第1項目 学位論文				
①	博士論文	15		
第2項目 対外学術活動				
②	学会からの表彰・受賞	10		
③	学術著書（単著）	15		
④	学術雑誌等への掲載論文（査読誌・国際学会）	10		
⑤	学術雑誌等への掲載論文（非査読誌）	6		
⑥	研究ノート・調査報告等（単著）	6		
⑦	翻訳・翻刻・資料紹介（単著）	5		
⑧	学術論文・調査報告等の分担執筆	3		
⑨	翻訳・翻刻・資料紹介の分担執筆	3		
⑩	国際学会における発表（単独・筆頭）	8		
⑪	国内の学会・シンポジウム等における発表（単独・筆頭）	4		
第3項目 実務経験				
⑫	博物館における学芸業務勤務経験（通年）	5		
⑬	博物館におけるボランティア等（通年）	3		
		合計	件	点

第2節 考古調査士資格

考古調査士資格とは

考古調査士資格とは、全国の加盟大学で構成される「考古調査士認定機構」によって認定・授与される民間資格で、埋蔵文化財の調査・保存・活用に関する専門的な知識と技術を有することを証明するものです。本学はこの認定機構に加盟しており、所定の科目を履修し、必要な単位を修得した学生は、考古調査士資格を申請し取得できます。本学では、2級考古調査士資格を取得するための「学部コース」、1級考古調査士資格を取得するための「大学院コース」を設置しています。

資格科目と履修単位の条件

大学院コースの資格科目は、以下のとおりです。

第2群：「歴史考古学研究A・B」「先史考古学特論AⅡ・BⅡ」

第3群：「先史考古学特論A」「歴史考古学特論AⅡ・BⅡ」「日本考古学特論B」

第5群：「文化財学特論B」

第6群：「環境考古学特論A・B」

1級考古調査士資格を取得するには、上記の資格科目から4科目8単位以上を修得する必要があります。1級資格を申請するには、2級資格を保有していること、または2級資格相当の単位を取得していることが条件となります。ただし、1級資格と2級資格を同時に申請することはできません。

資格の申請手続き

資格の申請を希望する場合、認定機構が定める手続きに従い、資格科目の単位修得を証明する「成績証明書」を大学から取得し、必要書類とともに「考古調査士資格認定機構事務局」に提出してください（電子申請）。認定機構内の資格審査専門委員会による審査後に、資格認定証が送付されます。なお、1級資格の申請には申請料30,000円が必要です。

申請手続きのほか、考古調査士資格についての詳細は、考古調査士資格認定機構事務局のHP（<https://www.jabar.jp/>）をご確認ください。

第3節 教育職員免許状（大学院学則第39条）

1. 教員免許状の種類と教科

本大学院の各研究科・各専攻において認定課程として認められている教員免許状の種類及び教科については、「学則第39条別表（本便覧77頁参照）」に記載されています。

2. 専修免許状取得の要件

本学大学院に在籍する学生が、教育職員免許法に定める中学校教諭及び高等学校教諭の専修免許状を授与されるためには、以下の要件を満たす必要があります。

《取得要件》

① 希望する教科の第一種免許状を取得していること。（教育職員免許法第5条別表1による免許取得に限ります。）

② 修士の学位を有すること。

＊大学院入学後に第一種免許状の取得を希望する場合

- ・学部の科目等履修生として必要単位を修得し、教職センターにて申請手続を行うこと。
- ・専修免許状申請については、大学院事務課窓口で確認すること。

3. 専修免許状の申請方法

専修免許状の申請には以下の2つの方法があります。

《大学一括申請》

前期課程修了時に専修免許状の授与を受けようとする者に、大学が代行して東京都教育委員会に申請する方法です。一括申請対象者の要件は以下のとおりです。

① 博士前期課程2年次終了時までに第一種免許状を取得している者、又は博士前期課程2年次の7月末日までに取得可能な者。

② 博士前期課程 2 年次の 7 月までに修了見込みが出る者。

＊ 2 年次に修了要件を満たすよう履修登録を行い、かつ 5 月 31 日締切の修士学位申請論文題目届を提出している者

◇一括申請のスケジュール

- ・ 博士前期課程 2 年次 7 月頃
一括申請説明会：所持している免許状のコピーを提出し、調査票の記入・提出者のみ一括申請可能。
- ・ 博士前期課程 2 年次 10 月中旬～ 12 月上旬
授与申請確認：大学院事務課での手続き（誓約書の記入、手数料の納入、個人データ確認等）
- ・ 博士前期課程 2 年次 3 月中旬
専修免許状授与：学位記授与式当日に大学より本人に交付

《個人申請》

博士前期課程 2 年次の 7 月までに一括申請の要件（上記①及び②）を満たせない学生は、修了年の 4 月 1 日以降に、各自が居住する「都道府県教育委員会」に申請し、専修免許状を受け取ることができます。

4. 単位の修得

専修免許状を取得するためには、専攻ごとの科目一覧に定める科目から 24 単位以上を修得する必要があります。

《注意事項》

- ① 表中にない科目を修得しても免許状申請単位には使用できません。
- ② 同一科目を修得しても、免許状申請単位として換算されません。
- ③ 一覧表には休講科目も含まれているため、履修時には注意が必要です。
- ④ 学部在学時に先取履修で修得した単位は、免許状申請単位として認められません。

【重要】・ 本便覧に記載されている科目一覧は、令和 7 年度入学者のみ適用されます。

- ・ 令和 6 年度以前に入学した学生は、入学年度に定められた科目が適用されるため、入学時に配布された便覧に沿って履修してください。

【文学専攻】

◆演習科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
日本上代文学研究A	2	日本近代語研究A	2
日本上代文学研究B	2	日本近代語研究B	2
日本中古文学研究A	2	日本現代語研究A	2
日本中古文学研究B	2	日本現代語研究B	2
日本中世文学研究A	2	中国文学研究A	2
日本中世文学研究B	2	中国文学研究B	2
日本近世文学研究A	2	伝承文学研究A	2
日本近世文学研究B	2	伝承文学研究B	2
日本近現代文学研究A	2	日本語教育研究A	2
日本近現代文学研究B	2	日本語教育研究B	2
日本古代語研究A	2	国語教育実践研究A	2
日本古代語研究B	2	国語教育実践研究B	2
◆講義科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
日本文学史研究A	2	日中古典比較研究A	2
日本文学史研究B	2	日中古典比較研究B	2
日本文学特論A	2	漢文学研究A	2
日本文学特論B	2	漢文学研究B	2
日本語語法学A	2	日本古典研究A	2
日本語語法学B	2	日本古典研究B	2
日本語学史A	2	日本語音声学A	2
日本語学史B	2	日本語音声学B	2
日本語音韻史A	2	応用言語学A	2
日本語音韻史B	2	応用言語学B	2
日本語学特論A	2	日本語教授法実践	2
日本語学特論B	2	日本語教授法研究	2
中国文学史研究A	2	日本語教育教材研究A	2
中国文学史研究B	2	日本語教育教材研究B	2
中国文学特論A	2	第二言語習得論A	2
中国文学特論B	2	第二言語習得論B	2
伝承文学史A	2	国語教育学研究A	2
伝承文学史B	2	国語教育学研究B	2
伝承文学特論A	2	教科書研究A	2
伝承文学特論B	2	教科書研究B	2
学校文法体系論A	2	教育法規研究A	2
学校文法体系論B	2	教育法規研究B	2
日本文学研究A	2	教育方法学研究A	2
日本文学研究B	2	教育方法学研究B（講義）	2

【史学専攻】

◆演習科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
日本古代史研究A	2	東洋史研究A	2
日本古代史研究B	2	東洋史研究B	2
日本中世史研究A	2	西洋史研究A	2
日本中世史研究B	2	西洋史研究B	2
日本近世史研究A	2	先史考古学研究A	2
日本近世史研究B	2	先史考古学研究B	2
日本近現代史研究A	2	歴史考古学研究A	2
日本近現代史研究B	2	歴史考古学研究B	2
歴史地理学研究A	2	外国考古学研究A	2
歴史地理学研究B	2	外国考古学研究B	2
比較地誌学研究A	2	理論考古学研究A	2
比較地誌学研究B	2	理論考古学研究B	2
地図学研究A	2	美術史研究A	2
地図学研究B	2	美術史研究B	2
◆講義科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
日本古代史特論A	2	日本史研究A	2
日本古代史特論B	2	日本史研究B	2
日本近世史特論A	2	東洋史特論A	2
日本近世史特論B	2	東洋史特論B	2
日本近現代史特論A	2	史科学特論A	2
日本近現代史特論B	2	史科学特論B	2
地図学特論A	2	教育法規研究A	2
地図学特論B	2	教育法規研究B	2
比較地誌学特論A	2		
比較地誌学特論B	2		

【神道学・宗教学専攻】

◆演習科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
神道神学研究A	2	神道古典研究A	2
神道神学研究B	2	神道古典研究B	2
神道史研究A	2	宗教学研究A	2
神道史研究B	2	宗教学研究B	2
神社史研究A	2	宗教社会学研究A	2
神社史研究B	2	宗教社会学研究B	2
◆講義科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
神道思想史研究A	2	キリスト教研究A	2
神道思想史研究B	2	キリスト教研究B	2
祭祀研究A	2	神社教化研究A	2
祭祀研究B	2	神社教化研究B	2
宗教哲学研究A	2	教育法規研究A	2
宗教哲学研究B	2	教育法規研究B	2
仏教研究A	2		
仏教研究B	2		

【法律学専攻】

◆講義科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
日本法制史研究A	2	民事訴訟法研究A	2
日本法制史研究B	2	民事訴訟法研究B	2
外国法研究A	2	商法研究A	2
外国法研究B	2	商法研究B	2
憲法研究A	2	労働法研究A	2
憲法研究B	2	労働法研究B	2
行政法研究A	2	政治学研究A	2
行政法研究B	2	政治学研究B	2
国際法研究A	2	行政学研究A	2
国際法研究B	2	行政学研究B	2
刑法研究A	2	日本政治史研究A	2
刑法研究B	2	日本政治史研究B	2
刑事訴訟法研究A	2	西洋政治思想史研究A	2
刑事訴訟法研究B	2	西洋政治思想史研究B	2
刑事政策研究A	2	日本政治思想史研究A	2
刑事政策研究B	2	日本政治思想史研究B	2
民法研究A	2	教育法規研究A	2
民法研究B	2	教育法規研究B	2

【経済学専攻】

◆講義科目			
科目名	単位数	科目名	単位数
理論経済学特論A	2	経済史特論A	2
理論経済学特論B	2	経済史特論B	2
経済学史特論A	2	経営学特論A	2
経済学史特論B	2	経営学特論B	2
貨幣金融特論A	2	会計学特論A	2
貨幣金融特論B	2	会計学特論B	2
財政学特論A	2	税務特論A	2
財政学特論B	2	税務特論B	2
経済政策特論A	2	税法総論A	2
経済政策特論B	2	税法総論B	2
国際経済特論A	2	教育法規研究A	2
国際経済特論B	2	教育法規研究B	2
社会政策特論A	2		
社会政策特論B	2		

第7章 学籍に関する届け出、証明書等

第1節 各種変更届について

住所、氏名、本籍、保証人に変更があった場合は、K-SMAPYⅡを通じて速やかに届け出る必要があります。本籍や氏名を変更された場合には、戸籍抄本を添付のうえ、窓口へ届け出てください。

外国人留学生の場合は、上記の変更に加え、在留資格及び在留期間の更新時に「住民票」を提出する必要があります。

第2節 休学・復学・退学・再入学について

休学・復学（大学院学則第26条参照）

- ① 病気その他の理由で休学を希望する場合、所定の用紙に保証人の連署と捺印をして願い出なければなりません。
(休学願出期限：前期及び当該年度…6月末日、後期…12月の所定期日)
- ② 休学期間は当該年度に限り、年度をまたいで申請することはできません。次年度も引き続き休学する場合は、改めて休学手続を行う必要があります。
- ③ 休学期間は在学期間には算入されません。
- ④ 休学期間中は、休学在籍料を納入しなければなりません。
- ⑤ 休学中の者は、所定の期日（7月末日・1月末日）までに復学、休学又は退学の手続きを行う必要があります。

退学・再入学

- ① 病気その他の理由で退学を希望する場合、所定の用紙に保証人連署と捺印をして願い出なければなりません。
- ② 退学後に再入学を希望する場合は、春季入学試験の受験出願期間（1月下旬）に、所定の書類を添えて願い出る必要があります。（詳細は本便覧77頁「再入学に関する規程」を参照）
- 必要書類
再入学願、研究課題、研究要旨、退学後の研究成果物、受験料その他必要書類

第3節 長期履修制度

本学では、職業を有する方や育児・介護中の方、または心身の障がいなどにより十分な学修時間を確保できない方々に配慮し、長期履修制度を導入しています。長期履修制度は、博士前期課程（修士課程）のすべての研究科（文学研究科・法学研究科・経済学研究科）で利用可能です。ただし、博士後期課程では利用できません。

この制度が適用されると、博士前期課程の通常の標準修業年限（2年）が、3年または4年に延長されます。また、年間の学費等納付金の負担を軽減することができ、修了までに必要な学費等納付金は、通常の場合と同程度に維持されます。この制度を活用することで、より長期的な視点で研究計画を立て、学修を進めることが可能です。

「長期履修制度」の詳細は、以下のQRコードから閲覧可能です。



第4節 博士前期課程9月修了について

博士前期課程の学生は、前期終了時に本学大学院学則第8条第1項に定める修了要件を満たすことで、9月修了が可能です。(國學院大學大学院 博士前期課程(修士課程) 9月修了の取り扱いに関する規程を参照のこと)

9月修了に関する詳細な日程は大学ホームページで確認でき、9月修了願はSharePointに掲載します。

第5節 学割証・健康診断証明書の発行について

証明書自動発行機(若木タワー 1・2階に設置)を利用し、即日で発行することができます。

《証明書自動発行機操作方法》

- ① 学生証を発行機のリーダーに読み取らせる、または学籍番号を入力します。
- ② パスワード(本人届出の携帯電話番号の下4桁)を入力します。
- ③ 画面で「学割/健康診断」を選び、学割証又は健康診断証明書を選択し、必要金額を投入します。

学割証の発行は1日2枚、年間10枚を限度とし、有効期間は発行日から3ヵ月です。なお、毎年大学で実施する健康診断を受診していない学生は、これらの証明書は発行できません。

第6節 各種証明書の発行について

1. 下表の各種証明書は、大学院事務課が発行します。
2. 即日交付の証明書は証明書自動発行機で発行することができます。
交付に日数を要する証明書については、証明書自動発行機で申請書を購入し、大学院事務課に提出してください。

《証明書自動発行機操作方法》

即日発行が可能な証明書は「第5節 学割証・健康診断証明書の交付について」記載の操作方法で手続きが可能です。

大学院事務課にて等、日数を要する証明書については、パスワード（本人届出の電話番号の下4桁）入力後、以下の操作を行ってください。

- ① 画面の中から「申請書／申込書」のアイコンを選択します。
 - ② 「大学院—自動発行外和文証明書発行申請書（300円）」もしくは「同英文：（300円）」の申請書を選び、金額を投入します。
3. 即日交付以外の証明書は、申込から5業務日後を目安に交付されます。ただし、英文証明書は7業務日以上かかります。また、夏季・冬季・春季休暇中は、他の証明書も発行に日数を要することがありますので注意してください。
 4. 証明書コンビニエンスストア発行サービスについては、大学ホームページを参照してください。

（掲載場所）

國學院大學ホームページ：

トップページ>在学生・保証人（ご父母等）の方へ>証明書発行>証明書コンビニエンスストア発行サービス

<https://www.kokugakuin.ac.jp/student/materials/certificate> 1



証明書種別	発行までの日数	在学生	修了・退学者	備考
在学証明書（和文）	即時	300円	—	証明書自動発行機で即時発行
在学証明書（英文）				
成績証明書（和文）	平成15年度以降入学者即時	300円	500円	平成15年度以降入学者は証明書自動発行機で即時発行
成績証明書（英文）				
修了証明書	平成14年度以前入学者は5業務日後以降	—	500円	※後期課程の修了見込証明書は【大学院事務課にて発行】。 （中間報告書提出者のみ発行可能）
修了見込証明書 （前期課程）		300円	—	
修了見込証明書 （後期課程）※				
単位修得証明書 （所定単位修得退学証明書）		—	500円	
単位修得見込証明書 （所定単位修得退学証明書）		300円	—	
退学証明書	5業務日後以降	—	500円	【大学院事務課にて発行】
学力に関する証明書 （旧単位修得証明書）		500円	500円	旧単位修得証明書【大学院事務課にて発行】
教員免許状取得見込証明書		300円	—	教員免許一括申請者のみ発行可。【大学院事務課にて発行】
留学生証明書			500円	
調査書（人物調査書）				
英文証明書	7業務日以降	300円	500円	

※注1 在学生の場合、毎年4月中旬に実施される健康診断を受診していない学生は、上記証明書の発行することはできないので注意のこと。

※注2 修了見込証明書、単位修得見込証明書は6月下旬以降に発行が可能になります。

※注3 修了後に証明書が必要な場合、在学当時の学籍番号及びパスワード（本人届出の携帯電話番号の下4桁）が必要です。前期課程、後期課程でそれぞれ学籍番号が異なるので注意してください。

第8章 國學院大學大学院学則及び諸規程

第1節 國學院大學大学院学則

「國學院大學大学院学則」は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。
(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 國學院大學について > 大学紹介 > 学則

<https://www.kokugakuin.ac.jp/about/introduction/p28>



第2節 諸規程

以下の諸規程は、國學院大學ホームページから閲覧可能です。

- 國學院大學学位規則
- 國學院大學大学院博士前期課程（修士課程）長期履修の取扱いに関する規程（大学院学則第3条第6項及び第7項）
- 國學院大學大学院入学以前の既修得単位及び履修科目の単位の認定に関する規程（大学院学則第21条）
- 國學院大學大学院博士前期課程（修士課程）9月修了の取扱いに関する規程
- 再入学に関する規程（大学院学則第27条第2項）
- 國學院大學大学院奨学金制度規程（大学院学則第38条）
- 國學院大學大学院特別研究員規程（大学院学則第34条）
- 國學院大學大学院特別研究員への研究費助成に関する内規
- 國學院大學大学院特別研究生規程（大学院学則第30条）
- 國學院大學大学院聴講生規程（大学院学則第32条）
- 國學院大學大学院科目等履修生規程（大学院学則第33条）
- 國學院大學大学院博士課程後期単位修得者の学費、及び再入学者の学費等減免に関する規程
- 本学出身者の大学院入学金及び施設設備費減免に関する内規
- 國學院大學大学院私費外国人留学生の授業料減免に関する規程
- 國學院大學大学院私費外国人留学生の授業料減免に関する内規
- 國學院大學大学院学生協定留学及び認定留学に関する規程
- 國學院大學大学院協定留学及び認定留学奨学金制度に関する規程
- 大学院学生研究室規程
- 國學院大學大学院国際交流旅費補助に関する規程
- 國學院大學大学院経済学研究科税理士試験支援奨学金制度規程
- 國學院大學情報ネットワーク利用規程

(掲載場所)

國學院大學ホームページ：

トップページ > メニュー > 教育 > 大学院 > 在学生の方へ

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate/curriculum#04>



<集中講義>

・集中講義を履修登録する場合には、K-SMAPYⅡの時間割外科科目を選択のこと。

・実施予定日が変更される場合は、別途掲示にて告知する。

*前期

(R2～入学者) 授業コード	授業科目名	開講時期	担当教員	開講予定日	開講予定時限
X701	日本伝承文化実習（実習）	前期	大石 泰夫		詳細は決まり次第、告知する。
X702	日本文学特論AⅡ（講義）	前期	森野 正弘	令和7年7月23日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月24日（木）	
				令和7年7月25日（金）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月26日（土）	
X703	中国文学史研究A（講義）	前期	浅見 洋二	令和7年7月28日（月）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月29日（火）	
				令和7年7月30日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月31日（木）	
X704	民俗学特論AⅣ（講義）	前期	林 承緯	令和7年7月23日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月24日（木）	4時限（14:30-16:00）～ 6時限（17:50-19:20）
				令和7年7月25日（金）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月26日（土）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
X705	教科書研究A（講義）	前期	幸田 国広	令和7年7月28日（月）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月29日（火）	
				令和7年7月30日（水）	3時限（12:50-14:20）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月31日（木）	
X706	日本語教授法実践（講義）	前期	河内 彩香	令和7年7月23日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月24日（木）	
				令和7年7月25日（金）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月26日（土）	
X707	日本語教育教材研究A（講義）	前期	伊藤 孝行	令和7年7月28日（月）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月29日（火）	
				令和7年7月30日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月31日（木）	
X711	日本近代史特論BⅠ（講義）	前期	徐 顕芬	令和7年7月25日（金）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月28日（月）	
				令和7年7月29日（火）	
				令和7年7月30日（水）	
X712	日本考古学特論A（講義）	前期	福尾 正彦	令和7年7月31日（木）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月28日（月）	
				令和7年7月29日（火）	
				令和7年7月30日（水）	
X713	考古学実習B（実習）	前期	青木 敬		詳細は決まり次第、告知する。
X714	芸術学特論AⅠ（講義）	前期	田中 潤	令和7年7月23日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月24日（木）	
				令和7年7月25日（金）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和7年7月26日（土）	
X715	博物館経営特論（講義）	前期	井上 洋一	令和7年7月29日（火）	1時限（8:50-10:20）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和7年7月30日（水）	
				令和7年7月31日（木）	1時限（8:50-10:20）～ 6時限（17:50-19:20）

*後期

(R2～入学者) 授業コード	授業科目名	開講時期	担当教員	開講予定日	開講予定時限
Y701	日本文学特論BⅡ（講義）	後期	森野 正弘	令和8年1月26日（月）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和8年1月27日（火）	
				令和8年1月28日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和8年1月29日（木）	
Y702	中国文学史研究B（講義）	後期	浅見 洋二	令和8年1月21日（水）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和8年1月22日（木）	
				令和8年1月23日（金）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和8年1月24日（土）	
Y703	伝承文学特論BⅡ（講義）	後期	小川 直之		詳細は決まり次第、告知する。
Y704	教科書研究B（講義）	後期	幸田 国広	令和8年1月26日（月）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和8年1月27日（火）	
				令和8年1月28日（水）	3時限（12:50-14:20）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和8年1月29日（木）	
Y705	日本語教育教材研究B（講義）	後期	伊藤 孝行	令和8年1月27日（火）	2時限（10:30-12:00）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和8年1月28日（水）	
				令和8年1月29日（木）	2時限（10:30-12:00）～ 4時限（14:30-16:00）
				令和8年1月30日（金）	
Y711	博物館関係法規特論（講義）	後期	栗原 祐司	令和8年1月22日（木）	2時限（10:30-12:00）～ 6時限（17:50-19:20）
				令和8年1月23日（金）	
				令和8年1月24日（土）	
Y712	文化財学特論B（講義）	後期	井上 洋一	令和8年1月28日（水）	1時限（8:50-10:20）～ 5時限（16:10-17:40）
				令和8年1月29日（木）	
				令和8年1月30日（金）	

<アーカイブズ・カレッジ>

(R2～入学者) 授業コード	授業科目名	開講時期	担当教員	開講予定日
X716/Y713	史料管理学A・B（講義）	前期/後期	岩橋 清美	シラバスを参照すること。

<履修上の注意>

- 注1） 授業科目の前にある4桁の数字は授業コード。入学年度、課程、研究科により科目名称が異なる場合があるので、履修登録の際には「授業科目と担当教員」の頁を参照のこと。
- 注2） 上記の科目一覧は集中講義（予定）となる。7月・1月の短期間に集中して講義を行うので、多くの科目を履修できない場合がある。
- 注3） 時間割にはないが、「論文指導演習」または「研究指導」も登録すること。入学年度、課程、研究科により名称が異なるので、入学年度の便覧を参照すること。
- 注4） 前期と後期で開講曜時が異なる場合があるので注意すること。
- 注5） 専修免許状の取得を希望する場合は、学生便覧の「教育職員免許状について」を参照すること。
- 注6） 博物館学コース受講者は、オリエンテーション期間に開催する説明会に出席すること（詳細はメールあるいは大学院掲示板にて告知する）。
- 注7） 学部等の科目を履修する場合は、事務課にある所定の履修届により登録すること。ただし、履修できない科目があるので事前に確認すること。
- 注8） 履修登録期間、単位認定方法については事務課よりメールあるいは大学院掲示板にて告知する。

令和7年（2025）4月発行

大学院学生便覧

國學院大學大学院

〒150-8440 東京都渋谷区東 4-10-28

TEL (03) 5466-0142 (直通電話)

<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate>